2019年度

シ　ラ　バ　ス

桐生大学　短期大学部

生活科学科

講義コード	30010001
講義名	歴史と文化
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C010
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

歴史を理解するにあたっては、過去の事柄を知るだけでなく現代と結びつけて理解することが大切です。授業では、日本の戦国時代末期から近代日本が確立する明治末期までの時期を中心に説明します。授業の形態は、講義形式で行いますが、理解を確認するために授業時に「確認プリント」等を実施する予定です。本科目は、歴史を学ぶことを通して、人間や社会に対する理解を深めていくことを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、１．私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している、という項目と関連しています。本講義を通じて、日本社会に対する理解を深め、私たちの身近な問題を歴史的に、さらに科学的・多面的に理解することできるようになること目指します。

到達目標

日本の封建社会から近代社会への移行期を学ぶことによって、その後の日本の方向性、さらには今日との関係について考えることができるようになることを目標とします。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	大航海時代の世界と日本	オリエンテーション（授業内容、授業の進め方、成績評価等） 大航海時代の世界状況と日本について学びます。	予習90分：シラバスの内容をよく確認しておくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	16世紀のアジアと日本	16世紀の東インド貿易圏と日本との関係について説明します。	予習90分：プリント資料を読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
	織豊時		予習90分：プリント資料をよく読んでお

第3回	代（1）	織田信長の天下統一と経済政策について学びます。	くこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	織豊時代（2）	豊臣秀吉の経済政策について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	江戸幕府の成立	江戸幕府の成立や統治機構の整備について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	近世の村（1）	江戸時代の村の成立について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	近世の村（2）	江戸時代の農民の生活について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	幕藩体制の経済構造	江戸時代の経済構造の形成と特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	商品経済の発展	幕藩体制下で商品経済がどのように発展していったのかを学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	幕藩体制の動揺	商品経済の発展が幕藩体制をどのように変化させていったのかについて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	19世紀の東アジア情勢	欧米列強が進出するようになった東アジア情勢について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	開国の影響	開国の経済的影響と幕藩体制の崩壊について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	明治政府の成立	明治維新から大日本帝国憲法制定までの政治過程について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	日本資本主義の形成	明治以降、日本の資本主義体制がどのように形成されていったのかを学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	帝国日本の誕生	日清・日露の「戦後経営」とその後の日本について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

教科書は使用しません。プリント資料を配布します。

参考書

必要に応じて随時紹介していきます。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
筆記試験60%、平常点（確認プリントの提出、授業への取り組み等）40%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で確認プリントを実施する予定であるが、原則として次週返却しますので授業での重要点

の整理・まとめに活用して下さい。
履修のポイント
まずプリント資料を繰り返し読んで下さい。次に、授業項目の重要点を文章としてまとめて下さい。その作業を繰り返し行うと力がつきます。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

講義コード	30020001
講義名	くらしと色彩
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C030
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大日向 基子	指定なし

授業の概要と教育目標

カラーコーディネータ検定試験３級公式テキスト（東京商工会議所）に沿って授業を行う。色彩における身近な参考例（インテリア、ファッション、自然、歴史、商品、広告、テーブルコーディネートなど）を取り上げ、学生の色に関する興味を高めつつ、検定対策問題で効率的にポイントを学習する。本科目では、普段の生活にごく当たり前に溶け込んでいる色についての認識を新たにすると共に、その重要性や効用、歴史的背景、測定方法等にも幅広く意識を向けることを、教育の目標とする。

※必要に応じて練習問題や参考資料を配布する
※シラバスの内容、実施順番等については状況により変更する場合がある
※本授業は2回の中間テストの合計により成績評価を行い、定期試験は実施しない
※中間テストは授業で扱った範囲内から出題する

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、生活を多角的に理解することを目指し、基礎となる衣食住に関して、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的な理解力を養う。将来的な展望としては、色に関する興味・関心を引き出し、衣食住及び社会環境について、積極的にカラーコーディネーションを活用する人材を育てる学修を目指すものとする。

到達目標

日々の生活をより豊かにするため、色の効果を楽しんで活用できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	第1章 色の性質	第1節 色の効用とカラーコーディネーション 第2節 色が見えるまで アクティブ・ラーニングの内容：パワーポイント資料を用いて、色の性質についての意見を引き出す質問やクイズを行う	予習90分：教科書第1章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す

第2回	第2章 色と心理	第1節 色の連想と象徴 第2節 色がもたらす心理的効果 アクティブ・ラーニングの内容：パワーポイント資料を用いて、色と心理についての意見を引き出す質問やクイズを行う	予習90分：教科書第2章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第3回	第3章 色を表し、伝える方法	第1節 色の表示方法とその特徴	予習90分：教科書第3章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第4回	第3章 色を表し、伝える方法	第2節 カラーオーダシステムによる方法	予習90分：教科書第3章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第5回	第4章 配色と色彩調和	第1節 色彩調和の考え方	予習90分：教科書第4章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第6回	第4章 配色と色彩調和	第2節 主な色彩調和論と調和の原則	予習90分：教科書第4章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第7回	第5章 光から生まれる色	第1節 光とは 第2節 色が織りなす色彩現象	予習90分：教科書第5章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第8回	第5章 光から生まれる色	中間テスト：第1-7回までの範囲から出題 第3節 光源	予習90分：教科書第1-5章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第9回	第6章 色が見える仕組み	第1節 眼および脳の構造と働き	予習90分：教科書第6章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第10回	第6章 色が見える仕組み	第2節 眼の変化による色覚の多様性 第3節 色の見えを決める要因	予習90分：教科書第6章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第11回	第7章 色の測定	第1節 色の測定の種類 第2節 三原色を使った色表示	予習90分：教科書第7章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第12回	第8章 混色	第1節 混色の原理	予習90分：教科書第8章を読む 復習90分：配布

	と色再現	第2節 色再現の方法	資料・ノートを見直す
第13回	第9章 色と文化	第1節 日本の色彩文化	予習90分：教科書第9章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第14回	第9章 色と文化	第2節 絵画における色彩調和のとらえ方	予習90分：教科書第9章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す
第15回	第9章 色と文化	中間テスト：第8-14回までの範囲から出題 第3節 現代日本における商品色彩の変遷	予習90分：教科書第9-15章を読む 復習90分：配布資料・ノートを見直す

教科書

カラーコーディネーションの基礎〜カラーコーディネータ検定試験３級公式テキスト（東京商工会議所編）

参考書

カラーコーディネータ検定試験３級問題集（東京商工会議所編）、色の知識（城一夫）、カラーコーディネーター入門色彩（大井義雄・川崎秀昭）色彩デザイン学（三井直樹・三井秀樹）、色彩学概論（千々岩英彰）、ヨハネス・イッテン色彩論（大智浩訳）ほか

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上 第1回中間テスト50% 第2回中間テスト50%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

教科書第1章から第9章までの検定対策問題とその解答を、授業中に配布する。2回の中間テストはその問題からセレクトして構成されるため、対策問題の自習を通して知識を深めることを推奨する。授業の内容や対策問題、検定については、随時質問を受け付けている。中間テストは、採点して返却する。

履修のポイント

教科書を熟読すること。検定対策問題等で要点を理解し、問題形式や解答方法に慣れること。カラーコーディネータ検定試験３級取得を目指す場合は、問題集を購入することが望ましい。

オフィス・アワー

金曜日 14:50-15:00 9号館901教室

講義コード	30030001
講義名	人間と心理
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C011
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

ものを見ること、覚えること、考えること、泣いたり笑ったりすることなど、私たちが意識するとしないとにかかわらず、人のあらゆる活動に心はかかわっている。心理学は、そのような私たちの心のはたらきを明らかにすることを目的としているが、そのはたらきはさまざまである。そして、人は常に、状況に応じて適切な判断を下し、その場に合った行動をうまく選択し、自分にとって必要で大切だと思うことをきちんと覚えておくような存在かというと、そうでもない。本講義では、そうした人の心の多様なはたらきについて取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによって視聴覚にうったえる試みもする予定である。教育目標として、人の心のはたらきの基礎知識の習得し、人に対する理解を深めることを目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解すること、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、将来的な展望としては、多様な人間の生活科学の問題を理解する基盤となる学修成果を残すことを目指すものとする。

到達目標

１．知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる専門用語の意味を理解する。
２．知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる心理学理論について理解する。
３．日常的な出来事を心理学の理論に沿って理解する。
４．人の心の全般的なしくみについて理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
	ガイダンス	授業計画、成績評価のしかたなどについて 心理学で取り扱う内容について 【アクティブラーニングの内容】	予習90分:教科書12章を読

第1回	人間と心理で取り扱う問題	履修者に写真を提示しそこに読み取れる様子を意見交換させ、心理学の理解のきっかけを作る。また人は自分で思うほど確かな存在ではないことを対話のゲームを通して体験し、意見交換する。	む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第2回	感覚・知覚の心理学	外界を捉えるしくみ（目は心の窓）	予習90分:教科書2章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直しｖ
第3回	環境の心理学①	空間による対人コミュニケーションの調整 【アクティブラーニングの内容】 簡単なパーソナルスペースの実験を通して非言語的なコミュニケーションの実態を例示し、学生各自の体験を発表する。	予習90分:教科書10章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第4回	環境の心理学②	犯罪への心理学的アプローチ（環境デザインによる防犯設計を中心に）	予習90分:教科書9・10章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第5回	認知の心理学	私たちがものを覚える／忘れるしくみ 【アクティブラーニングの内容】 簡単な記憶実験を通して記憶のしくみを実感し、学習方法と記憶の関係について理解を深める。	予習90分:教科書4章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第6回	学習の心理学	新しい考え方や行動を身につけるときのしくみ（条件づけ理論と認知理論）	予習90分:教科書5章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第7回	発達の心理学①	生涯発達の視点、とくに愛情の発達からみた青年期の人間関係	予習90分:教科書1章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第8回	発達の心理学②	食行動の発達からみた青年期の特徴	予習90分:教科書1章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第9回	個人差の心理学①	人の個性が際立つもの（知能と性格）	予習90分:教科書3章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
		人の個性を測るもの（心理検査：性格検査の体験） 【アクティブラーニングの内容】	予習90分:教科書3章を読

第10回	個人差の心理学②	性格検査を体験し、自分の結果を自分でまとめ、自分で認識している性格と検査で現れる性格とを比較する。また、性格検査を実施する際の注意点について討論しそれらをレポートにまとめる。	む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第11回	対人関係の心理学①	対人認知の諸相①（対人魅力） 【アクティブラーニングの内容】 対人魅力に関する社会心理学基礎実験を通して、私たちが日常では意識することがない対人認知のしくみについてディスカッションを通してシェアリングする。	予習90分:教科書8章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第12回	対人関係の心理学②	対人認知の諸相②（印象形成） 【アクティブラーニングの内容】 印象形成に関する社会心理学基礎実験を通して、私たちが日常では意識することがない対人認知のしくみについてディスカッションを通してシェアリングする。	予習90分:教科書8章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第13回	感情の心理学	感情、欲求と欲求不満、葛藤、適応機制	予習90分:教科 書6・7・11章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第14回	臨床の心理学①	ストレス、心の安定を崩した状態、こころの病と呼ばれるもの	予習90分:教科書7章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。
第15回	臨床の心理学②	カウンセリングの基本的な考え方	予習90分:教科書7章を読む。 復習90分:配布資料の整理・見直し。

教科書

藤田主一・板垣文彦編『新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで』福村出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
筆記試験90%、レポート課題・授業への参加度10%を総合して評価します。

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

講義への積極的な取り組みを期待します。本科目は、「ピアヘルパー」資格取得にかかわる科目（「人間と心理」「臨床心理学」「人間関係」）のひとつです。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30〜13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。
※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	30040001
講義名	くらしと憲法
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C012
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要と教育目標

社会保障費の増大と消費税増税、地方自治体の消滅可能性、働き方改革など、国の課題は山積している。そんな中、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、大学生全員が選挙権を有することになってから、すでに何回かの選挙が行われている。本講座においては、私たちの生活や安全に大きな関わりをもつ国の基本法である日本国憲法を素材に、私たちの生活を考えていく予定である。
憲法の基本原理とその根底に流れる思想を学習した後、われわれの生活に深く関わりのある現代的なトピックを取り上げ、できる限りくらしとの関わりに留意しながら、主権者としての判断能力を身につけられるよう、学習していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

憲法を素材として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解できるようにする。憲法に関わる社会におけるさまざまな現象を科学的に理解し、そうした学修成果を社会で実践的に活用できるよう学修する。

到達目標

１．憲法とは何か、また法令の基本構造、および法令における憲法の位置づけを理解する。
２．憲法に規定されている基本的人権は何か、またその具体的内容について理解する。
３．国の政治のしくみについて、憲法はどう規定しているかを理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	憲法の意味	現在、日本国憲法に関してどのような問題が生じているのかについて学習した後、憲法とはどのような法かを学習する。立憲主義についても学習する。	予習90分： シラバスを読み、授業計画について把握する。 復習90分：ハンドアウト第1回に記載してある内容を読んで、復習する。
	日本	日本国憲法の制定過程について、第二次大戦後からＧＨＱによる憲法案の提示、国会での審議等につ	予習90分： ハンドアウト第2回を読

第2回	国憲法の誕生	いて、ＶＴＲに沿って学習する。 〈アクティブ・ラーニング〉 憲法の制定過程についてのドキュメンタリーVTRに対するコメントを発表する。	む。 復習90分：ハンドアウト第2回に記載してある内容を読んで、復習する。
第3回	日本国憲法の基本原理(1)	日本国憲法の基本原理である「国民主権」について、規定と意味について学習する。さらに、「基本的人権の尊重」に関する規定とその概要について学習する。	予習90分： ハンドアウト第3回を読む。 復習90分：ハンドアウト第3回に記載してある憲法や関連法令の条文を読んで、復習する。
第4回	日本国憲法の基本原理(2)	日本国憲法の基本原理である「平和主義」について、規定内容を学習し、さらに日本の防衛政策の現状、安保関連法制との関係について、学習する。	予習90分： ハンドアウト第4回を読む。 復習90分：ハンドアウト第4回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。
第5回	法の下の平等	憲法が保障している法の下の平等の意義・内容について学習する。現実に生じている平等をめぐる問題について、判例を素材として検討する。	予習90分： ハンドアウト第5回を読む。 復習90分：ハンドアウト第5回に記載してある憲法や関連法令の条文、判例、その他の内容を読んで、復習する。
第6回	精神的自由(1)	信教の自由を中心に学習する。なぜ認められる必要があるのか、その歴史的沿革、内容について学習する。また、政教分離原則について学習し、信教の自由に関する判例と政教分離に関する判例を素材として、学習する。	予習60分： ハンドアウト第6回を読む。 復習120分：ハンドアウト第6回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第7回	精神的自由(2)	表現の自由の意義とその内容について、学習する。また、プライバシー権との関係についても学習する。さらに、表現の自由・プライバシー権をめぐる判例を検討する。 〈アクティブ・ラーニング〉 表現の自由とプライバシー権に関する判例のうちいくつかを取り上げ、議論する。	予習60分： ハンドアウト第7回を読む。 復習120分：ハンドアウト第7回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、議論について、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第8回	法定手続きの保障人身の自由	憲法が保障する「人身の自由」について学習した後、刑法との関係について理解する。また、犯罪と刑罰制度の概要を学習し、特に死刑制度について、その現状とそれに対する議論を検討する。 中間確認テスト(30分間)を実施する。	予習90分： ハンドアウト第8回を読む。 復習90分：ハンドアウト第8回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第9回	社会権(1)	社会権と区分される人権について学習した後、「生存権」と「労働基本権」についてその概要を学習する。	予習90分： ハンドアウト第9回を読む。 復習90分：ハンドアウト第9回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
			120　10

第10回	社会権(2)	労働者に関わる人権と「教育を受ける権利」について学習し、理解する。	予習　　分：ハンドアウト第　回を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第10回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。返却されたテストの誤った部分について、正解を検討しておく。
第11回	立法	国会のさまざまの権能、国権における地位について概観する。衆議院と参議院の関係、国会の意思決定過程、具体的な役割について学習する。さらに、選挙制度についても、学習する。	予習120分：ハンドアウト第11回を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第11回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第12回	行政	内閣の地位・役割について、学習する。「議院内閣制」の内容とメリット、内閣総理大臣の選出方法、国務大臣の任免、さらに内閣の具体的な役割、意思決定の方法等について、主に学習する。 ※授業終了時にレポートを提出する。課題は「憲法に関するニュースもしくは課題を法学的に検討する。」Ａ４用紙１枚以上を条件とする。	予習120分：ハンドアウト第12回を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第12回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第13回	司法	裁判のしくみについて、概要を学習した後、刑事裁判で取り入れられている裁判員制度について、ＶＴＲに沿って学習する。 〈アクティブ・ラーニング〉 裁判員裁判に関するVTRに対するコメントを発表する。	予習60分：ハンドアウト第13回を読む。 復習120分：ハンドアウト第13回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。発表されたコメントについて、自分の意見と対照させる。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第14回	天皇・地方自治・憲法改正	憲法が規定する「象徴天皇」の地位・権能、またそれを規定している皇室典範について、学習する。また、地方自治に関する規定内容について学習し、さらに、憲法改正の手続、憲法改正に関する各政党・学界・国民の考え方について理解する。	予習60分：ハンドアウト第14回を読む。ハンドアウト8～14を確認する。 復習120分：ハンドアウト第14回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第15回	全体のまとめ	これまでの学習について、全体をまとめ、憲法を取り巻く状況とその課題について検討する。 最終確認テスト(30分間)を実施する。	予習90分：ハンドアウト8～14を確認する。 復習90分：最終確認テストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、ハンドアウトで復習する。

教科書

『目で見る憲法』初宿正典・大沢秀介・他 編著（有斐閣）

参考書
『ポケット六法』山下友信・山口厚 編集代表 （有斐閣）
成績評価の方法・基準
平常点（授業への参加度・学習態度・授業内課題等）［30%］、レポート［30%］、確認テスト［40%］を総合して評価。総合点50点以上で単位認定する。
課題等に対する フィードバックの方法
第8回に実施する中間確認テストの解答例と解説は、第11回の授業時に行う予定である。採点した答案は、第10回の授業時に返却する予定である。第12回に提出を義務づけたレポートについては、採点および講評記載の後、第15回の授業時に返却する予定である。第15回の最終確認テストについては、解答例及び解説を「桐生大学学生共有フォルダー」の「生活科学科1年・憲法」のフォルダーにPDFファイルで掲載する。採点した答案については、希望する者には返却する。11号館３階研究室11に取りに来ること。
履修のポイント
教員免許を取得しようとする学生は、必ず履修すること。
オフィス・アワー
月・水・金曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館３階研究室11

講義コード	30050001
講義名	現代社会と経済
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C013
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

授業内容は、１．これまでの代表的な経済思想を知る、２．ミクロ・マクロの経済学の基礎知識を習得する、３．経済統計や新聞記事の内容ができるようにする、という３つの内容を含んでいます。授業は、講義形式で行いますが、内容的な切れ目で「確認プリント」を実施します。本科目は、私たちの生活の身近な経済的問題からグローバルな問題までを理論的に理解できるようになることを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、１．私たちの生活の身近な問題からグローバルなテーマを多面的に理解している、という項目と関連しています。本講義を通して身近な経済的問題を理論的に理解・説明できるようになることを目指します。

到達目標

１．代表的な経済思想の特徴を理解できるようになる
２．ミクロ・マクロの経済学の基礎理論を理解できるようになる
３．経済指標の見方がわかるようになる

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	経済学の成立	オリエンテーション（授業内容、授業の進め方、成績評価等） 経済学でどのようなことを学ぶのか、経済学の成立について学びます。	予習90分：シラバスをよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	経済思想（１）	アダム・スミスなど古典派経済学の特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
	経済思		予習90分：プリント資料をよく読んで

第3回	想（2）	歴史学派、マルクス経済学の特徴について学びます。	おくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	経済思想（3）	新古典派経済学の特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	経済思想（4）	ケインズの経済学の特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	国民経済の仕組み	国民経済を構成している家計・企業・政府の経済3主体とその相互関係について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	市場メカニズム	市場メカニズムとは何か、需要と供給の関係、価格の決定について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	市場の失敗	市場メカニズムのメリット・デメリットについて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	景気循環	景気変動がなぜ起こるのか、景気の波について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	政府の役割	政府の経済に関する役割について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	中央銀行の役割	中央銀行（日本銀行）の役割について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	国内総生産（GDP）	国内総生産（GDP）とは何か、三面等価の原則について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	経済成長	経済成長とは何か、成長要因について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	貿易と国際収支	古典的な貿易理論、国際収支とは何かについて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	為替レート	為替レートとは何か、その変動要因と影響について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

使用しません。プリント資料を配布します。

参考書

必要に応じて紹介します。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
筆記試験60%、平常点（確認プリントの提出、授業への取り組み等）40%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業で行った確認プリント等は、原則として次週返却します。

履修のポイント
授業のポイントの整理・まとめを着実に積み重ねて下さい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で審問に応じます。

講義コード	30060001
講義名	くらしと統計
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C014
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

現在の情報化社会では、健康情報をはじめさまざまな数値やデータがあふれており、それらの数値を適切に扱うためには、統計的な手法の理解が必要である。
そこで、偶然に起きると思われる事象から得られるデータを、数表化、視覚化したり、数学的道具を用いてより科学的に分析したりして、研究や、仕事をはじめ、社会生活に広く役立てていくことを目的にして、統計の具体的な例や、記述統計、推測統計の基礎的な理論を学ぶ。
授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この授業は、生活科学科のDP「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解」を目指し、数値や図表として表現されているデータの持っている意味を正しく把握する力を養う。その上で、物事を多角的に理解する力を身に付け、専門科目での科学的な学修を行うための礎となっている。

到達目標

・統計学の概念を理解する
・データを集計し、各種統計量を求められる
・母平均の推定などが行える
・統計的仮説検定の考え方を理解し、行える

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	統計学とは（１）	母集団や標本などの統計学の基本概念と数学知識の確認、電卓の使用方法 【電卓を持参すること】	予習90分：高校の数学「データの分析」について、教科書等で確認 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第2回	統計学とは（２）	標本抽出、度数分布表の作り方 課題	予習90分：教科書p17～36を読む 復習90分：教科書および配布

			教材の見直し、課題を解く
第3回	標本分布の特性値（１）	中心的傾向の特性値（平均、中央値、最頻値など）の求め方	予習90分：教科書p49～62を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第4回	標本分布の特性値（２）	変動の特性値（不偏分散、標準偏差など）の求め方 課題 【アクティブラーニングの内容】 グループワーク：課題の検討	予習90分：教科書p63～71を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
第5回	中間まとめ	確認テスト①	予習90分：教科書の～ｐ76までの範囲 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第6回	確率分布	確率分布の性質について （確率ｐ78～88については、授業中扱いませんので、各自で学習してください）	予習90分：教科書p77～101を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第7回	正規分布	正規分布の性質や標準化、標準正規分布表の見方などについて 課題 【アクティブラーニングの内容】 グループワーク：課題の検討	予習90分：教科書p107～130を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
第8回	標本平均の分布	統計的有意性（有意水準、信頼係数など）と 標本平均の分布、中心極限定理、推定方法の基本的な考え方	予習90分：教科書p131～138を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第9回	母平均の推定（１）	正規分布と母平均の推定 課題 【アクティブラーニングの内容】 グループワーク：課題の検討	予習90分：教科書p139～150を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
第10回	母平均の推定（２）	t分布と母平均の推定 課題	予習90分：教科書第6章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
第11回	母平均の推定（３）	母平均の推定のまとめ	予習90分：配布教材を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第12回	仮説検定（１）	統計的仮説検定の考え方（有意水準、有意確率、棄却域、仮説）	予習90分：配布教材・教科書第8章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第13回	仮説検定（２）	母平均に関する仮説検定の方法 課題 【アクティブラーニングの内容】 グループワーク：課題の検討	予習90分：配布教材・教科書第8章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
第14回	仮説検定（３）	母平均に関する仮説検定のまとめ 課題	予習90分：配布教材・教科書第8章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く

第15回	まとめ	講義のまとめ、確認テスト②	予習90分：教科書・配布教材の見直し 復習90分：授業全体の振り返り

教科書
「はじめての統計学」鳥居泰彦（日本経済新聞社）
参考書
「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」武藤志真子編著（建帛社）「完全独習統計学入門」小島寛之（ダイヤモンド社）「マンガでわかる統計学」高橋信（オーム社）など
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上。授業中に課す課題40%、理解度確認のための試験60%。
課題等に対する フィードバックの方法
確認テストについて、返却をしますので、参考にしてください。 課題については解答を明らかにしますので、各自で確認し、疑問点は質問してください。
履修のポイント
数学的な理論には深入りせず、なるべく具体例で統計学の考え方を身に付けられるように配慮していく予定である。また、2年次の「栄養情報処理演習」ではコンピュータを用いて統計処理を扱う予定である。 ・講義には【電卓】（平方根の機能がついたもの！）を持参すること ・課題については必ず自分の力で解き、疑問点などは質問すること ・授業に欠席（公欠も含む）した場合は、授業の課題等を確認すること
オフィス・アワー
火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

講義コード	30070001
講義名	くらしと現代科学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C031
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

私たちの生活のなかで、身近に接する物質や現象に注目し、物質の性質や製品への活用方法をみていく。最初に物質を構成する原子や元素について知り、そのあとで洗剤や食物、薬やセラミックスなど、私たちの身のまわりにある製品や材料について、それらのミクロの構造を解き明かし、それらの用途をみていく。物質やエネルギーの活用事例を豊富に取り上げ、私たちの周りに最先端科学の成果が生かされていることを学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

私たちの日々の生活のなかで、数多くの製品やサービスと、最新の科学の成果とが深い関係で結ばれていることに気づく。生活科学科のディプロマポリシーにある「生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解」することに関係し、その能力を養う。

到達目標

暮らしに密着した物質や製品について基本的な事象を理解し、間違った情報に振り回されず、客観的な判断ができる社会人になるための必要な知識を習得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	現代科学の定義	現代科学（自然科学）の区分について、また物理変化と化学変化の違いについて理解する。今日の科学の功罪を考える。	『化学の基礎』第1章1頁～6頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第2回	物質を構成する原子、化学反応	原子の構造を知り、さまざまな化学反応とそれに伴う熱の出入りについて調べ、まとめる。	『化学の基礎』第1章7頁～9頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
	熱の出入	熱を発生させたり冷やしたりする化学反応の具体例を確認	『化学の基礎』第1章10頁～12頁を事前

第3回	りと化学反応	しつつ、その化学変化を熱化学方程式に置き換えて理解する。	に読んでおく（90分１）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第4回	酸と塩基、中和反応	酸と塩基の性質を確認し、身近でみられる中和反応について調べる。	『化学の基礎』第2章13頁～20頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第5回	衣類の科学	さまざまな繊維について知る。合成繊維と天然繊維の違いを理解する。保温性に優れる羊毛繊維の特長をみていく。	『化学の基礎』第3章23頁～32頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第6回	洗剤の種類と用途	洗剤の種類、石鹸と合成界面活性剤の違いについて調べる。	『化学の基礎』第4章33頁～44頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第7回	水の性質	水の状態変化をふまえつつ、水の特異な性質について知る。また、現在、世界では水不足問題を抱えた地域が少なくないことを知る。	『化学の基礎』第5章45頁～56頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第8回	発酵食品の科学	発酵食品とそれに関係する微生物、その働きを化学反応を踏まえつつ見ていく。発酵と腐敗の違いを理会する。	『化学の基礎』第7章76頁～78頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。発酵食品についてレポート課題を出すので、期日までに仕上げて提出する。
第9回	コロイド粒子について	コロイドについて理解する。身近な食品のなかにコロイドをふくむ食品が数多くあることに気づく。	『化学の基礎』第8章79頁～84頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第10回	薬の歴史	薬の化学的成分とその効能、薬と食べ物との相互作用についてまとめる。	『化学の基礎』第9章91頁～98頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第11回	薬の副作用	薬の服用に際して注意すべきことをまとめる。副作用の存在や依存症の危険があることを知る。	『化学の基礎』第9章99頁～102頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。コレステロールについてレポート課題を出すので、期日までに仕上げて提出する。
第12回	セラミックスとは何か	セラミックス製品の性質と用途とを理解し、私たちの身近にあるセラミック製品を調べる。	『化学の基礎』第11章114頁～124頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第13回	電気と電池	電気エネルギーをうむ発電のしくみと、今日の最新の電池について調べる。	『化学の基礎』第12章125頁～133頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第14回	電子レンジ とIHクッキング ヒーター	さまざまな調理器具に注目し、とくに電子レンジ やIHクッキングヒータの仕組みを見ていく。電磁誘導の原理を再確認する。	『化学の基礎』第13章135頁～144頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第15回	物質の状態変化	固体・液体・気体という物質の三態を振り返り、その変化にともなう熱の出入りや圧力と沸点の関係をみていく。状	『化学の基礎』第14章150頁～166頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。

		態変化の身近な応用方法を考える。	

教科書
『身の回りから見た化学の基礎』 化学同人
参考書
講義のなかで必要なとき紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定 50 点以上 課題の提出（20%）、期末試験（80%）をもとに総合的に評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
提出された課題は確認後、コメントを記入して返却する。こちらで求めた内容を授業内でパワーポイントを使い、口頭で解説する。
履修のポイント
休まず出席してください。授業は限られた回数しかないので、一回の欠席でも、授業の一項目がすっかり抜け落ちてしまいます。また、レポート課題は、かならず提出してください。
オフィス・アワー
水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。９号館３階の第１０研究室に来てください。

講義コード	30080001
講義名	情報社会とくらし
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	5時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C032
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

現代の我々のくらしでは、情報化・ネットワーク化が進展し、音楽や映像といったエンタテイメントをはじめ、コンピュータ、スマートフォンや携帯電話などコミュニケーションの方法も大きく様変わりしている。それらの変化に対応するために、マルチメディアやインターネットなど最新技術の動向などについて体系的に学びながら、変化が激しい情報化社会において生活するために必要な知識（情報リテラシ、メディアリテラシ）を身に付け、実生活で役立てるようになることを目標とする。
また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のDPとの関連として、ICTを中心に、「身近な問題からグローバルなテーマまで」扱いながら、我々の「生活」を「多角的に理解」する力を養う。そして専門科目における「社会的環境について、科学的に理解」するための基礎的な能力となる。

到達目標

・コンピュータやインターネットの仕組みを理解する
・新しいメディアへ対応できるようになる
・ネットワーク社会で問題となっていることを理解し、安全に利用できる

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	マルチメディアの特徴（1）	アナログ・ディジタル、マルチメディア構成要素	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第2回	マルチメディアの特徴（2）	インタラクティブ、ユーザインタフェース	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
			予習90分：教科書を読む

第3回	パーソナルコンピュータ	ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器 課題：PCを1つ選び、その特徴を説明	復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う、課題を作成する
第4回	メディア処理（1）	ファイルフォーマット、文書処理	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第5回	メディア処理（2）	画像処理、映像処理	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第6回	インターネット	インターネットの仕組み、モバイル通信	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第7回	インターネットでのサービス	WWW、電子メール、SNS	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第8回	インターネットビジネス	オンラインショッピング、ネットマーケティング	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第9回	家庭のマルチメディア化	情報家電、映像コンテンツ	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第10回	社会に広がるマルチメディア（1）	ICカード、ITS	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第11回	社会に広がるマルチメディア（2）	医療・福祉、学術、行政・政治	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第12回	ネットワークセキュリティ	コンピュータウィルス、ネットワークセキュリティ	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第13回	知的財産権	知的財産権、個人情報保護	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第14回	課題作成	これからの社会とくらしについて、いくつかのテーマの中から選び、プレゼンテーション資料としてまとめる	予習90分：教科書を読む 復習90分：プレゼンテーション課題をまとめる
第15回	まとめ	まとめ課題のプレゼンテーションを実施 【アクティブラーニングの内容】 お互いのプレゼンテーションについ	予習90分：プレゼンテーション資料の確認 復習90分：授業全体の振り返りを行う

		て、コメントを行う	

教科書
「入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル」 CG-ARTS協会
参考書
「マルチメディアと情報化社会」「入門Webデザイン」「入門CGデザイン」「Webデザイン」「ディジタル映像表現」（財団法人 画像情報教育振興協会）
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上。授業中に課す課題・振り返り50%、まとめの課題とその関わり方50%。
課題等に対する フィードバックの方法
日々の振り返りについて、全体にコメントをします。 課題については、お互いに評価をしてもうらい、その結果について、コメントをします。 プレゼンテーションについては、全体にコメントをします。
履修のポイント
コンピュータやインターネットなどに興味を持ち、積極的に関わっていくことが必要です。
オフィス・アワー
月曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

講義コード	30090001
講義名	生活と社会（H31入学）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C033
学年	1,2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

短期大学部2年間在学中に、大学主催の講演会（犯罪防止、公開講座）、外部研修（事前指導・事後報告を含む）、海外研修を経験・体験して、個人個人の社会性の向上を図る内容の授業である。さらに就職活動（進学）については、キャリアガイダンスへの参加や個人指導などの実施から社会に出るための意識付けを行ない、卒業後の進路の決定を確実にする。このように2年間の学生生活のなかで社会に出る前の基礎知識（教養）および応用力を身につけ、多くの体験・経験することにより社会で求められる学生の育成が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学日生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解する。体験学習を通じて教養、専門性（応用力）を習得することが教育目標である。将来的には2年間の学習成果を生かせることをめざす。

到達目標

キャリアガイダンス、海外研修、公開講座等の経験・体験学習を通じて、教養を習得し、現場に出て役に立つ社会人となることが到達目標である。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	教養Ⅰ	現代社会の仕組み：社会に出る前の企業を中心とする経済活動、企業の制度	事前準備30分以上
第2回	教養Ⅱ	犯罪防止講演に参加する。	終了後のレポート作成に60分以上
第3回	教養Ⅲ	毎年行われる公開講座（1年次、2年次）に参加し、教養を深める	終了後のレポート作成に60分以上
	教		

第4回	養Ⅳ	ボランティア入門：共生社会の実現、人間力・社会力・市民力、国際協力活動	終了後のレポート作成に60分以上
第5回	教養Ⅴ	就職活動とは（進学とは）：エントリーシート、履歴書、面接（集団・個人）、実地試験、内定後の研修 アクティブラーニング：エントリーシート、履歴書の記入をする。	就職に必要な書類の作成に120分以上
第6回	教養Ⅵ	キャリアガイダンス（1年次、2年次）では、就職担当者から就職状況についての説明がある。 アクティブラーニング：ハローワークによる、集団面接指導の実施。	就職に必要な書類の作成に120分以上
第7回	教養Ⅶ	キャリアガイダンス（1年次、2年次）については、2年生から就職体験談の発表があり質問形式で実施される。 アクティブラーニング：ハローワークによる、個別の面接指導の実施。	就職に必要な書類の作成に120分以上
第8回	外部研修	事前指導では、担任から海外研修の趣旨・概要の説明がある。	事後学習のため60分以上
第9回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定）	事前課題のために90分以上
第10回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定） アクティブラーニング：各グループで情報を共有する	事前資料収集のために120以上
第11回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定） アクティブラーニング：各グループで情報を共有する	事前準備のために90分以上
第12回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定） アクティブラーニング：各グループで情報を共有する 事前調査書類についての説明	事前調査書類作成のために90分以上
第13回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定） アクティブラーニング：各グループで情報を共有する 事前課題の提出	事前課題作成のために90分以上
第14回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定） アクティブラーニング：各グループで情報を共有する	まとめのための資料作りに90分以上
第15回	まとめ	社会人になるための基礎知識・応用力の総まとめ 学生生活2年間を振り返る	まとめの資料作り90分以上

教科書

授業で適宜配布する。

参考書

授業で適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 50 点以上。レポート(50%)、課題(50%)を総合して評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
レポートおよび課題は採点後返却するので授業の参考にすると良い。
履修のポイント
基本と応用の両面から内容を理解することが望ましい。
オフィス・アワー
月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、放課後（16：40〜18：00）研究室は9号館3F第7研究室。

講義コード	30090002
講義名	生活と社会（H30入学）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C033
学年	1,2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

短期大学部2年間在学中に、大学主催の講演会（犯罪防止、公開講座）、外部研修（事前指導・事後報告を含む）、海外研修を経験・体験して、個人個人の社会性の向上を図る内容の授業である。さらに就職活動（進学）については、キャリアガイダンスへの参加や個人指導などの実施から社会に出るための意識付けを行ない、卒業後の進路の決定を確実にする。このように2年間の学生生活のなかで社会に出る前の基礎知識（教養）および応用力を身につけ、多くの体験・経験することにより社会で求められる学生の育成が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学日生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解する。体験学習を通じて教養、専門性（応用力）を習得することが教育目標である。将来的には2年間の学習成果を生かせることをめざす。

到達目標

キャリアガイダンス、海外研修、公開講座等の経験・体験学習を通じて、教養を習得し、現場に出て役に立つ社会人となることが到達目標である。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	教養Ⅰ	現代社会の仕組み：社会に出る前の企業を中心とする経済活動、企業の制度	事前準備30分以上の予習が必要である。
第2回	教養Ⅱ	犯罪防止講演に参加する。	終了後のレポート作成に60分以上の予習・復習が必要である。
第3回	教養Ⅲ	毎年行われる公開講座（1年次、2年次）に参加し、教養を深める	終了後のレポート作成に60分以上の予習・復習が必要である。
第4回	教養	ボランティア入門：共生社会の実現、人間力・社会	終了後のレポート作成に60分以上の予習・復

	Ⅳ	力・市民力、国際協力活動	習が必要である。
第5回	教養Ⅴ	就職活動とは（進学とは）：エントリーシート、履歴書、面接（集団・個人）、実地試験、内定後の研修 アクティブラーニング：エントリーシート、履歴書を記入する。	就職に必要な書類の作成に120分以上の予習・復習が必要である。
第6回	教養Ⅵ	キャリアガイダンス（1年次、2年次）では、就職担当者から就職状況についての説明がある。 アクティブラーニング：ハローワークによる、集団面接指導。	就職に必要な書類の作成に120分以上の予習・復習が必要である。
第7回	教養Ⅶ	キャリアガイダンス（1年次、2年次）については、2年生から就職体験談の発表があり質問形式で実施される。ハローワークによる、個別の面接指導。	就職に必要な書類の作成に120分以上の予習・復習が必要である。
第8回	外部研修	事前指導では、担任から海外研修の趣旨・概要の説明がある。	事後学習のため60分以上の予習・復習が必要である。
第9回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定）	事前課題のために90分以上の予習・復習が必要である。
第10回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定） アクティブラーニング：各グループで情報を共有する。	事前資料収集のために120以上の予習・復習が必要である。
第11回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定） アクティブラーニング：各グループで情報を共有する。	事前準備のために90分以上の予習・復習が必要である。
第12回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定） 事前調査書類についての説明 アクティブラーニング：各グループで情報を共有する。	事前調査書類作成のために90分以上の予習・復習が必要である。
第13回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定） アクティブラーニング：各グループで情報を共有する。 事前課題の提出	事前課題作成のために90分以上の予習・復習が必要である。
第14回	外部研修	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定） アクティブラーニング：各グループで情報を共有する。	まとめのための資料作りに90分以上の予習・復習が必要である。
第15回	まとめ	社会人になるための基礎知識・応用力の総まとめ 学生生活2年間を振り返る。	まとめの資料作り90分以上の予習が必要である。

教科書

授業で適宜配布する。

参考書

授業で適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 50 点以上。レポート(50%)、課題(50%)を総合して評価する。

課題等に対する フィードバックの方法
レポートおよび課題は採点後返却するので、授業の参考にすると良い。
履修のポイント
基本と応用の両面から内容を理解することが望ましい。
オフィス・アワー
月曜日12：30～13：20（お昼休み）または、放課後（16：40～18：00）研究室は9号館3F第7研究室。

講義コード	30100001
講義名	くらしと英会話
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C015
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

英語の様々な状況による会話表現を習得すればコミュニケーション力は向上する。本科目では、英語コミュニケーション力の向上のため、状況に応じた「生活英語」に関連する英会話表現の習得を図る。また英会話表現においては、単語レベルでは発音、アクセントの正確さが重要あり、文レベルではイントネーションやセンテンス・ストレス（文強勢）を正確に付けることが会話での重要な要素となるので、それらの観点からも学習する予定である。本科目では、状況にお応じた「生活英語」に関する英会話表現を習得し、英語コミュニケーション力の向上を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの１つである「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」ことを目指し、状況による英会話表現の学習を通して、コミュニケーション力の向上と英語使用者の生活文化の理解を深める。

到達目標

1. ＣＤやインターネットによる発音・ヒアリング練習に慣れる。
2. インターネットの辞書・翻訳機能を利用できるようにする。
3. Exerciseの解答や課題の作成はワードやエクセルで出来るようにする。
4. 英語を使って日常生活に関するコミュニケーションがストレスなくできるようになる。
5. 発音、アクセント、イントネーション、センテンス・ストレスなどの重要性を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	1. 評価方法、授業の進め方等の説明 2. 課題：英語に対する自己の印象、自己紹介、ある語の連想語などの質問に対する答えを作成する。	
第2回	写真を撮る	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

		課題： ペアで作成し、提出する。	
第3回	レストランで	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	健康や体調	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	テレビ	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	スポーツ	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	確認する	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	タクシーに乗る	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	機内で	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	空港での出迎え	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	感想を聞く	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	忠告する	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	許可を求める	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	招待する	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回	Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Checkbook for English You Need (南雲堂)
参考書
副教材: Internet Materials (毎回 英語の歌などの聞き取りをする)
成績評価の方法・基準
単位認定 50点以上 筆記試験：50%、 課題、授業参加度等:50%
課題等に対する フィードバックの方法
課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。
履修のポイント
ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。
オフィス・アワー
授業の前後の時間が可能。

講義コード	30110001
講義名	ことばと文化
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C034
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

世の中の不幸な出来事は、たいていコミュニケーション不足に原因があります。「書くこと」と「話すこと」はコミュニケーションの主要な手段です。とすれば、「書く能力」と「話す能力」を磨かないと、不幸な出来事に出会う可能性が高くなります。「言語資本」という言葉があるように、言葉を操る能力は、あなたにとって重要な財産です。
また、生活科学科に学ぶあなたにとって、何を学びつつあるかを語れることは大きな意味を持ちます。
本講義は上記の能力を養う第一歩となるように学んでいきます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科の基礎となる衣食住について、さらに生活を取り巻く社会的環境をも視野に入れながら学ぶ。

到達目標

「書く能力」「話す能力」「自らの学びを語る」――これらができるようになること。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業の位置付け、進め方について説明します。 【ALについて】 まず最初に自己紹介をして、授業担当者がチェックしてみせる。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第2回	自己紹介①	自己紹介の事例を紹介し、そのポイントについて考える。 【ALについて】 事例研究を行ない、それを発表し、意見交換をする。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。

第3回	自己紹介②	実際に教室で自己紹介をしてみる。 【ALについて】 自己紹介文を書き、発表し、どこに問題があるかを議論する。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第4回	自己紹介③	前回の自己紹介の反省点を踏まえて、書き直し、再度発表する。 【ALについて】 書き直した自己紹介について、意見交換をする。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第5回	スピーチ①	スピーチの事例を紹介し、そのポイントについて考える。 【ALについて】 事例研究を行ない、それを発表し、意見交換をする。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第6回	スピーチ②	クラスの仲間に向けて、テーマを決めてスピーチしてみよう。 【ALについて】 テーマを決めて、各自スピーチ分を書き、スピーチする。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第7回	スピーチ③	クラスの仲間に向けて、テーマを決めてスピーチしてみよう。 【ALについて】 テーマを決めて、各自スピーチ分を書き、スピーチする。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第8回	良い文章とは①	事例を通して、そのポイントを考える。 【ALについて】 事例研究を行ない、それを発表し、意見交換をする。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第9回	良い文章とは②	自分の文章の「長所」と「欠点」についてかんがえる。 【ALについて】 自分の文章を素材に、それを発表し、意見交換をする。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第10回	記憶に残る文章とは	事例を通して、そのポイントを考える。 【ALについて】 自分が取り上げた事例について発表し、意見交換をする。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第11回	ストレスのない文章とは	事例を通して、そのポイントを考える。 【ALについて】 自分が取り上げた事例について発表し、意見交換をする。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。

第12回	履歴書の作成①	事例を通して、そのポイントを考える。 【ALについて】 自分が取り上げた事例について発表し、意見交換をする。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第13回	履歴書の作成②	何を書くか、自分にとってのポイントを決め、実際に書いてみる。 【ALについて】 実際に文章を書く。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第14回	履歴書の作成③	自分のポイントについて、発表し、意見交換をする。 【ALについて】 自分のポイントについて、発表し、意見交換をする。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。
第15回	履歴書の作成④	履歴書について、担当者が最終チェックを行なう。 【ALについて】 指摘された箇所について、担当者と質疑応答を行なう。	予習：60分 毎回のテーマについて事前準備をする。 復習：30分 各自反省点を踏まえ、自らチェックする。

教科書
特に使用しない。必要に応じてプリントを使用する。
参考書
テーマに応じて、適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上（発表内容：5割、授業への取組み姿勢：5割）
課題等に対する フィードバックの方法
原則として授業終了後に行なう。
履修のポイント
テーマを楽しむこと。義務感でやっても力はつきませんね！！
オフィス・アワー
火曜日、12：30～13：20、野口研究室

講義コード	30120001
講義名	健康とスポーツ
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C035
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高見 達也	指定なし

授業の概要と教育目標

運動は健康で生き生きと過ごすために欠かせない大切な要素の一つである。生涯を通じて運動に親しみ実践していけるかどうかは青年期の取り組み如何による。基礎的な体力づくりのためのトレーニング方法の理論を学び、また運動実践能力を高める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

自己身体運動の理解と分析を行い、生涯を通じて運動を実践できる基盤となる学修を行う。コミュニケーションとして、人に対する理解を深める方法も養う。

到達目標

グループワークにより話し合い、確認し合いながら、コミュニケーションをとって技能を高め合って行く。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、メディカルチェック、体力と身体機能・トレーニング理論・生涯スポーツについて	
第2回	総合運動能力測定	運動能力測定の方法と実施	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第3回	総合運動能力測定	運動能力測定の実施 測定結果発表	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。 【復習】 運動能力を基に、自分の課題を振り返る
		レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習①) 【アクティブラーニング】	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。

第4回	球技Ⅰ	バレーボールの基本であるオーバーハンドパスについて実践し、技術の特性を理解する	【予習】 バレーボールのルールについて調べる
第5回	球技Ⅰ	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習②) 【アクティブラーニング】 バレーボールの基本であるアンダーハンドパスについて実践し、技術の特性を理解する	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第6回	球技Ⅰ	レクリエーションバレーボールの実践(戦術①) 【アクティブラーニング】 バレーボールの基本であるサーブの種類を体験し、自分に合っているものを見つける	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第7回	球技Ⅰ	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第8回	球技Ⅰ	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第9回	球技Ⅰ	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第10回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(基礎練習①) 【アクティブラーニング】 パスの種類を理解し、特徴や特性を体感する	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。 【予習】 バスケットボールのルールについて調べる
第11回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(基礎練習②) 【アクティブラーニング】 シュートの種類を理解し、特徴や特性を体感する	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第12回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第13回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第14回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第15回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム④)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。

教科書

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

特に無し

成績評価の方法・基準
単位認定50点以上 【実技試験60%、授業内確認テスト20%、授業内の安全性（ルール等の厳守）20%】
課題等に対する フィードバックの方法
基本的なルールについて学習をし、体力・技術の弱点を克服するように努めること。 授業中に全体としての講評をコメントする
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。
オフィス・アワー
授業日の授業開始もしくは授業終了後に体育館等で相談に応じます。

講義コード	30130001
講義名	生活科学概論
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R110
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

生活科学は、家政学から出発して生活全体を科学する学問であり、対象は衣食住を主体にした幅広い学問である。そこで、本学の学生が授業を通して、これからの人生設計の参考になることをめざす。 本授業は、生活を育くむところに着目して、衣食住のほかに生活の中の人間関係、家族のかかわり、生活の中の自然環境など現状に対応できる授業内容。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活科学の基礎となる衣食住に関する事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを養う。そして将来的な展望としては、多様な人間のライフステージ、ライフサイクルを理解する基礎となる学修をめざす。

到達目標

生活科学の基礎となる衣食住に関する事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	生活すること	オリエンテーション（授業の概要、成績評価） 現代社会の状況（長寿社会）、人生のマネージメント	予習30分：教科書第1章を読む 復習60分：授業内容の復習
	身体と健	身体活動、エクササイズ、生きるためにはなどの項目につ	予習30分：教科書第2章を読

第2回	康	いての講義内容。	む 復習60分：授業内容の復習
第3回	生活と健康管理	人生を3つのライフステジに区分して、それぞれの特長について学修する。 アクティブラーニング：一人一人が健康に関する自己管理能力に気づき、身につける講義内容。健康について意見交換をさせ、さらに気づかせる。	予習30分：教科書第3章を読む 復習60分：授業内容の復習
第4回	人間の生活と自然環境	環境問題をとらえた講義内容。インターネット等の情報機器を使用することにより、最近の問題を取り上げ考えさせる講義内容。	予習30分：教科書第4章を読む 復習60分：授業内容の復習
第5回	生活の中の人間関係	社会生活について取り上げ、個々の関わり方を考えさせる講義内容。 アクティブラーニング：卒業後の自分について考えさせ、レポートにまとめさせる。	予習30分：教科書第5章を読む 復習60分：授業内容の復習
第6回	人の育ちと家族のかかわり	家族について、身近にある人的（子ども、高齢者）問題を取り上げ、そこから課題を導く講義内容。 自分の家族について考えさせ、これからどのような関わりが必要なのか考える講義内容。	予習30分：教科書第6章を読む 復習60分：授業内容の復習
第7回	社会人になること	社会人とは、卒業後の自分の姿について考えさせ、まとめさせる講義内容。課題「卒業後の自分について」	予習30分：教科書第7章を読む 復習60分：授業内容の復習
第8回	家計からみた現代の暮らし	現代の若者が生きるために必要とする経費について、親世代および次世代について、人生デザインをさせ、発表させる講義内容。	予習30分：教科書第8章を読む 復習60分：授業内容の復習
第9回	生活のリズムとマネージメント	リスクにはいろいろとあることを講義し、これからの人生の中で起こり得るリスクについて考える講義内容。	予習30分：教科書第9章を読む 復習60分：授業内容の復習
			予習30分：

第10回	生活を守る法	生活の中にある「法律」についての講義内容。これから生活していくうえで必要となる法律についての授業。 アクティブラーニング：授業の振り返りとして、意見交換をする。	教科書 第10、11章を読む 復習60分：授業内容の復習
第11回	生活の安全と安心食生活について	食生活について考える講義内容。なぜ食は必要なのか、食は安全・安心なのかを考えさせ、安全なものにするためには、どのようにしたらよいのかを考える講義内容。 アクティブラーニング：意見をまとめさせ数名に発表させる。	予習30分：教科書 第12章を読む 復習60分：授業内容の復習
第12回	衣生活について	衣生活の歴史、被服の機能、衣服の購等学習する。	予習30分：教科書 第13章を読む 復習60分：授業内容の復習
第13回	住生活について	住居の歴史、住居の機能、安全な住まい、ライフサイクルと住生活、自分にとっての住居等についての講義内容。これから望む住居について考えさせ具体的まとめさせる。	予習30分：教科書 第14章を読む 復習60分：授業内容の復習
第14回	これからの生活を考える	これからの生活について、食生活、衣生活、住生活、ライフステージ、社会環境などの中からテーマを決めさせ、これからの生活設計を考えさせる。次回の授業で発表させる。	予習30分：教科書 第5章を読む 復習60分：授業内容の復習
第15回	まとめ	アクティブラーニング：授業の振り返りとして各自発表する。	予習180分：発表準備 復習60分：本試験に向けて準備

教科書

人と生活 建帛社
必要に応じて資料を配布する

参考書

随時紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 レポート課題50% 本試験50%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

授業内でレポートや課題を課すことがある、返却するので学習の参考にするとよい。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になる。予習として、次回授業の範囲の教科書を読み、復習は、教科書、配布資料を活用し講義ノートを整理する。
オフィス・アワー
月曜日12：30～13：20（お昼休み）9号館3階第7研究室

講義コード	30140001
講義名	生活活動論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C270
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

日常における労働、家事、運動等の生活活動と体力の維持向上および健康増進のため、体を形成する栄養素と運動の関係、身体機能の維持の基礎知識を学ぶ。また、運動する人の生理的状況、人の身体の様々な状況時の栄養についても学ぶ。
長じて身体活動の必要性と身体の健全を維持することの理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーの中で、人間の体・栄養・健康・生活を取り巻く社会環境がそれぞれ影響しあっていることを理解していること、とあり、日常生活や運動栄養学の科学的根拠に基づいた基礎理論を学び、多様な生活活動や運動、スポーツ競技の栄養管理に力を発揮できるよう、その基礎を学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・一般生活活動、運動、スポーツ競技、体力と栄養の関係について理解し、栄養士として活動できる知識を持つこと。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	健康増進と運動（１）	運動不足、運不足が原因となる主な疾患、廃用症候群、サルコペニア、筋肉の衰えなどについて考える。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習
第2回	健康増進と運動（２）	健康の定義を復習し、運動の長所・短所を考え、運動の身体への影響を学ぶ。。特に血管の健常性や血液成分の変化、骨量の変化について学ぶ。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習
第3回	運動とエネルギー代	高エネルギーリン酸化合物について復習し、エネルギー代謝（解糖系、TCAサイクル、β酸化につい	予習：90分 配付資料を読んでおく。

	謝（1）	て運動との関連を学ぶ。	復習：90分 授業内容の復習
第4回	運動とエネルギー代謝（2）	運動の種類（タイプ）別に、消費される栄養素を学び、有酸素運動と無酸素運動の相異について考える。また運動のタイプを理解する上で、最大酸素摂取量について学ぶ。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 配付資料を見直す。
第5回	運動と代謝（1）	運動と糖代謝、運動と脂質代謝、運動とたんぱく質代謝について考える。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 配付資料を見直す。
第6回	運動と代謝（2）	運動と骨密度、運動と寿命の関係、運動と高血圧、運動とQOLの関係について学ぶ。肥満と運動（メリットとデメリット） ダイエットの取り組み	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 配付資料を見直す。
第7回	運動療法（1）	運動処方（有効限界と安全限界）について学び、特に肥満症ひ対する運動療法について学ぶ。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習
第8回	運動療法（2）およびまとめ	運動療法の実際例を学び、その一方、運動のデメリット（問題点）についても考察する。また、1～7回の内容について、まとめを行う。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 課題の取り組み ディスカッションのまとめ

教科書

授業で適宜プリントを配布する。

参考書

授業で適宜プリントを配付する。
または、適宜参考書を紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 50 点以上。 試験70% 課題30%

課題等に対するフィードバックの方法

課題について解説を行う。
授業の復習のための資料を配付するので授業の理解に役立てること。

履修のポイント

栄養士として、幅広い知識を得ることが望ましい。

オフィス・アワー

授業終了後受け付ける。
月曜日・火曜日・水曜日・金曜日(12:30～13:20)１１号館３階第１４研究室で受け付ける。

講義コード	30150001
講義名	公衆衛生学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C271
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
なお、授業ではほぼ毎回、現代社会における健康問題・報道などを題材として、グループディスカッションおよびプレゼンテーションの時間を設定し、自らの判断・見解を持ち、それを他者に伝えるスキルの習得も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシー「2.生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している。」に関連する科目として、特に栄養士に必要な知識・技術を理解していくため、「社会生活と健康」に関して幅広く学ぶ。

到達目標

1. 社会生活・環境と人間の保健・医療問題との関わりについて、概要を説明できる。
2. 保健医療問題に対して栄養士が果たすべき役割について説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 社会と健康	授業の進め方、成績評価など 健康の概念とその歴史的変遷、公衆衛生の歴史	予習90分：気になる健康問題について、新聞・メディア記事を調べてみる 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
		生態系の中の人間生活、環境汚染と健	予習90分：配布資料に目を通しておくこと

第2回	環境と健康	康、環境衛生	復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第3回	健康・疾病・行動に関わる統計資料	保健統計、人口静態統計、人口動態統計、生命表、傷病統計、その他の保健統計	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第4回	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策１	健康に関する行動と社会、身体活動、運動、喫煙行動、飲酒行動、睡眠、休養、ストレス、歯科保健行動、疾患に影響する行動特性	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第5回	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策２	健康日本21（第二次）、特定健康診査・特定保健指導など	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第6回	確認テスト１	確認テスト１の実施 解答および解説	予習120分：1～5回の講義資料に目を通し、整理・理解しておくこと 復習90分：不正解個所・あいまいな個所について、復習しておくこと
第7回	主要疾患の疫学と予防対策１	生活習慣病の概念、主要部位のがん、循環器疾患、代謝疾患	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第8回	主要疾患の疫学と予防対策２	骨・関節疾患、歯科・口腔疾患、感染症、精神疾患、自死、その他	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第9回	保健・医療・福祉・介護の制度１	社会保障の概念、医療制度、福祉・介護保険制度	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第10回	保健・医療・福祉・介護の制度２	地域保健、母子保健	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第11回	確認テスト２	確認テスト２の実施 解答および解説	予習120分：7～10回の講義資料に目を通し、整理・理解しておくこと 復習90分：不正解個所・あいまいな個所について、復習しておくこと

第12回	保健・医療・福祉・介護の制度３	成人・高齢者保健、学校保健など	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第13回	保健・医療・福祉・介護の制度４	産業保健・産業ストレス対策	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第14回	保健・医療・福祉・介護の制度５	保健・医療・福祉・介護の連携、国際保健	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第15回	まとめ	総合テストの実施 解答および解説	予習120分：1～14回の講義資料に目を通し、整理・理解しておくこと 復習90分：不正解個所・あいまいな個所について、復習しておくこと

教科書

講義は配布資料に基づいて行う。

参考書

古野・辻・吉池編『社会・環境と健康』 南江堂
その他は適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

・単位認定50点以上。
・３回の筆記試験90%、授業への参加度10%

課題等に対する
フィードバックの方法

・確認テスト(45分程度)の後、解答および解説を行う。
・グループディスカッション・プレゼンテーションに対するコメント等を適宜行う。

履修のポイント

・健康水準の高い社会に住んでいることを自覚し、俯瞰的視点を持って，積極的な取り組みを期待します。

オフィス・アワー

・水曜日・木曜日12:30～13:20（昼休み） 11号館第5研究室
（講義終了前後にも適宜受付可能）

講義コード	30160001
講義名	食品学
(副題)	【栄養士必修】【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R210
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

食品に関する科学は、食生活や健康を維持するための重要な課題となっている。その中で食品は、安全性を前提として栄養特性（栄養機能）、嗜好性（感覚機能）、生体機能調節性（生体調節機能）が備わっている。食品の栄養特性に関わる成分である水分、タンパク質、炭水化物、脂質、ミネラル類、ビタミン類の化学的に理解する。食品の嗜好性は、色、味、かおりについて学ぶ。さらに、食品の生体機能調節性についても学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学のディプロマ・ポリシーとの関連として、総合的に理解することにより、幅広い知識をこの食品学の講義から習得することを教育目標とする。資格の取得をする。

到達目標

栄養士として食品を科学的視点で理解することにより、食品の調理・加工・保存などの複雑な工程を考察できる能力を養うことを到達目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品 Ⅰ	オリエンテーション（授業の概要、成績評価）食品、人間と食品に授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第2回	食品 Ⅱ	食品の分類と表示、国民健康・栄養調査、特別用途食品、保健機能食品の種類と機能に関する授業内容。 アクティブラーニング：市販されている食品を用いて食品表示の意見交換し、レポートにまとめる。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第3回	食品の栄養素と成分表 Ⅰ	食品成分表についての概要、水の構造と性質および食品中の水分の役割と定量法についての授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
		たんぱく質の構造と栄養成分および働きにつ	

第4回	食品の栄養素と成分表 II	いての授業内容。 脂質の構造と栄養成分および働きについての授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第5回	食品の栄養素と成分表 IV	炭水化物の構造と栄養成分および働きと食物繊維の働きと役割についての授業内容。 無機質のの構造と栄養成分および働きについての授業内容	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第6回	食品の栄養素と成分表 V	ビタミン類の種類と働きおよび調理加工による変化についての授業。 食品の消化吸収とエネルギーについての授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第7回	食品成分の化学と変化 I	成分（水、アミノ酸とたんぱく質）における調理加工における変化の授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第8回	食品成分の化学と変化 II	酵素の種類と化学的変化、および食品に関係する酵素の働きについての授業内容。 油脂の種類と脂肪酸組成による科学的な変化についての授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第9回	食品成分の化学と変化 III	炭水化物特に糖質の性質についての授業内容。 ビタミンの調理、加工、保蔵における成分変化についての授業。食品の化学的変化褐変についての授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第10回	食品成分の化学と変化 IV	食品の香り調理加工における栄養に関する授業内容。 味成分の種類と化学、相互作用、食品の味の変化についての授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第11回	食品物性	コロイド、懸濁液と乳濁、食品の膨潤と浸透圧、レオロジー、テクスチャーについての授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第12回	植物性食品 I	穀類、いも類、豆類、種実類の種類と成分についての授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第13回	植物性食品 II	野菜類、果実類、キノコ類、藻類の種類と成分についての授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第14回	動物性食品 I	食肉類（食肉・食肉加工品）、乳類（乳・乳製品）卵類（卵・卵加工品）、魚介類の種類と成分についての授業内容。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第15回	その他の食品	嗜好品、調味・香辛料、15回の授業のまとめ。 アクティブラーニング：授業内容についての情報交換を実施する。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。

教科書

標準 食品学 総論 医歯薬出版

参考書

食物学 I （食品の成分と機能）・II （食品材料と加工、貯蔵・流通技術）（公社）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社

成績評価の方法・基準

単位認定 50 点以上。(授業内３回の確認テストと本試験を実施）。毎回の授業後の復習と確認

テストの模範解答の作成は必須です。

課題等に対する フィードバックの方法
予習として、次回授業の範囲の教科書を読み、復習は、教科書、配布資料を活用し講義ノートを整理する。

履修のポイント
食品の成分の構造と性質を理解し、今後の栄養と食品について理解する基礎となることが望ましい。

オフィス・アワー
月曜日12：30～13：20（お昼休み）又は授業終了後随時 9号館3F第7研究室。

講義コード	30170001
講義名	食品学実験Ⅰ
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C230
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

健康を維持するためには、五大栄養素を中心としたバランスある食生活が必要である。
その中で食品の栄養特性にかかわる成分である水分・たんぱく質・糖質・脂質・ミネラル類・ビタミン類の分析実験を学び、基礎的知識並びに技術を習得する。
また食品の嗜好性について、ヒトの五感を活用した官能評価方法で検査を行い、官能検査の意義・方法論について学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品の分析に関する基本的知識を理解し、技術を経て学習を総合的に理解する。
さらに食生活に関する事柄・食生活を取り巻く社会的環境についても科学的に理解を深める。

到達目標

食品学の実験・検査の基本技術と知識を身に着ける。
病院や学校給食等の現場で、食品に対する有効な活用や食生活改善などの対応が迅速に行える栄養士となることを到達目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品学実験Ⅰの基礎	食品学実験Ⅰにおける基礎; 化学試験の取り組み方、実験試薬および器具類の取り扱い、実験レポート（ノート）の書き方 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：食品に関する情報トピックスについて発表し、意見・情報交換を行う	予習30分（食品学の教科書内容のおさらい） 復習60分（オリエンテーション内容について、ノートの準備・作成）
第2回	一般成分の定量Ⅰ	食品中の水分含量の定量実験； 試料の秤量方法（電子天秤の使用方法）、恒量（実験用語）について	予習30分（水分について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
	一般成	食品中の粗灰分顔料の定量実験；	予習30分（灰分について；食品学の教

第3回	分の定量Ⅱ	器具の取り扱い方法（前回に準ずる）	科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第4回	一般成分の定量Ⅲ	定量実験に用いる試薬の調製； 標準液（0.1N－水酸化ナトリウム水溶液）の調製 中和滴定による力価（F)の求め方	予習30分（規定液の調整方法；実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第5回	一般成分の定量Ⅳ	食品中の粗たんぱく質の定量実験①； 窒素ケルダール法による分解過程～希釈調製、実験過程の説明 ※試料状態によっては希釈調製を別途時間に設定する場合あり	予習30分（たんぱく質について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第6回	一般成分の定量Ⅴ	食品中の粗たんぱく質の定量実験②； 窒素ケルダール法による蒸留家庭～滴定定量	予習30分（定量実験方法のおさらい；実験書を読む） 復習60分（ノート作成、次回の提出に備えて記録内容の確認）
第7回	一般成分の定量Ⅵ	食品中の粗脂肪の定量実験； 有機溶媒を用いたソックスレー抽出法による定量 【課題】ノート提出 チェック内容第１～６回実験 授業終了時に提出	予習30分（脂肪について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第8回	一般成分の定量Ⅶ	食品中の粗繊維の定量実験①； ヘンネベルグ・ストーマン改良法による定量 ※乾燥後試料移し替えの操作は別途時間に設定する場合あり	予習30分（糖質と食物繊維について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第9回	一般成分の定量Ⅷ	食品中の粗繊維の定量実験②； 試料の灰化～秤量による最終値算出 還元糖の定量実験； ウイルシュテッター・シューデル法による定量	予習30分（糖類の還元性について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第10回	一般成分の定量Ⅸ	食品中のビタミンCの定量実験； インドフェノール法による還元型ビタミンCの定量	予習30分（水溶性ビタミンについて；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第11回	脂質の化学的試験Ⅰ	ケンカ価・ヨウ素価の測定； 試料（液状油）のケンカ価およびヨウ素価を測定し、油脂の同定を行う	予習30分（油脂の性質について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第12回	脂質の化学的試験Ⅱ	酸価・過酸化物価の測定； 試料（液状油）の酸価および過酸化物価を測定し、試料の状態を予測する ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：食品に関する情報トピックスについて発表し、意見・情報交換を行う	予習30分（油脂の変敗について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第13回	官能検査Ⅰ	官能検査の意義、実施と方法、注意点 基本味（五味）の識別試験	予習30分（官能試験について；実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
14	官能検	比較法の試験（２点又は３点の識別試験法と嗜好試験法）	予習30分（官能試験について；実験書を読む）

第　回	査Ⅱ	検定の方法 ※次週行うまとめテスト（筆記・実技）の予告説明あり	復習60分（ノート作成、次回の提出に備えて記録内容の確認）
第15回	食品学実験Ⅰのまとめ	実技テスト（実験器具を使った操作） 筆記テスト（授業で学習した内容のまとめ確認） ※筆記テストの回答は採点後返却するので、学習理解度の自己確認を行うこと 【課題】ノート提出 チェック内容第７～１４回実験 授業終了時に提出	予習30分（実技試験内容の確認、前回までの授業内容を再確認） 復習60分（授業内容と後日返却されるノート記録の確認→次年度実験（食品学実験Ⅱ）への準備として）

教科書

食品学実験書（生活科科学科オリジナル）
授業項目に付随して、補足資料の配布も行う。

参考書

食品学（１年次履修授業）で使用した教科書
食品成分表（七訂2019版・香川明夫/監修・女子栄養大学出版部）
新食品分析ハンドブック（菅原龍幸 前川昭男監修・建帛社）
ＮＥＷ調理と理論（山崎清子 他著・同文書院）

成績評価の方法・基準

単位認定５０点以上。
授業への参加度および実験実技３０%、授業内確認テスト２０%、提出物（ノート）５０%を総合して評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

【実験目的～結果および考察】を毎回ノートに記録しまとめる。記載項目と記録方法については初回オリエンテーションにて説明するので参照のこと。習得状況確認のためノート提出を課す（授業計画を参照）。
授業内容に関する総まとめとして、最終回授業内で確認テスト（記述・実技）を行う予定。

履修のポイント

化学的分野の基本原理と基本操作を理解して、積極的に実験に参加取り組みすることが望ましい。
実験授業は講義（実験成分について・実験方法等の説明）と実技で構成されている。実験操作で放置等の待ち時間が発生する場合は、講義内容のノート整理時間など有効な使い方を心掛けてほしい。
実験結果はパソコンで一覧表を表示し全体考察を行うことが多いので、パソコン操作の復習が望ましい。

オフィス・アワー

月曜日、１２：３０～１３：２０、９号３階第９研究室。

講義コード	30180001
講義名	食品学実験Ⅱ
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C250
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

食品群の種類及び分類について学習し、それぞれの食品の持つ特色について理解し、これらを基本とした食品成分の性質について実験によって分析した学習を行う。
栄養士としての食品の化学的特性と機能を理解し、その性質分析方法の基本操作を身に着ける。
併せて食品に対しての興味と多方面からのアプローチができる考え方を持てるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品に関しての基本的な事柄からはじめた関連学修事項を、科学的根拠に基づいて理解する。

到達目標

・食品成分表に基づく食品群の種類分類を理解する。
・食品学の授業で学習した事項について、科学的根拠に基づいた理解をできるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	実験室の取り扱いについて レポート（ノート）の書き方説明 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：食品に関する情報トピックスに関して、興味を持つ内容の意見・情報交換を行う	予習30分（1年後期履修・食品学実験Ⅰの内容おさらい） 復習30分（オリエンテーション内容について、ノートの準備）
第2回	米の品質検査	米の種類・品質・搗精度合の判定試験	予習30分（米について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第3回	小麦粉の性質	小麦粉の種類別試験（乾麩・湿麩量） 食塩とかん水が小麦粉に与える影響について	予習30分（小麦粉とグルテンについて；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
	卵の性	卵白溶液の凝固試験（アミノ酸の定性試	予習30分（卵の成分について；食品学の教科書おさら

第4回	質	験） 加熱による卵の凝固観察	い、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第5回	豆乳の凝固試験	豆乳が凝固する要素の実験（凝固剤・温度による違い）	予習30分（大豆製品について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第6回	寒天・ゼラチンの凝固試験	果物に含まれるたんぱく質分解酵素の働き 寒天とゼラチンの性質の違い	予習30分（寒天とゼラチンの性質について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第7回	講義	溶液濃度と試薬の調製 次回授業の内容予習（水酸化ナトリウム水溶液の調製） 【課題】溶液濃度調整の計算問題 配布プリントに記入→次週ノートと一緒に提出	予習30分（前週に配布する資料（溶液濃度）を読んでおく） 復習60分（課題プリント ノート提出準備の確認）
第8回	規定液の調製	0.1Nー水酸化ナトリウム水溶液の調製 中和滴定による力価の測定 【課題】ノート提出；チェック内容第１～７回授業の記録 毎回提出後返却された実験報告書が貼付されている事	予習30分（前週講義内容のおさらい） 復習60分（後日返却するノートの内容確認および記録）
第9回	ヨーグルトの酸度測定	ヨーグルト中の酸度の定量（中和滴定）	予習30分（乳と乳製品について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第10回	果物の有機酸の測定	１００％果汁中の有機酸の定量（中和滴定）	予習30分（果物と有機酸について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第11回	塩分濃度の測定	醤油の塩分濃度の定量（沈殿滴定法）	予習30分（調味料と含有塩分量について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第12回	牛乳脂肪の測定	牛乳中の脂肪量（ゲルベル法）とＳＮＦ（バブコック法）の測定	予習30分（牛乳の成分について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第13回	褐変反応試験	酵素的褐変の定性試験（じゃが芋・りんご） 非酵素的褐変の定性試験（アミノ・カルボニル反応）	予習30分（食品の変質（主に褐変）について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第14回	米粉・小麦粉の膨張試験	添加材料の違いによるパンの製造試験 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：食品分析実験を学習してきた視点からの情報トピックスに関して、興味を持つ内容の意見・情報交換を行う 次週の実技試験内容予告	予習30分（パンの製造について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第15回	実技試験およ	実験操作の実技試験 授業ポイントのおさらい 【ノート提出の予告】期末試験の会場にてノート提出；	予習30分（実技試験内容の確認、前回までの授業内容記録を確認しておく）

	びまとめ	チェック内容第８～１４回授業の記録 毎回提出後返却された実験報告書が貼付されている事	復習60分（授業内容とノート記録の確認）

教科書

食品学実験書（生活科学科オリジナル）
授業項目に付随して、補足資料の配布も行う。

参考書

食品学（１年次履修授業）で使用した教科書
食品成分表（七訂2018版・香川明夫監修・女子栄養大学出版部）
ＮＥＷ調理と理論（山崎清子 他著・同文書院）

成績評価の方法・基準

認定単位５０点以上
筆記試験８０％、提出物（ノート）１０％、授業への参加度（実技試験含む）１０％

**課題等に対する
フィードバックの方法**

毎回実験結果の報告書を配布するので、記入後授業終了時に提出する。
確認後返却されたらノートに添付し記録まとめにする（ノート提出時に再度確認あり）。

履修のポイント

授業中の積極的な取り組み（講義および実技）を必要とする。
食品学実験Ⅰ（１年次履修科目）から引き続いての食品関連実験であるので、実験Ⅰで学習してきた内容を復習して実験Ⅱの授業に活用してほしい。

オフィス・アワー

月曜日、１２：３０～１３：２０、９号３階第９研究室。

講義コード	30190001
講義名	調理学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R211
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

「人間は健康のためにどのような食べ方をしたらよいか」を学ぶために、食べ物の嗜好性と機能、おいしさを演出する食品素材の科学、調理操作の科学、食事計画、食品食材の調理による変化と科学等について学習する。食べることの意義を基点として調理学の総論と調理科学の法則について学ぶ。なお本教科は、食事計画の基礎となる調理や調理科学に関する基礎知識を習得し、調理に対する理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「調理」「調理科学」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・食事計画から食材の選択、調理、供食にいたるまでの一連の調理過程の理論を習得する。
・食品食材の調理による変化と科学の理論を習得する。
・食事の設計を行う上で食事摂取基準及び食品成分表の活用のための基本的な知識を習得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	調理学を学ぶ I	調理の目的	予習90分：教科書1章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第2回	調理学を学ぶ II	調理の意義と食事の計画 ・食事の形態(食事構成・食文化論) ・食事計画	予習90分：教科書10章を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
		食べ物のおいしさに関与する要因 ・におい ・味を感じるメカニズム ・食べ物の味	

第3回	食物のおいしさⅠ	【アクティブラーニングの内容】 履修者に美味しいと感じる食べ物、場面について意見交換をさせ、おいしさの科学について理解するきっかけを作る。また図を用いておいしさの科学について解説して理解を深め、再度自分のおいしいと感じる食べ物、場面について分析して意見交換する。	予習90分：教科書2章1・2を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
第4回	食物のおいしさⅡ	食べ物ののおいしさに関与する要因 ・食べ物のにおい・食べ物の色・テクスチャー・食べ物の外観 ・食べ物の温度・おいしさの評価	予習90分：教科書2章3～8を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
第5回	調理操作と調理機器Ⅰ	調理操作の分類・非加熱操作	予習90分：教科書3章1を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
第6回	調理操作と調理機器Ⅱ	加熱調理操作・調理機器	予習90分：教科書3章2・3を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
第7回	植物性食品の調理科学	米の調理	予習90分：教科書4章1(1)(2)を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
第8回	植物性食品の調理科学	小麦・いも類・豆類・種実類の調理	予習90分：教科書4章1(3)(4)・2・3・4を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
第9回	植物性食品の調理科学	野菜類・果実類の調理	予習90分：教科書4章5・6を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
第10回	植物性食品の調理科学	きのこ類・藻類の調理	予習90分：教科書4章7・8を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
第11回	動物性食品の調理科学	食肉類・魚介類の調理	予習90分：教科書5章1・2を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
第12回	動物性食品の調理科学	卵類・牛乳・乳製品の調理	予習90分：教科書5章3・4を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
第13回	油脂類・ゲル化剤・とろみ材の調理科学	油脂・ゲル化剤・とろみ剤砂糖の調理	予習90分：教科書6章・7章を読む。復讐90分：配布資料を見直す。
14	調味料・香		予習90分：教科書8章を

第　回	辛料の調理科学	調味料・香辛料の調理	読む。復讐　分：配布資料を見直す。
第15回	まとめ	おいしく安全に調理を行うための基礎について 【アクティブラーニングの内容】 履修者に栄養士業務である食事設計における調理(科学)の意義について意見交換をさせ、食事設計、栄養士業務について理解するきっかけを作る。またこれまでの講義内容についてまとめを行い理解を深め、調理(科学)について意見交換する。	予習90分：第1回～第14回の配布資料を読む。復讐90分：配布資料を見直す。

教科書

はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ
調理学 おいしく安全に調理を行うための科学の基礎

参考書

調理のためのベーシックデータ

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上 定期試験60% 授業レポート１0% 課題30%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で課題やレポートを課すことがあります。返却しますので、学習の参考にしてください。

履修のポイント

調理学をよく理解するために日々の食や健康に関する情報収集が事前学習につながるので、教科書や配布プリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。調理（科学）と健康の視点を持ち授業には積極的に参加する。

オフィス・アワー

木曜日、12：30～13：20(昼休み)、９号館３階第９研究室
※講義授業前後にも、適宜受けます。

講義コード	30200001
講義名	基礎栄養学Ⅰ
(副題)	【栄養士必修】【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R213
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養の意義をふまえ、各栄養素の種類概要・消化・吸収・代謝の流れ・栄養学的機能と特質・食品のもつ栄養効果について学習する。
また健康の保持増進・疾病の予防治療における栄養の役割を理解し、栄養学の原理となる基礎知識をを実践性活動の場に対応できるように習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養に関する基礎知識を理解する。その知識を得た栄養士として健康栄養に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得できるようにする。

到達目標

栄養士養成課程の専門分野の原理を習得し、併せて他の専門科目との関連性を理解できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	栄養の概念とその歴史 栄養の意義	栄養の意義、生体の成り立ちとその機能、栄養学の歴史とその成立	予習30分（教科書P1～12を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第2回	栄養のしくみ 栄養素の種類と働き	食品成分（糖質・脂質・たんぱく質・ビタミン・無機質）について	予習30分（教科書第4～8章の各最初の1ページを読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第3回	糖質の栄養Ⅰ	糖質の種類、消化と吸収、代謝 ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P39～45読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
		血糖とその調節、体内代謝、	

第4回	糖質の栄養Ⅱ	他の栄養素との関係 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P45～52を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第5回	脂質の栄養Ⅰ	脂質の化学、消化と吸収、代謝 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P53～64を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第6回	脂質の栄養Ⅱ	栄養機能、脂質と疾患、食事摂取基準 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P64～70を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第7回	たんぱく質の栄養Ⅰ	たんぱく質とアミノ酸、消化と吸収、代謝 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P71～83を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第8回	たんぱく質の栄養Ⅱ	栄養価、他の栄養素との関係、食事摂取基準、不足と過剰 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P83～92を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第9回	ビタミンの栄養Ⅰ	脂溶性ビタミンの種類と特徴、代謝と栄養学的機能 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P93～102を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第10回	ビタミンの栄養Ⅱ	水溶性ビタミンの種類と特徴、代謝と栄養学的機能 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P102～115を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第11回	ビタミンの栄養Ⅲ	ビタミンと他の栄養素との関係 ビタミンの追加補足事項 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P115～116を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第12回	無機質（ミネラル）の栄養Ⅰ	多量ミネラルの分類および機能 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P117～125を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第13回	無機質（ミネラル）の栄養Ⅱ	微量ミネラルの分類および機能 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P125～132を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第14回	栄養と健康Ⅰ	生理機能を持つ非栄養素 他 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報	予習30分（教科書P163～168を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資

		交換	料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第15回	栄養と健康Ⅱ まとめ	食事摂取基準について、食と健康日本21 授業内容のまとめおよび解説	予習30分（教科書P177～187及び付表を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）

教科書

Ｎブックス三訂 基礎栄養学（林淳三監修・建帛社）
※後期履修の「基礎栄養学Ⅱ」でも同教科書を使用する

参考書

栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学（田地陽一編・羊土社）
栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学ノート（田地陽一編・羊土社）
食品成分表（七訂2019版・香川明夫監修・女子栄養大学出版部）

成績評価の方法・基準

単位認定５０点以上
筆記試験８０％、レポート・課題提出２０％により評価。提出締切は期限を厳守すること。

**課題等に対する
フィードバックの方法**

毎回授業計画書を確認して、予習と復習を行うことが望ましい。
授業のまとめとしてレポートやミニテストを複数回課す場合があるが、期末試験に向けた最終まとめの際にそれらも資料として必要となるのでファイリングしておくこと。

履修のポイント

生化学的視点（ヒトのからだのしくみ・消化吸収など）の講義内容を含むので、生化学や解剖学の教科書を参考にすることを薦める。
栄養学や食品学に関連する他の履修科目にも、この科目で学習する内容はつながっていることをふまえる。
課題やミニテストが返却されたら、各自の解答は正誤内容等を再度確認する習慣をつけること。

オフィス・アワー

月曜日、１２：３０～１３：２０、９号３階第９研究室。

講義コード	30210001
講義名	基礎栄養学Ⅱ
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C231
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎栄養学Ⅰで学習した栄養素の機能の理解をふまえ、消化吸収・摂食行動、水と電解質、エネルギー代謝、栄養と遺伝子についての学習を行う。
ヒトが生活をしていく社会環境の中で、栄養学が関与する事柄について多角的に理解できるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

健康と栄養をを身近な部分から広域な問題点までを多角的に理解できるようにする。その知識を得た栄養士として健康栄養に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得できるようにする。

到達目標

栄養士養成課程の専門分野の原理を習得し、併せて他の専門科目との関連性を理解できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	基礎栄養学Ⅰのおさらい 栄養の概念と歴史	基礎栄養学Ⅰで学習した項目のおさらい確認 生体の成り立ちとその機能、栄養学の歴史とその成立 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P4～12を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第2回	摂食行動	食欲について、サーカディアンリズム、栄養と生体防御 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P13～20を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
			予習30分（教科書P21～30を読

第3回	消化・吸収と栄養素Ⅰ	消化器系の構造と機能 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第4回	消化・吸収と栄養素Ⅱ	消化の調節・吸収、消化管ホルモン、栄養素の体内動態、生物学的利用度 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P31～38を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第5回	消化・吸収と栄養素Ⅲ	各栄養素（糖質・脂質・たんぱく質）の消化吸収 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書第4～６章の消化吸収のページを読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第6回	水、電解質の代謝および異常	水の機能、電解質の代謝 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P133～138を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第7回	エネルギー代謝Ⅰ	エネルギーとは、エネルギー変換、食品のエネルギー ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P139～146を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第8回	エネルギー代謝Ⅱ	エネルギー代謝、臓器別エネルギー代謝 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P139～146を読む②） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第9回	栄養と遺伝子Ⅰ	遺伝病、栄養と遺伝子、遺伝子多型 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P147～157を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第10回	栄養と遺伝子Ⅱ	倹約遺伝子、栄養と癌、酸価ストレスと抗酸化作用をもつ栄養素 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P157～162を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第11回	生理機能を持つ非栄養素	食物繊維 他の栄養素 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P163～168を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第12回	栄養と健康Ⅰ	栄養の補給、栄養評価 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P169～177を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第13回	栄養と健康Ⅱ	栄養摂取適量 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P177～182を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）

第14回	栄養素の食事摂取基準Ⅰ	日本人の食事摂取基準（３大栄養素） ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習30分（教科書P188～201を読む） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第15回	栄養素の食事摂取基準Ⅱ まとめ	日本人の食事摂取基準（ビタミン、ミネラル） 授業内容のまとめおよび解説	予習30分（教科書P188～201を読む②） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）

教科書

Ｎブックス三訂 基礎栄養学（林淳三監修・建帛社）
※「基礎栄養学Ⅰ」で使用した教科書を使用する。

参考書

栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学（田地陽一編・羊土社）
栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学ノート（田地陽一編・羊土社）

成績評価の方法・基準

単位認定５０点以上。
筆記試験８０％、レポート・課題提出２０％により評価。提出締切は期限を厳守すること。

**課題等に対する
フィードバックの方法**

毎回授業計画書を確認して、予習と復習を行うことが望ましい。
授業のまとめとしてレポートやミニテストを複数回課す場合があるが、期末試験に向けた最終まとめの際にそれらも資料として必要となるので、ファイリングしておく。

履修のポイント

生化学的視点（ヒトのからだのしくみ・消化吸収など）の講義内容を含むので、生化学や解剖学の教科書を参考にすることを薦める。
栄養学や食品学に関連する他の履修科目にも、この科目で学習する内容はつながっていることをふまえる。
課題やミニテストが返却されたら、各自の解答は正誤内容等を再度確認する習慣をつけること。

オフィス・アワー

月曜日、１２：３０～１３：２０、９号３階第９研究室。

講義コード	30220001
講義名	応用栄養学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C254
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中村 裕子	指定なし

授業の概要と教育目標

人が誕生してから一生を終えるまでの間の成長・発達、加齢にともなう人体の構造や機能の変化、栄養状態等の変化について理解し、健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能、健康に影響するリスクの管理について基本的な考え方や方法を学習する。
なお、本科目を学ぶ上で、人のライフステージはその人生の積み重ねで成り立っていることを理解しながら学習を進め、体のさまざまな状況の変化に対応できる栄養ケア・マネジメントを身に着けることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として「人体の構造・機能」と「栄養・健康」に関する学習を総合的に理解し、栄養士として活躍する現場において各ライフステージに適応した栄養管理を、効率よく的確に実践するための基本的な知識や技術の習得を目指すものとする。

到達目標

・人体の構造や機能の加齢に伴う変化について理解し、栄養アセスメント・ケア・マネジメントの一連の流れをどのように実施するのか理解できる。
・健康増進や疾病予防に寄与する栄養管理を理解できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	栄養マネジメントの概要	栄養アセスメント・栄養マネジメントについて	（予習：90分）教科書を読んで初回授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
		各ライフステージにお	

第2回	ライフステージ栄養学概要	ける栄養とは （アクティブラーニングの内容）...グループディスカッション 各自の今までの食生活の振り返りと高齢期になった各自を想定し食生活について意見交換する。食の積み重ねの意識付けを目的とする。	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）アクティブラーニングのレポートを作成し次回提出のこと
第3回	妊娠期の栄養 授乳期の栄養	妊娠に伴う母体の変化・妊婦、授乳婦の栄養管理	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第4回	乳児栄養	乳児期の身体的発育と栄養管理、病態、疾患の栄養ケア	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第5回	幼児期の栄養	幼児期の成長・発達、生活習慣と食生活の関係	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第6回	学童期の栄養	学童期の成長・発達、栄養状態の変化 学校給食と食指導	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第7回	思春期の栄養	思春期の成長・発達、栄養状態の変化 身体と精神の健康と食生活	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第8回	成人期の栄養	成人期の生理、代謝 社会環境と食生活 加齢に伴う疾患等	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第9回	生活習慣と生活習慣病	成人期における栄養摂取と食指導 生活習慣病の是正	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第10回	高齢期の栄養	加齢と老化による身体的変化 高齢期の食生活の特徴	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第11回	加齢と栄養摂取の変化	アンチエイジングと栄養	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第12回	生体と栄養	摂食と生体リズム	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第13回	身体の健康と精神の健康	食生活の偏りの是正 ストレス対策	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第14回	栄養教育の必要性と現状	ライフステージを意識した食生活指導	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。

第15回	総括	まとめ 健康の維持・増進に寄与する栄養士の役割	（予習：90分）教科書指定の範囲を読むこと （復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。

教科書
応用栄養学 化学同人
参考書
適宜紹介する あるいはプリントを配付する
成績評価の方法・基準
単位認定５０点以上 筆記試験 ８０％ レポート・練習問題 ２０％
課題等に対する フィードバックの方法
単元ごとの復習を目的とした練習問題への取り組みに対し解答と解説を行う。 課題を課した折には返却するので学習の参考にすること。
履修のポイント
他教科との関連性も深く、日常の食生活に対する考えや、疑問に思うことを質問できるよう積極的に授業に取り組むことを期待する。
オフィス・アワー
授業終了後適宜受け付ける。 月曜日・火曜日・木曜日（12:30～13:20) ９号館３階・研究室にて受け付ける。

講義コード	30230001
講義名	栄養学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C274
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 市原 幸文	指定なし

授業の概要と教育目標

人は誕生してから成長し、成熟し歳を重ねて寿命を全うする過程の中で栄養状態、健康状態は個々それぞれ異なりライフステージに合わせた適切な健康管理、栄養管理が必要である。各ライフステージごとの適正な食生活を行うための栄養理論と栄養上の問題点を疾病の予防的立場から献立を計画、立案、調理し、献立内容や量を把握、評価する。献立の理論と技術の習得をする

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的な事柄を理解し、さらにそれら相互作用について理解している。
「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得する。

到達目標

栄養士として栄養実践活動に対応できるように、各ライフステージごとの献立の理論と技術を習得する

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食事計画(献立作成の基礎及び手順) 新生時期・乳児期の栄養	１．食事計画 ・献立の型：バランスの良い食事計画立案 【アクティブラーニングの内容】 演習： ６つの基礎食品群より３グループに分類 ２．新生時期・乳児期の栄養法（調乳の方法） ３．離乳期の栄養 （月齢別による離乳食献立について）	講義・教室(905) 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
	離乳食の調	１.初期 ２.中期 ３.後期 ４．完了期 各グループごとに 発表 調乳の方法	実習・調理実習室 離乳食 調乳

第2回	理と評価	【アクティブラーニングの内容】 [課題] 各時期に適する調理形態をまとめる	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第3回	幼児期の栄養・幼児食 （1） 献立の立案	1.幼児期の栄養管理のポイント（献立立案上の留意点） 2.児童福祉施設における保育所の栄養管理 【アクティブラーニングの内容】 演習：幼児食（保育所給食）献立立案	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第4回	幼児食 （2）献立立案・評価	【アクティブラーニングの内容】 演習：幼児食献立（保育所給食）の立案・評価 発注表、作業工程作成	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第5回	幼児食 （3）献立の調理と評価	【アクティブラーニングの内容】 幼児食の調理と評価・各グループごとに発表	実習・調理実習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第6回	学童期の栄養 学童食 （1）献立の立案	1.学童期の栄養管理のポイント（献立立案上の留意点） 2.学童食（学校給食）栄養素別給食摂取基準の考え方 【アクティブラーニングの内容】 演習：学童食（学校給食）献立立案	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第7回	学童食 （2） 献立立案・評価	【アクティブラーニングの内容】 学童食献立立案・評価 発注表・作業工程作成	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第8回	学童食 （3）献立の調理と評価	【アクティブラーニングの内容】 学童食の調理と評価・各グループごとに発表	実習・調理実習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第9回	妊娠期の栄養 妊娠期 （1）献立立案	1．妊娠期の栄養管理のポイント（献立立案上の留意点） 【アクティブラーニングの内容】 2．妊娠期（中期） 身体活動レベルII 献立立案	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第10回	妊娠期 （2）献立立案・評価	【アクティブラーニングの内容】 1．妊娠期（中期） 身体活動レベルIIの献立立案・評価 発注表・作業工程作成	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第11回	妊娠期 （3）献立の調理と評価	【アクティブラーニングの内容】 妊娠期（中期）（身体活動レベルII)の調理と評価 各グループごとに発表	実習・調理実習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第12回	高齢期の栄養 高齢期食（咀嚼・嚥下困 難-L4）	1.高齢期の栄養管理（献立立案上の留意点） 2.介護食の基準（障害に適した食事のポイントと調理） 摂食嚥下リハ学会ピラミットの利用 【アクティブラーニングの内容】	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料

	（1）献立の立案	演習：1)高齢期食（咀嚼・嚥下困難）（Ｌ４）献立立案	を見直す。
第13回	高齢期食（咀嚼・嚥下困難-Ｌ4）（2）献立の立案・評価	高齢期（咀嚼・嚥下困難）・Ｌ４ 献立立案・評価 発注表・作業工程作成 【アクティブラーニングの内容】 [課題]：嚥下のメカニズム、咀嚼・嚥下障害のある人の食事の工夫 ソフト食について記す	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第14回	高齢期食（咀嚼・嚥下困難-Ｌ4）（3） 献立の調理と評価	高齢期（咀嚼・嚥下困難）・第13回立案献立の調理と評価 【アクティブラーニングの内容】 各グループごとに発表	実習・調理実習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第15回	課題提出：各ライフステージ献立の評価	【アクティブラーニングの内容】 [課題] 各ライフステージ献立の評価及び考察 1．各グループの実施献立について考察する（計画・立案・調理・評価） 2．各個人の作成献立について考察する（計画・立案・評価）	講義・教室(905) 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。

教科書

「ライフステージ別 栄養管理・実習」 吉岡慶子・三成由美 他 編著 建帛社

参考書

「応用栄養学」 「食品成分表」他

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上 レポート・演習・各課題・ライフステージ献立の評価及び考察の提出(100%)
提出物は締切厳守

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの出来る資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

各ライフステージごとの献立の計画、立案、調理。献立内容や量を把握、評価
献立の理論と技術の習得

オフィス・アワー

月曜日、火曜日、担当の授業時間外 （場所：９号館 市原研究室）

講義コード	30240001
講義名	調理実習Ⅰ
(副題)	【栄養士必修】【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C212
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 景子	指定なし

授業の概要と教育目標

本実習では、食品や調理法について学び、基礎的な実習を行う。調理における調理器具の使用方法や衛生管理について学ぶ。デモンストレーションの後、グループごとに実習を行い、試食、評価、発表を行う。食を取り巻く環境の変化がめまぐるしい今日、調理法もより単純・簡便なものへと変わりつつある世情の中で、本来の調理の大切さ、意義を再認識させ、調理の基礎・基本を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらについて理解を深めることを目指して、調理の楽しさや大切さを実感し、それらを教え伝えることの重要性を身につける。将来は様々な食分野で活躍できるようになる為に調理の基礎・基本的な知識や技術を養うことを目標とする。

到達目標

・栄養学や食品学、調理学、調理科学などの理論に基づき、調理のコツを科学的に理解する。
・日本の伝統食、行事食等を通じ、日本の食文化の伝承と意義を理解する。
・実習を通してコミュニケーション能力を養う。
・現場の状況を的確に判断処理できる実力を養う。
・デモンストレーションをしっかりとメモを取ってノートをまとめ、実習献立を自宅で復習する。
・基礎包丁技術を身に付ける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	調理実習総論	オリエンテーション(調理実習をはじめるにあたっての心構え) ①調理の基本 ②調理実習の行程 ③服装及び衛生マニュアル ④調理器具の特徴と扱い方 ⑤実習の記録及び課題提出物について ⑥自分の食生活チェック（年3回）	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：配布資料を見直す。

第2回	炊飯の基本操作	ご飯 二色そぼろ 味噌汁 即席漬け イチゴの生クリームかけ 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：配布資料を見直す、課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第3回	味付け炊飯の要領(醤油味)	たけのこご飯 若竹汁 魚の西京焼 青菜のゴマ和え オレンジ 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：配布資料を見直す、課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第4回	味付けご飯の要領(塩味)	えんどうご飯 かきたま汁 肉じゃが レタスとわかめの酢の物 果汁かん 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第5回	西洋料理の概要	コンソメジュリエーヌ スープストック チキンピカタ マセドアンサラダ コーヒーゼリー 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第6回	西洋料理の付け合せ	魚のムニエル パンプキンスープ エッグサラダ フルーツパンチ 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）ノート整理に取り組む。
第7回	どんぶり物の応用	親子丼 沢煮椀 鰯の梅煮 白玉ぜんざい 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第8回	炒め米の炊飯について	エビ入りピラフ 魚のフライ タルタルソース オニオンスープ レモンスカッシュ 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第9回	麺料理について	冷麦 天ぷら イカときゅうりの酢の物 メロン 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第10回	基本ソースの作り方とその応用	バターライス ビーフシチュー グリーンアスパラのサラダ チーズケーキ 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表す	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。

		る】	
第11回	甘味料理の種類	ロールキャベツ マカロニサラダ 抹茶のムース 紅茶 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第12回	伝統食の由来	鰯の蒲焼 そうめん汁 かぼちゃの含め煮 みつ豆 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第13回	パスタ料理の種類･規格	スパゲッティーミートソース ポーチドエッグ グリーンサラダ ワインゼリー 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第14回	揚げ物のコツ	五目飯 吉野鶏とみつばの吸い物 茶せんなすの揚げ煮 セロリのレモン漬け 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第15回	前期総括	前期まとめ 前期の実習を振り返り、理解を深める。	予習30分：前期実習分の課題、自作ノートを振り返る。 復習30分：まとめのプリントを確認する。
第16回	もち米の調理	炊きおこわ 菊花豆腐のすまし汁 サバの味噌煮 茶巾しぼり 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第17回	基本となるソースの作り方	マカロニグラタン 田舎風野菜スープ リンゴのブルジョアーズ 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第18回	味付け炊飯の要領（炊き込み、混ぜご飯）	しめじご飯 炒り鶏 空也蒸し イカときゅうりのみぞれ和え 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第19回	カラメルソースの配合割合	オムライス ミネストローネ カナッペ カスタードプディング 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
		鶏肉のクリーム煮 ひじきサラダ アッ	

第20回	パイ生地の作り方	プルパイ 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第21回	松花堂弁当	萩ご飯 高野豆腐と干しいたけの炊き合わせ 伊達巻き 豚肉巻き イカのもみじ和え ほうれん草のお浸し 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第22回	サンドイッチ	サンドイッチ クラムチャウダー 鶏肉のサラダ スイートポテト 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：配布資料を見直す、課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第23回	いなりずし	いなりずし いわしのつみれ汁 ふくさ焼き 大根のわさび和え 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：配布資料を見直す、課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第24回	クリスマス料理	オードブル ローストチキン 星空のスープ ロールケーキ 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第25回	正月料理	雑煮 黒豆 二色卵 のし鶏 変わり田作り 紅白なます 紅白かまぼこ くりきんとん かずのこの土佐じょうゆ和え 日の出みかん 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第26回	銀紙焼きの調理	かき飯 のっぺい汁 たらの銀紙焼き ひじきの煮物 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第27回	和え物の調理	ぼたもち けんちん汁 わかさぎ南蛮漬け イカとわけぎのぬた 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向けての意気込み等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第28回	ひな祭り料理	太巻き寿司 茶巾寿司 菜の花のからし和え はまぐりの潮汁 桜もち 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに努力した点や改善点、次回に向	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノー

		けての意気込み等を話し合い、発表する】	ト整理に取り組む。
第29回	献立実習＜学校給食＞	学生による献立作成、実習 【アクティブラーニング：実習後、班ごとに献立のねらい、使用した旬の食材、努力した点や改善点、他の班の献立の感想等を話し合い、発表する】	予習30分：教科書該当ページを読む。復習30分：課題（栄養価計算・調べ学習）、ノート整理に取り組む。
第30回	後期総括	後期まとめ 後期の実習を振り返り、理解を深める。	予習30分：後期実習分の課題、自作ノートを振り返る。 復習30分：まとめのプリントを確認する。

教科書

「たのしい調理－基礎と実習－第5版」 山内知子他著 医歯薬出版株式会社

参考書

「七訂食品成分表2019」 香川明夫監修 女子栄養大学出版部

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上（通年で評価）
定期試験（筆記・実技）【前期・後期】70%、実習への参加態度及び課題・ノート提出30%

課題等に対するフィードバックの方法

毎回栄養価計算と調べ学習の課題に取り組み、次回の調理実習開始前に提出すること。返却しますので、ノートに貼る又はファイルに綴じ学修の参考にすること。

履修のポイント

身支度をきちんとする、5分前行動の励行、あいさつはしっかりと、私語は慎むこと、課題の提出期限の厳守、楽しく学ぶこと。食材の都合により、回数が前後する場合がある。

オフィス・アワー

月曜日・水曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3Ｆ第8研究室
※調理実習前後にも、適宜受け付けます（9号館1Ｆ調理準備室）

講義コード	30250001
講義名	調理実習Ⅱ
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C253
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 景子	指定なし
教員	中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎調理をふまえて、さらなる調理技術の向上及び造詣を深めるべく西洋料理、中国料理及び応用調理について学ぶ。また、調理の専門性や調理に関する分野の浸透を計るべく各分野のスペシャリストを講師として招いて行う。さらに実践力を養うため高齢者を対象として、献立作成→試作→実習を行いお弁当の製作を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用、また問題を解決できる能力を修得することを目指して、調理に関する知識と技術を深く学び、実践力を養う。社会に出て活躍できるようグループ実習を通して自己や他者の役割を理解し、視野を広く積極的に実習に臨むことを目標とする。

到達目標

・基礎調理をふまえて、さらに調理技術を習得する。
・高齢者の調理(シルバーランチ)を通じて、高齢化時代に対応した献立作成を含めて実践力を養う。
・各分野のスペシャリストを通じて専門性を高める。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス 高齢者の調理Ⅰ	ガイダンス 高齢者の献立の立て方、条件、目安量について学ぶ 調味パーセント、吸油率について学ぶ	予習30分：高齢者の献立に役立つ教科書や資料を読む。 復習30分：献立作成、ノート整理に取り組む。
			予習30分：次回の授業範

第2回	西洋料理	ソースについて 加熱調理操作(焼く)について	囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第3回	日本料理	米粉の調理性について 加熱調理操作(蒸す)について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第4回	西洋料理	イタリア料理について 加熱調理操作(揚げる)について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第5回	日本料理	和菓子について 加熱調理操作(オーブンを用いた卵の調理)について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第6回	西洋料理	煮込み料理の特徴	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第7回	西洋料理	スペイン料理について 米の調理について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第8回	日本料理	加熱調理操作(オーブンを用いた肉の調理)について 季節の特徴的な食材の扱い方について(冬瓜)	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第9回	高齢者の調理Ⅱ	高齢者の調理Ⅱ(シルバーランチ) 班ごとに作成した春の食材を使用した高齢者向け弁当の試作 【アクティブラーニング：実習後、班ごとにお弁当のねらい、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。】	予習30分：配布資料を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第10回	中国料理	中国料理のポイント 中国料理調理器具の特性について 「炒」「炸」について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
			予習30分：次回の授業範

第11回	西洋料理	ゼラチンの調理性について	囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第12回	西洋料理	ひき肉の調理性について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第13回	高齢者の調理Ⅲ	高齢者の献立の立て方と調理Ⅲ(シルバーランチ) 班ごとに作成した夏の食材を使用した高齢者向け弁当の試作 【アクティブラーニング：実習後、班ごとにお弁当のねらい、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。】	予習30分：配布資料を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第14回	中国料理	炸菜（揚げ物）について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第15回	中国料理	点心について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第16回	高齢者の調理Ⅳ	高齢者の献立の立て方と調理Ⅳ(シルバーランチ) 班ごとに作成した秋の食材を使用した高齢者向け弁当の試作 【アクティブラーニング：実習後、班ごとにお弁当のねらい、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。】	予習30分：配布資料を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第17回	中国料理	四川料理について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第18回	西洋料理	鶏卵の調理性について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第19回	西洋料理	ひき肉の調理性について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
			予習30分：次回の授業範

第20回	中国料理	湯菜（汁物）について	囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第21回	西洋料理	ベシャメルソースⅠ パスタを用いた調理について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第22回	高齢者の調理Ⅴ	高齢者の献立の立て方と調理Ⅴ(シルバーランチ) 秋の高齢者向け弁当の試作を基に、お品書き作成も含めたおもてなし弁当を完成させる。 【アクティブラーニング：お弁当のコンセプト、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。】	予習30分：配布資料を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第23回	西洋料理	スープについて 加熱調理操作(煮る)について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第24回	西洋料理	ベシャメルソースⅡ アントルメについて	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第25回	西洋料理	クリスマス料理について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第26回	西洋料理	小麦粉の調理（ケーキ）について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第27回	西洋料理	バタークリームについて デコレーションについて	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第28回	中国料理	蒸菜（蒸し物）について	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。

第29回	日本料理	すしの歴史、寿司の食材及び調理	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第30回	高齢者の調理 VI	高齢者の献立の立て方と調理(シルバーランチ）VI 班ごとに作成した冬の食材を使用した高齢者向け弁当の試作 【アクティブラーニング：実習後、班ごとにお弁当のねらい、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。】	予習30分：配布資料を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。

教科書

「中国料理全書」下山道子（建帛社）

参考書

「調理と理論」山崎清子（同文書院）

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上（通年で評価）
定期試験（筆記）【前期・後期】60%、 実習実技及び課題20%、実習ノート20%

課題等に対するフィードバックの方法

調理を十分に理解して技術を習得するために授業時間外においても調理する機会を積極的に設けること。毎回課題レポートに取り組み、教科書や配布プリント等の講義資料を熟読しまとめる。ノート提出（計4回）を行うので、毎回授業終了に実習内容についてまとめることを復習として勧める。返却しますので、ノートに貼る又はファイルに綴じ学修の参考にすること。

履修のポイント

調理科学と健康の視点を持ち、実習には積極的な姿勢で実習に臨むこと。
食材の都合により、回数が前後する場合がある。

オフィス・アワー

月曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3Ｆ第8・9研究室
※調理実習前後にも、適宜受け付けます（9号館1Ｆ調理準備室）

講義コード	30260001
講義名	マーケティング
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C171
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

フードビジネスの視点から農水産物や加工食品の流通ルートとその担い手である卸売業・小売業、中食を含めた外食産業、食品消費と環境問題や食の安心・安全といった今日の私たちを取り巻く問題について説明していきます。授業は、講義形式で行いますが、授業内容が理解できているかどうかを確認するために「確認プリント」を実施する予定です。本講義を通して私たちの生活の身近な問題からグローバルな問題までを理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、１．私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している、２．生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している、という2項目と関連しています。なお、この科目は、フードスペシャリストの資格を取得する場合には必ず履修しなければならない科目の一つです。

到達目標

１．農水産物や加工食品の流通について説明できるようになる。
２．食品卸売業・小売業の役割や現状について説明できるようになる。
３．食品消費と環境問題、食の安心・安全など今日の課題についても説明できるようになる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	フードビジネスとは何か	オリエンテーション（授業内容、進め方、成績評価等） フードビジネス、フードマーケティングとは何かについて学びます。	予習90分：シラバスと教科書の「５フードマーケティング」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	食生活の変化	食生活がどのように変化してきたのか、その要因	予習90分：教科書の「１食市場の変化」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事

	（1）	について学びます。	項を整理・まとめておくこと。
第3回	食生活の変化（2）	食生活の変化が商品消費をどのように変化させてきたのかを学びます。	予習90分：教科書の「1食市場の変化」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	食品の流通（1）	流通の役割と食品流通の特徴について学びます。	予習90分：教科書の「2食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	食品の流通（2）	生鮮食品の卸売市場流通について学びます。	予習90分：教科書の「2食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	食品の流通（3）	加工食品の流通について学びます。	予習90分：教科書の「2食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	食品の流通（4）	食品小売業（スーパー・コンビニなど）について学びます。	予習90分：教科書の「2食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分；：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	食品の流通（5）	温度帯別食品流通について学びます。	予習90分：教科書の「4主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	主要な食品流通（1）	米、麦、野菜・果物などの流通について個別にみていきます。	予習90分：教科書の「4主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	主要な食品流通（2）	漬物、菓子、飲料などの流通について個別にみていきます。	予習90分：教科書の「4主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	外食産業	外食産業の発展とその仕組みについて学びます。	予習90分：教科書の「3外食・中食産業」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	中食産業	中食産業の発展とその背景について学びます。	予習90分：教科書の「3外食・中食産業」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	食料消費と環境問題	食料消費と環境問題の関係について学びます。	予習90分：教科書の「6食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	食料消費を取り巻く課題	買物難民、地産地消、食育など今日の課題について学びます。	予習90分：教科書の「6食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	食品流通と安全	食品流通に対して、どのような安全策が施されているのかについて学びます。	予習90分：教科書の「6食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

日本フードスペシャリスト協会編『三訂食品の消費と流通』建帛社

参考書

必要に応じて紹介します。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上

筆記試験60%、平常点（確認プリントの提出、授業への取り組みなど）40%
課題等に対する フィードバックの方法
確認プリント等については、原則として次週返却します。
履修のポイント
授業のポイントの整理・まとめを着実に積み重ねて下さい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

講義コード	30270001
講義名	人間関係
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C170
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義では、人とかかわり、人間関係を円滑に運ぶためのカウンセリングの考え方やその基本的な技法を中心に学習し、必要となる技術や理論について理解を深める。とくに対人援助場面でみられる基本的なコミュニケーションの技法とその背景にある考え方を取り上げる。授業は講義形式で行い、授業内で実習を組み込んだり、小レポートを課すことも予定している。また、「ピアヘルパー」の資格取得も視野に入れて講義を進める。人と人との関係を結ぶための基本的な考え方や技法について、心理学の立場から理解し、それらを確実にすることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、将来的な展望としては、人間関係の多様なあり方を理解することを通して、生活科学の問題を理解する基盤となる学修成果を残すことを目指すものとする。

到達目標

１．援助者としての心がまえについて理解する。
２．カウンセリングの基礎的な理論について理解する。
３．援助（ヘルピング）技法の基本について理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス 人間関係で取り扱う問題	授業の進め方、成績評価のしかたなどについて ピアヘルパーとは何か、構成的グループエンカウンターの考え方 【アクティブラーニングの内容】 構成的グループエンカウンターを構成するエクササイズとシェアリングの実際について、いくつかのエクササイズを取り上げて、教員がファシリテーターとなって実施し、ピアヘルピング（仲間同士で助けたり助けられたりする）の関係性を体験を通して実感する。	予習90分：教科書第1章1節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

第2回	カウンセリング概論	カウンセリングの定義・略史・必要性	予習90分：教科書第1章2・7節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	援助関係の形成①	カウンセリングの種類、援助者としての資質	予習90分：教科書 第1章3・4・6節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	援助関係の形成②	援助のプロセス（リレーションづくり、問題の把握、問題の解決）	予習90分：教科書第1章5節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	カウンセリング理論①	自己理論と精神分析理論にもとづくカウンセリングの考え方	予習90分：1年次「人間と心理」“臨床の心理学”を見直す。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	カウンセリング理論②	学習理論と論理療法理論にもとづくカウンセリングの考え方	予習90分：1年次「人間と心理」“臨床の心理学”を見直す。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	ヘルピングの技法①	非言語的技法～非言語的コミュニケーションに注目した援助技法 【アクティブラーニングの内容】 言語的技法と非言語的技法の双方を用いた二人一組になってエクササイズを行う。その後、普段はあまり自覚しないが、コミュニケーションとは言語・非言語のいずれかの技法を用いて行われるわけではなく、双方が伴ってはじめてコミュニケーションが成立することを体験を通して実感する。	予習90分：教科書第2章3節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	ヘルピングの技法②	言語的技法～言語的コミュニケーションによる基本的な援助技法（受容・繰り返し・明確化） 【アクティブラーニングの内容】 傾聴の技法のうち、受容・繰り返し・明確化について、履修者が二人一組になってのエクササイズを行い、傾聴を体験する。その後、エクササイズの感想等をシェアリングし、相手の良かった点やこうした方がもっと良くなる点などを共有する。	予習90分：教科書第2章1節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	ヘルピングの技法③	言語的技法～言語的コミュニケーションによる基本的な援助技法（支持・質問） 【アクティブラーニングの内容】 傾聴の技法のうち、支持・質問について、履修者が二人一組になってのエクササイズを行い、傾聴を体験する。その後、エクササイズの感想等をシェアリングし、相手の良かった点やこうした方がもっと良くなる点などを共有する。	予習90分：教科書第2章2節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

第10回	問題解決の対処法①	６つの対処法	予習90分：教科書第2章5節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	問題解決の対処法②	援助技法向上のための方法	予習90分：教科書第2章7節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	対話上の諸問題への対応①	援助時に起こりやすい状況	予習90分：教科書第2章4・6節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	対話上の諸問題への対応②	援助者の心がまえ	予習90分：教科書第2章4・6節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	活動許容範囲①	青年期に生じるさまざまな課題とそれへの対処①	予習90分：教科書第3章を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	活動許容範囲②	青年期に生じるさまざまな課題とそれへの対処②、活動時の留意点	予習90分：教科書第3章を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』図書文化社

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。
筆記試験40%、レポート課題30%、授業への参加度30%を総合して評価します。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

講義への積極的な取り組みを期待します。本科目は、「ピアヘルパー」資格取得にかかわる科目（「人間と心理」「臨床心理学」「人間関係」）のひとつです。普段から人の行動に興味を持ち、各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となります。配布資料・ノートのまとめを復習として勧めます。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30〜13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。

※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	30280001
講義名	臨床心理学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C150
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床心理学は、心理学で蓄積された理論や技法を用いた応用的・実践的な学問領域である。人の心の安定をはかるための臨床援助活動の実際について理解を深めることが求められるが、その基本は自己を理解し、自己と他者は異なる存在であるということを認識してコミュニケーションをはかるところにある。本講義では、臨床心理学に関連するテーマとともに、自己理解や他者理解といったテーマを取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによってVTR視聴や実習を取り入れる予定である。なお、対人場面におけるさまざまなコミュニケーションの特徴を学修し、併せて、自己と他者の違いを実感しながら、自らのコミュニケーション能力を理解することを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、将来的な展望として、人の多様性を加味した生活科学を心理的側面を通して考えることができる能力の養成の基盤となる学修を目指す。

到達目標

１．自己理解・他者理解について学修し、自己と他者の違いを実感する。
２．対人場面におけるコミュニケーションの特徴について理解する。
３．臨床心理学で使われる専門用語（カウンセリングの専門用語など）について理解する。
４．「相手の話を聞く」姿勢と「自らのことを話す」姿勢について理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス 臨床心理学と	授業の進め方、成績評価のしかたなどについて 一般的な問題解決のプロセスと臨床心理学における問題解決のプロセスの異同および臨床心理学の位置づけについて取り上げる。	予習90分：教科書pp.12-23を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と

	は何か①		照合する
第2回	臨床心理学とは何か②	臨床心理学の活動や基本理念について取り上げる。	予習90分：教科書pp.24-44を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第3回	アセスメント①	アセスメントのための情報収集や分析方法からケース・フォーミュレーションを行うこと、つまり援助は自分の勘や経験によって進められるのではなく、仮説－検証のプロセスが大切であることを取り上げる。	予習90分：教科書pp.46-54を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第4回	アセスメント②	心理検査の概要（検査の特色や目的等）について取り上げる。	予習90分：教科書pp.56-75を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第5回	人の発達と心の問題①	発達段階における特徴と諸問題について取り上げる。	予習90分：教科書pp.78-85を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第6回	人の発達と心の問題②	発達過程における具体的な問題について取り上げる。	予習90分：教科書pp.86-119を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第7回	心の疾患と理解①	異常心理学、不安障害について取り上げる。	予習90分：教科書pp.122-143を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第8回	心の疾患と理解②	気分障害や精神病について取り上げる。	予習90分：教科書pp.144‐151、160-165を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第9回	心の疾患と理解③	パーソナリティ障がいについて取り上げる。	予習90分：教科書pp.152-159を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第10回	問題への介入①	自分に向き合っていくための心理療法について取り上げる。	予習90分：教科書pp.168-179を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
			予習90分：教科

第11回	問題への介入②	自分の行動や考え方に焦点を当てた心理療法について取り上げる。	書pp.180-193を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第12回	問題への介入③	10・１１回で扱った以外の心理療法について取り上げる。	予習90分：教科書pp.194-235を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第13回	コミュニティへの介入①	児童虐待について取り上げる。	予習90分：教科書pp.194-197,226,246を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第14回	コミュニティへの介入②	危機介入について取り上げる。	予習90分：教科書pp.194-197,226,246を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第15回	社会と臨床心理学	社会の中でと臨床心理学がどのように活用しているのかについて取り上げる。	予習90分：教科書pp.272-285を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する

教科書

下山晴彦監修 『面白いほどよくわかる臨床心理学』 西東社

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。
筆記試験40%、レポート課題30% 授業への参加度30%を総合的に評価します。

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

講義への積極的な取り組みを期待します。本科目は、「ピアヘルパー」資格取得にかかわる科目（「人間と心理」「臨床心理学」「人間関係」）のひとつです。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。
※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	30290001
講義名	生活環境論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R111
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

地球環境問題は多岐にわたると同時に、私たちのすぐ身近に存在している。大気や水質の変化、土壌の汚染と劣化、生態系の危機など、日々の新聞にいずれかの環境問題の記事が必ず見られる。この講義では、私たちの生活のなかで生じている環境問題を、大気や水、土壌の汚染、私たちの社会がかかえる廃棄物・エネルギー問題、自然環境の変化など、個々の話題に着目して論じる。同時に、大気汚染、生態系の危機、エネルギー問題などについて、問題点を明確にし、解決策を探る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

今日、世界規模で生じている地球環境問題について興味を持続し、たとえば廃棄物の削減や省エネルギーを意識した活動など、社会に出ても環境問題を考えた生き方ができる人材を育てる。生活科学科のディプロマポリシーにある「生活科学に関する基礎的な知識」を科学的に捉えることに関係し、その能力を養う。

到達目標

今後、ますますクローズアップされてくる地球環境問題について、すこしでも地球環境の現状への興味をかきたて、これから社会に出たあとでも環境に配慮した生活ができるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	公害問題と環境問題	環境問題と公害問題について違いを理解する。過去に起こった大気汚染による公害問題を知る。また、これに関連して、大気汚染についてどんな法律があるのかを見ていく。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト12頁～14頁、55頁～60頁を見ておく。復習は19頁2.1の問題を考える。
第2回	大気汚染	中国から日本へ渡ってくるの大気汚染物質について知る。大気汚染の原因となる物質について理解する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト60頁～63頁を見ておく。復習として、67頁の問題をやってみる。次の授業時に解答する。

第3回	原子力発電所からの放射能汚染（環境被害）	2011年3月の東日本大震災では多くの人命が失われ、同時に福島の原子力発電所の事故で放射能汚染が広がった。原子力発電所の事故により、どのような環境汚染が広がることになったのか、その概略を見ていく。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前配布プリントを読んでおく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する。
第4回	地球温暖化の現状と海洋の酸性化	地球規模で気候変動が生じていることや、CO2が増加している事実をデータで知り、今後予想される災害や海洋の変化などについて知る。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト101頁～105頁を見ておく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する。99頁7.9の問題を解いてみる。
第5回	生態系と日本列島の自然環境	生態系という概念を理解し、日本列島の自然環境の多様性に触れる。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト111頁～121頁を見ておく。復習は122頁9.3について調べまとめる。
第6回	廃棄物の種類と関連法規	廃棄物量の現状や循環型社会を目指す法整備が進められていることを知る。包装容器の再利用の道を探る。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト123頁～125頁を見ておく。江戸のリサイクル社会についてまとめる（141頁～147頁）。
第7回	パッケージの機能とデザイン	商品等を包むパッケージについて、さまざまな機能、デザイン、素材について学ぶ。＜アクティブラーニング＞パッケージの再利用、活用事例について考える。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト126頁～128頁、133、134頁を見ておく。復習として140頁、10.8をやってみる。
第8回	エネルギー問題	枯渇性エネルギー、再生可能エネルギーにはどのようなものがあるかを知る。電気やガス、ガソリンといったエネルギー源の消費推移等を知る。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト106頁～108頁を見ておく。復習は148頁11.4を考えてみる。
第9回	エコロジカルフットプリントの世界地図	ＷＷＦが発行するレポートに載る「エコロジカルフットプリントの世界地図」をもとに、これから社会をつくる私たちが、目指すべき人間社会はどのようなものであるかを考える。	予習として配布プリントの穴埋めをしておく（90分）。テキスト6頁～9頁を読んでおく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する。
第10回	貧困が招く環境破壊	世界の不平等を理解し、発展途上国といわれる国々でとりかえしのつかない破壊が生じている現状を見ていく。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト4頁～5頁を見ておく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する。
第11回	国際的な環境問題をふせぐための条約	野生生物保護や廃棄物の越境を防ぐための国際的な取り決めを知る。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト15頁～19頁を見ておく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する。
第12回	淡水と海水、水質の変化	地球上における淡水の割合を知り、淡水や海水がひどく汚染されている現実を知る。水質汚染を防ぐ方法について考える。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト41頁～49頁を見ておく。40頁、3.1の問題を解いてみ

			る。
第13回	アラル海の悲劇	世界第４位の湖であったアラル海が消滅の危機にある。人間の事業活動が地球規模で環境破壊を招くことを知る。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前に配布プリントの穴埋めをしておく。復習はアラル海の消滅までの経緯をまとめる。
第14回	大地の劣化、砂漠化	アジアやアフリカなど、世界各地で進行する砂漠化の現状を知る。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト1頁～4頁を見ておく。復習は9頁、1.6の問題について記述してみる。
第15回	ドネラ・メドウズが提唱する幸せの条件	現代のモノと情報があふれる人間社会が抱える環境問題をふり返り、人間らしく生きるために必要な事物は何であるかを考える。	予習の時間90分、テキスト141頁～148頁を読んでおく。復習の時間は90分で、テキスト9頁1.5の問題について記述してみる。

教科書
鈴木孝弘『新しい環境科学』改訂２版（駿河台出版）
参考書
講義のなかで必要なとき紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定 50 点以上 課題の提出（20%）、期末試験（80%）をもとに総合的に評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
提出された課題は、こちらでチェックし、記述レポート等は添削し、補足説明を付して返却する。また細かくチェックできないときはレポート等を授業時間内で返却し、解説し、場合によっては模範解答を掲示、または配布する。
履修のポイント
求められた配布プリントの提出や、レポート課題はかならず提出すること。環境問題に関するニュースや新聞記事等を読み理解しておく。配布プリントは記入漏れがないようにしておく。
オフィス・アワー
水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーとする。９号館３階の第１０研究室に来ること。

講義コード	30300001
講義名	コンピュータⅠ
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R112
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

私たちの日常生活では、スマートフォンをはじめとするさまざまな情報操作機器に触れる機会が多い。そのなかでもコンピュータは情報検索や文書作成、データ管理など多岐にわたる機能が備わっている。このコンピュータⅠの演習科目では、主にワードソフト2010を使い、文書作成の基礎操作を中心に学ぶ。またパワーポイント2010をつかって、口頭発表データの作成や、インターネット機能を活用した情報検察の技術についても学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

コンピュータⅠ・Ⅱの授業をとおして、コンピュータの操作に慣れる。ソフトとして、ワード、エクセル、パワーポイントを使い、データの作成、基礎的な表計算処理等ができるようにする。生活科学科のディプロマポリシーにある「生活科学に関する基礎的な知識」を科学的に捉えることに関係し、その能力を養う。

到達目標

ワードとパワーポイントの基礎的な操作方法を、実際の社会の現場で発揮できるレベルまで引き上げる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	入力方法	漢字の入力方法、読み方がわからない漢字の入力方法を学ぶ。アルファベット、数字入力の方法も学ぶ。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第2回	編集記号と記号入力	ワードソフトで使われる編集記号について理解する。また、記号の入力方法を学ぶ。実技として、簡単な文章入力にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
			予習の時間90分、復習の時

第3回	編集機能	中央揃え、文字サイズ、フォント、アンダーラインといった文字修飾の方法を学ぶ。	間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第4回	表作成とセル内の文字等の編集	罫線をつかった表を作成する。表内の文字列の配置の変え方などを学ぶ。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第5回	パワーポイントの使い方①	パワーポイントを使った文書を作成する。（１回目）＜アクティブラーニング＞自分自身の趣味や特技についてパワーポイントデータにまとめる。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第6回	パワーポイントの使い方②	パワーポイントを使った文書を作成する。（２回目）＜アクティブラーニング＞自分自身の趣味や特技についてパワーポイントデータをもとに、口頭で発表する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第7回	敬語表現	手紙や文書としてつかう敬語表現を確認し、A4用紙一枚で文書を作成する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第8回	ワードアート、図の挿入	ワードアートや図の挿入方法を学ぶ。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第9回	印刷の仕方	ヘッダーやフッターを活用した印刷の方法を学ぶ。印刷する際の注意点について。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第10回	ワード実技問題１	ワードソフトを使って課題の文書を作成する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第11回	段組みを含む文書作成	段組みや脚注といった、文書を美しくするよう工夫した文書づくりを行う。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第12回	差し込み印刷	同じ文書の一部だけを、差し替えて印刷する方法を学ぶ。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第13回	インターネットでの情報検察とセキュリ	インターネットに接続して、地図や電車の時刻表などを調べる。自分にとって必要な情報を見極める方法を学ぶ。インターネットを使う際のりすくにつ	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題

	ティー	いて認識する。	を仕上げる。
第14回	ワード操作のまとめと知識問題	ワードソフトの使い方を総復習し、同時に知識問題にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第15回	ワード実技問題２	ワードソフトを使い、実技問題を仕上げる。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。

教科書
『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』 実教出版
参考書
講義のなかで必要なとき紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定 50 点以上 提出された課題（50%）、実技試験（30%）と知識問題（20%）の点数をもとに評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
配布プリントや、作成データを印刷し提出する。こちらで確認後、返却し授業内で課題への回答について解説する。記入漏れ、データ作成の不備があるときは再提出をもとめる。
履修のポイント
提出を求められた課題は、かならず提出すること。
オフィス・アワー
水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。９号館３階の第１０研究室に来ること。

講義コード	30310001
講義名	コンピュータⅡ
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C130
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

前期のコンピュータⅠにひきつづき、後期開講のコンピュータⅡの演習科目では、エクセルソフトを活用した表計算やグラフ作成を中心におこなう。エクセルソフトを使いこなすことで、さまざまな表計算だけでなく、グラフの作成や名簿などデータベースの管理がスマートにでき、文書作成時のミスも防げる。またエクセルソフトに備わっている数多くの関数を使いこなすことで、数値や文字データの処理をスムーズに進めることができる。後期のコンピュータⅡでは、このエクセルソフトを使った情報処理技術を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

コンピュータⅠとⅡの授業を通じて、コンピュータの操作に慣れる。コンピュータのソフトとして、ワード、エクセル、パワーポイントを使い、短時間で与えられた文書や発表データの作成、基礎的な表計算処理等ができるようにする。生活科学科のディプロマポリシーにある「生活科学に関する基礎的な知識」を科学的に捉えることに関係し、その能力を養う。

到達目標

ワードやパワーポイント、エクセルなどコンピュータの基礎的なソフトの扱い方を、実際の社会や組織の内部で発揮できる高いレベルまで到達する。文書やグラフなどを自信をもって、てきぱきと作成できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	エクセルの画面	エクセルの画面についてその名称、機能を知る。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第2回	関数について	エクセルソフトで使われる関数について、その入力方法や記号の意味を理解する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題

			を仕上げる。
第3回	ＳＵＭ関数とＡＶＥＲＡＧＥ関数	合計を求めるＳＵＭ関数、平均を求めるＡＶＥＲＡＧＥ関数を使い、表計算処理を行う。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第4回	ＭＡＸ、ＭＩＮ関数	ある範囲の中から最大値を求めるＭＡＸ関数、同様に最小値を求めるＭＩＮ関数を使い、表計算処理を行う。また、個々のセルに、さまざまな書式を設定する方法を学ぶ。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第5回	相対参照と絶対参照	相対参照と絶対参照というエクセルソフト独特の用語を理解する。そして、あるセルをかならず参照（絶対参照）するように設定し、順位をつけるＲＡＮＫ関数に生かす方法を学ぶ。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第6回	グラフ作成①	エクセルを使ってグラフをつくる。棒グラフ、円グラフを描く。グラフ画面の様々な要素についてプリントにまとめる。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第7回	グラフ作成②	テキストの課題を見ながら、折れ線グラフや、レーダーチャートグラフ等をつくる。テキストにあるグラフ作成の実習問題にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第8回	印刷方法	エクセルソフトで作成したデータを印刷する方法を学ぶ。印刷したい範囲を指定して、上手く用紙１枚におさまるよう、倍率を変え、体裁を整える。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第9回	実技問題	エクセルソフトの実技問題にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第10回	データベース作成	部員名簿等を作成し、データベースの基本的な形を理解する。データの並べ替え、漢字にひらがなを表示させる方法を学ぶ。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第11回	データベース管理とデータ抽出	「フィルタ」を設定する方法を学ぶ。データベースの実技問題にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第12回	文字列操作関数	ふりがなを取り出したり、セル内のある文字だけを抜き出す関数を学ぶ。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
13	ＶＬＯ	指定した値を拾ってくるＶＬＯＯＫＵＰ関	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキス

第　回	ＯＫＵＰ関数	数を学ぶ。	トを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第14回	論理関数	ＡＮＤ関数、ＯＲ関数、ＩＦ関数といった論理関数について学ぶ。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第15回	模擬問題	エクセルソフトをつかった一覧表やグラフ、データベース作成の演習を行う。＜アクティブラーニング＞実技問題にチャレンジし、完成したら印刷して提出する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。

教科書

『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』 実教出版 （コンピュータＩと同じテキストである）

参考書

演習のなかで、必要なときに紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 50 点以上 提出された課題（50%）、実技試験（30%）と知識問題（20%）の点数をもとに評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

配布プリントや、作成データを印刷し提出する。こちらで確認後、返却し授業内で課題への回答例等を解説する。記入漏れや、データ作成の不備があるときは再提出をもとめる。

履修のポイント

休まず出席すること。演習は１５回しかありませんので、一度の欠席でも、一項目がすっかり抜けてしまいますので、休まないこと。また、課題はかならず提出すること。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。９号館３階の第１０研究室に来ること。

講義コード	30320001
講義名	家庭経営学
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C172
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

授業では、家族、結婚、育児、少子高齢化、消費者問題、地域とのつながりなど、私たちの身近な生活に関する事柄（問題）を取り上げていきます。授業形態は、少人数と思われますのでテキストの内容を報告してもらい、ポイントを確認しながら質疑応答を行っていきたいと考えています。本講義は、私たちの身近な問題を多角的に、また科学的に理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、１．私たちの生活を身近な問題からグローバルななテーマまで多角的に理解している、２．生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している、と関連しています。本講義を通じて、私たちの生活に身近ないろいろな事柄を考えていきます。

到達目標

私たちの身近な生活問題を多面的・科学的に理解することによって、問題をより深く考え、それに対処できる知識を修得することできます。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	生活経営とは	オリエンテーション（授業内容、進め方、成績評価等） 生活経営とは何かについて学びます。	予習90分：シラバスをよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	家族の機能と役割	家族の機能と役割、家族構成の変化について学びます。	予習90分：教科書第1章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第3回	生活時間	私たちの生活時間の配分がどのように変化してきているのか、ワーク・ライフ・バランスについて学びます。	予習90分：教科書第2章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

第4回	超高齢社会	少子高齢化の進展と高齢者の生活実態について学びます。	予習90分：教科書第3章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	現代の結婚	結婚とは何か、現代の結婚と離婚の状況について学びます。	予習90分：教科書第4章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	少子化問題	少子化の現状、育児問題について学びます。	予習90分：教科書第5章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	生活と家計	家計の実態、格差などについて学びます。	予習90分：教科書第6章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	家計と貯蓄	家計における貯蓄と負債、保険について学びます。	予習90分：教科書第7章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	カード社会	カード社会とその問題点について学びます。	予習90分：教科書第8章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	消費者問題	消費者問題の実態について学びます。	予習90分：教科書第9章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	私たちの衣食住について考える	私たちの衣食住の問題点について学びます。	予習90分：教科書第10章から第12章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	地域・コミュニティ	個人と地域、社会との関わりがどうあるべきかを学びます。	予習90分：教科書第13章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	日本における女性の地位	日本の女性の地位が国際的にどうなのかを学びます。	予習90分：教科書第14章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	国際化と生活	グローバル化と私たちの生活について学びます。	予習90分：教科書第14章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	私たちの生活について	これまでの授業に関する総合的なデスカッションを行います。	予習90分：教科書全体を読み返し、重要点を確認しておくこと。復習90分：授業内容を整理し文章としてまとめておくこと。

教科書

赤星礼子・奥村美代子編『新版生活経営学』九州大学出版会

参考書

必要に応じて紹介します。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
レポート60％、平常点（授業での質疑応答、取組みなど）40％

課題等に対する
フィードバックの方法

課題等を提出してもらった場合は、原則として次週返却します。

履修のポイント

授業のポイントの整理・まとめを着実に積み重ねて下さい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

講義コード	30330001
講義名	住居学
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C150
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 峰岸 康之	指定なし

授業の概要と教育目標

人が生活する上での基盤となる「住まい」を学ぶことは、
「建築物としての室内」と「室内で行われる生活行為」の両面から考察していくことが必要です。
そして「住まい」を取り囲む「環境」との関係も見逃すことはできません。
日本国内やヨーロッパの気候風土と住居の事例を観ていきながら、そこでの生活文化を考察していきます。
多様な住まい方の形を知ると共に、人間の持つ五感に対しての、住まいのつくり方の工夫も探求していきます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活文化としての「住まいかた」、「住まいをとりまく環境」についての科学的な考察と理解を深め、
快適で個々の生活スタイルに適した心地良い「住まいかた」や「住まいの演出」を実現していくための、
知識、感性、考察の技術を修得すること。

到達目標

日本及び世界の地理的条件や気候風土から、古来よりの住居のつくり方についての理解を深め、現代の住まいと比較し、その特徴や環境への対応、そして変化について理解を深めること。
室内で快適に生活するための、ハード面及びソフト面におけるすまいづくりの工夫を、人間の持つ五感を軸に考察し、心地良い住まいの演出を実践していくための知識・技術の習得。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス	生活文化を学ぶ／日本の気候風土と住宅のつくりかた	予習として シラバス確認及 通読90分 復習として 関連事項の調査

			研究90分
第2回	気候風土と住居形態（日本）	古民家の間取り／現代住宅の間取り／日本各地の住居 提示課題のテーマに沿い、生活様式や気候風土による住まいの 違いや共通点等、その特徴について考察を深めるため、 「アクティブラーニング」型式の意見交換、討論を行う。	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査 研究90分
第3回	生活様式と住居形態	生活行為と室空間の構成 提示課題のテーマに沿い、生活様式や気候風土による住まいの 違いや共通点等、その特徴について考察を深めるため、 「アクティブラーニング」型式の意見交換、討論を行う。	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査 研究90分
第4回	社会環境と住居形態	社会生活と住まいの関係 「どこに住み、どう生活するか」 提出レポートの着眼やや考察及び展開において 「アクティブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行う。	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査 研究90分 課題レポート１
第5回	五感とインテリア１－１	光と色彩 色彩の基礎、心理効果・色彩調和	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査 研究90分
第6回	五感とインテリア１－２	あかりの演出 照明計画の基本とアンビエントライティング	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査 研究90分
第7回	五感とインテリア２	素材と材質感 内装仕上げ材の種類や性質・多様なテクスチュア	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査 研究90分
第8回	五感とインテリア３	音環境と室内 防音・遮音 、快適な音環境への配慮	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査 研究90分
第9回	五感とインテリア４	食と住まい 食文化と住文化、食事空間と生活スタイル	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査 研究90分 課題レポート２

第10回	五感とインテリア５	香り・空気環境 香りの文化、空気環境の整備、VOC対策等 提出レポートの着眼やや考察及び展開において 「アクティブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行う。	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第11回	気候風土と住居形態（欧州）	ヨーロッパの住居 Ⅰ	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第12回	気候風土と住居形態（欧州）	ヨーロッパの住居 Ⅱ	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第13回	気候風土と住居形態（欧州）	ヨーロッパの住居 Ⅲ	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分 課題レポート３
第14回	気候風土と住居形態（欧州）	ヨーロッパの住居 Ⅳ	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第15回	情報技術と住まい	情報技術の活用と課題 「未来の私達の住まい」 提出レポートの着眼やや考察及び展開において 「アクティブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行う。	予習として 配布資料の確認 通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分

教科書

独自の講義資料を作成配布し、参考文献等を随時紹介していきます。

参考書

新しい住まい学 小宮洋一・片山勢津子 他 （井上書院）
ヨーロッパの家１．２．３．４（講談社）

成績評価の方法・基準

課題レポートの提出／課題１（３０%）、課題２（４０%）、課題３（３０%）より評価、
単位認定 ５０点以上 とします。

課題等に対する
フィードバックの方法

提示された課題テーマ及び自ら選定した課題テーマに対する調査や考察、着眼や展開に対する取り組みを、小論文型式のレポート作成という形で研鑽していきます。
課題の着眼において、手掛かりとなる情報の提示や、考察のプロセスや展開方法などを提示して

理解を深め、研究課題を解決していく能力を修得できるようフィードバックを行っていきます。

履修のポイント

日常生活の基本的な要素である『衣・食・住』生活科学全般に関わる内容で、
生活文化にかかわる職業を志す人としての基本的な教養です。
講義内容を通して、身近な「住まい」の環境に、問題意識を持ち、
その解決策や、改善案を探っていくことを心掛けましょう。

オフィス・アワー

非常勤）
前期 ： 水曜（２限デザイン科授業） １０：５０～１１：００ １号館 デザイン棟 １３１山本研究室
＊個別に質問や損談がある場合は、授業前又は後に申し出てください。

講義コード	30340001
講義名	育児学
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C173
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

育児の目的は、心身ともに健康な子供を育てることにあるが、1980年ごろからとくに指摘されているのは、体の健康は順調であっても、心の健康に問題のある子供が増加している点である。現代社会においてどのような育児が望ましいかという視点を持ちながら、出生前育児、乳幼児の心身の発達発育・栄養・養護等について学ぶ。現代社会における育児支援の必要性を理解し、育児に関する知識・技術について学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」をキーワードに生活を科学的に理解を深めることを目指し、「育児」「乳幼児の発育発達」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する育児に対応する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・育児の知識を習得する。（出生前育児，乳幼児の心身の発育・発達，乳幼児の栄養，子供の主な病気、けが、事故について）
・自分の成長の記録を作成して育児のもつ意義やあり方について学び、自身の育児に活かす。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス	育児における価値観の変遷/日本と世界の育児	予習90分：育児に関する新聞記事を収集する。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	乳幼児の心身の発	０歳から２歳までの発育と発達Ⅰ（自分の成長記録を作成） 【アクティブラーニングの内容】 履修者に母子手帳を用いて乳幼児期の発育・発達につい	予習90分：教科書1章及び2章を読む。復

	育・発達(１)	て月齢毎に意見交換をさせ、乳幼児期の特徴について理解するきっかけを作る。また資料を用いてについて解説して理解を深め、再度学生自身の乳幼児期の発育・発達について意見交換する。	習90分：配布資料を見直す。
第3回	乳幼児の心身の発育・発達(２)	３歳から５歳までの発育と発達Ⅱ（自分の成長記録を作成）	予習90分：教科書1章及び2章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第4回	環境と育児	子供の成長と環境/現代の社会文化環境/家庭生活環境	予習90分：配布した文献及び資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	出生前育児	女性の生理と妊娠/胎児の発育と生理/胎児に及ぼす諸因子	予習90分：配布した文献及び資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	乳幼児の心身の発育・発達(３)	０歳から２歳までの発育と発達	予習90分：教科書1章及び2章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	乳幼児の心身の発育・発達(４)	３歳から５歳までの発育と発達	予習90分：教科書1章及び2章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	乳幼児の栄養(１)	母乳、ミルクの与え方, 離乳食について	予習90分：教科書1章及び2章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	乳幼児の栄養(２)	幼児食及びおやつ,食物アレルギーについて	予習90分：教科書1章及び2章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第10回	子供のおもな病気とその予防	子供のおもな病気とその予防、症状と手当て	予習90分：教科書3章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
	子供のけ		予習90分：教科

第11回	がと事故の応急処置	子供のけがと事故の応急処置	書3章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	子供の養護(１)	衛生的な環境管理、乳幼児の生活を通じてのしつけ	予習90分：教科書1章及び2章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	子供の養護(２)	乳児のための育児技術（抱っこ・おむつ交換・授乳・ベビーマッサージ着替え・歯磨き・食事及び排泄の世話）	予習90分：配布資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	まとめ	現代社会における育児及びその支援についてⅠ 【アクティブラーニングの内容】 履修者に現代社会における育児及びその支援について意見交換をさせ、おいしさの科学について理解するきっかけを作る。またこれまでの講義を資料を用いて振り返り解説して理解を深め、再度意見交換する。	予習90分：配布した文献及び資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第15回	まとめ	現代社会における育児及びその支援についてⅡ	予習90分：配布した文献及び資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。

教科書
最新版らくらくあんしん育児(Gakken)
参考書
育つ・育てる（建帛社）子ども学概論(丸善プラネット）
成績評価の方法・基準
単位認定：50点以上 課題Ⅰ50％ 課題Ⅱ50％
課題等に対する フィードバックの方法
育児学をよく理解するために日々の乳幼児に関する情報収集が事前学習につながります。また、教科書や配布プリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。
履修のポイント
乳幼児に興味を持ち授業に積極的に参加することが望ましい。
オフィス・アワー
木曜日、12：30～13：20(昼休み)、９号館３階第９研究室 ※講義授業前後にも、適宜受けます。

講義コード	30350001
講義名	被服学及び実習
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C113
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし
教員	久保田 恵美子	指定なし
教 員	荒井 尚美	指定なし

授業の概要と教育目標

被服の役割や機能、歴史について概説する。被服材料の大部分をである繊維製品の種類、構造、性能に関する基礎的な事項、染色や仕上げ加工、新しい素材の特徴について説明し、快適で着心地の良い被服の着用の条件、着用した被服の洗濯、管理などについて解説する。実習では、縫製用具や裁縫ミシンの使い方、手縫いの種類とその方法を学ぶ

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学日生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、基礎の1つとなる衣生活について学び生活を取り巻く社会環境や文化について科学的理解できることを学ぶ。ここでは、被服構成の概略について学習し、小学校、中学校の家庭科被服分野の学習に必要とされる基本的技術の習得をめざす。

到達目標

家庭科教育実習に対応できる資質・技術を身につけられるよう、確実に自分の技術にすることを目標とする。二年次の教育実習には自信を持って望むものとする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明、授業と資格との関係等	復習60分:配布資料を見直す。
第2回	被 服 学	被服着用の目的と機能、被服の起源と形	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第3回	被 服 学	繊維の種類、構造と性能	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。

第4回	被 服 学	糸の種類と性質、構造と性質	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第5回	被 服 学	布地の種類、構造と性質	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第6回	被 服 学	被服の洗濯、染み抜き、保管管理	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第7回	被服構成および被服構成実習	基礎縫いⅠ アクティブラーニング：簡単な小物の製作。	予習60分前回の授業を見直す、復習:基礎縫いを練習しておくために90分以上必要である。
第8回	被服構成および被服構成実習	基礎縫いⅡ アクティブラーニング：簡単な小物の製作。	予習60分前回の授業を見直す、復習:基礎縫いを練習しておくために90分以上必要である。
第9回	被服学／被服構成および被服構成実習	授業の概要説明/縫製用具の種類と使い方	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第10回	被服構成および被服構成実習	基礎技術Ⅰ アクティブラーニング：縫い方の基本について実際に作業する。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第11回	被服構成および被服構成実習	基礎技術Ⅱ アクティブラーニング：縫い方の基本について実際に作業する。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第12回	被服構成および被服構成実習	縫製技術Ⅰ アクティブラーニング：縫い方の応用について実際に作業する。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第13回	被服構成および被服構成実習	縫製技術Ⅱ アクティブラーニング：作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第14回	被服構成および被服構成実習	縫製技術Ⅲ アクティブラーニング：作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第15回	被服構成および被服構成実習	縫製技術応用／中学校教材の研究→作品提出	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第16回	被 服 学	技術・家庭（家庭分野）教材研究（被服領域）Ⅰ	予習60分前回の授業を見直す、復習:60分 配布資料を見直すために必要である。
第17回	被 服 学	技術・家庭（家庭分野）教材研究（被服領域）Ⅱ	予習60分前回の授業を見直す、復習:60分配布資料を見直す必要である。
第18回	被服構成および被服構成実習	布を用いたものの製作Ⅰ アクティブラーニング：作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第19回	被服構成および被服構成実習	布を用いたものの製作Ⅰ アクティブラーニング：作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
	被服構成およ	布を用いたものの製作Ⅰ	

第20回	び被服構成実習	アクティブラーニング：作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第21回	被服構成および被服構成実習	日本の伝統・文化（和服の文化） アクティブラーニング：和服に触れる。	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために120分以上必要である。
第22回	被服構成および被服構成実習	日本の伝統・文化（和服の文化） アクティブラーニング：和服に触れる。	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために120分以上必要である。
第23回	被服構成および被服構成実習	実習のまとめ	予習60分前回の授業を見直すために必要である。

教科書

随時資料の配布

参考書

新被服材料学 建帛社
衣生活概論 井上書院
衣生活の科学 建帛社

成績評価の方法・基準

単位認定５０点以上／ 実技課題（作品の技術力、完成度等・提出期限厳守等々）
※本授業は作品提出等により成績評価を行い、定期試験は実施しない

課題等に対する
フィードバックの方法

生活の中での、被服に付随するもの全般に関心をもち常日頃より研究

履修のポイント

講義及び実技ですので,特段の理由が無い限り休まず出席して下さい。授業の復習は大事です。

オフィス・アワー

火曜日（12：30～13：20お昼休み）荒井尚美、 月曜日（12：30～13：20お昼休み）久保田恵美子、 月曜日（12：30～13：20お昼休み）9号館3階第7研究室 橋本まさ子

講義コード	30360001
講義名	解剖学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C214
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 煙山 健仁	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養面から健康の増進と維持のかかわりを学習するには、人体の解剖学（構造）を理解する必要があり、ヒトの生命活動である栄養摂取から排泄までを学習する。栄養学の基礎知識である「食べ物の消化・吸収、代謝、排泄」という一連の流れを、どの器官系で行っているか、また、生体の恒常性を維持している器官系について学習する。
本科目では、食・栄養・健康という幅広い分野で科学的根拠に基づく栄養の実践活動ができるようになるため、人体のしくみを説明できるようにする。消化器系、呼吸系、腎・泌尿器系、循環器系、生殖器及び感覚器の構造と機能について、説明できることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーでは、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について理解していることが求められており、解剖学の理解を通して、その目標達成に必要な知識を養う。

到達目標

人体の構成を器官・器官系レベルで体系的に理解し、構造や機能を説明できる。栄養学に関わる人体の構造の基礎的な知識を身につける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	解剖学とは	解剖学とは、授業の進め方 <アクティブラーニングの内容> 「生きるためには？」を考える。	予習90分：図書やインターネットで解剖学と生理学の違いについて調べる。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第2回	骨格・	全身の骨格・筋肉、骨・筋肉の構	予習90分：教科書1章・筋骨格系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決

	筋系	造	できない場合は、早めに質問に来る。
第3回	循環器系	全身の血管、心臓の構造	予習90分：教科書1章・循環器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第4回	血液	血液の成分とはたらき	予習90分：教科書1章・循環器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第5回	消化器系１	口腔・咽頭・食道の構造、嚥下	予習90分：教科書1章・消化器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第6回	消化器系２	胃・小腸・大腸の構造、消化と吸収のしくみ	予習90分：教科書1章・消化器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第7回	消化器系３	膵・肝・胆の構造	予習90分：教科書4章・腹部背部を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第8回	呼吸器系	鼻腔・咽頭・喉頭・気管・肺の構造	予習90分：教科書1章・呼吸器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第9回	腎・泌尿器系	腎臓・尿管・膀胱・尿道の構造、尿産生のしくみ	予習90分：教科書1章・泌尿生殖器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第10回	内分泌系	内分泌器官とホルモン	予習90分：教科書1章・内分泌系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第11回	神経系１	中枢神経系、末梢神経系、脳・脊髄のしくみ	予習90分：教科書1章・神経系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第12回	神経系２	運動神経と知覚神経、自律神経系	予習90分：教科書1章・神経系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第13回	感覚器系	視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚	予習90分：教科書1章・感覚器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第14回	外部環境からの防御	皮膚、免疫、体温調節	予習90分：教科書1章・感覚器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第15回	生殖器系	男性生殖器、女性生殖器	予習90分：教科書1章・泌尿生殖器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。

教科書

ぜんぶわかる人体解剖図、坂井建雄・橋本尚詞 著、成実堂出版

参考書

人体の構造と機能（１）解剖生理学、坂井建雄・岡田隆夫 編集、医学書院

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
授業中の小テストやレポート（20%）、期末テスト（80%）で評価する。

課題等に対する フィードバックの方法
授業内で小テストやレポート課題を課すことがある。授業内での小テストやレポートは、実施した次の回の授業で内容を解説する。
履修のポイント
自分だけの学習では正しい知識の理解が難しいので、講義に出席することが大切です。 講義では話し（ストーリー）を聞くことに集中して下さい。
オフィス・アワー
月曜日～水曜日、金曜日（09：20～18：10）、10号館病理・解剖実習研究室

講義コード	30370001
講義名	生理学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C233
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岡安 勲	指定なし

授業の概要と教育目標

人間の生存と活動を支えるために必要な栄養を科学的根拠に基づいて提供する栄養士にとって、人体の構造や働きを知ることは極めて重要である。そこで解剖学で学んだ知識をもとに、人体の正常な働きをその構造単位である細胞レベルから組織・器官・器官系レベルに至るまで各臓器を体系的に関連付けて学べるような講義を行う。
生理学に重要なキーワードも含めて解説・討論します。また、アクティブラーニングを想定し、１４班にグループ分けして、あらかじめグループ毎に課題を設定して発表（プレゼンテーション）してもらいます。グループの発表後に質疑応答を行い、理解を深めます（アクティブラーニング）。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科の目標である「生活を身近な問題から、グローバルなテーマに至るまで幅広く研究し、栄養士として実践を重視し健康、栄養の分野で活躍できる人材」をめざして、そのディプローマポリシーとしての「人間のからだ、食品、栄養に関する基本的なことがら及びその相互作用を理解して、健康・栄養に関わる現場での実践に繋げられる」ようにする。具体的には生体の生理作用を遺伝子、分子、細胞、組織、器官レベルで理解し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようにする。
人体の生命・生理現象がどのようなメカニズムで行われているかを学び、これを習得して、栄養士として医学の基礎知識を身につける。各章で「臨床への入門」として、疾患の概要を理解することにより、逆に生理機能をより深く把握できるようにする。患者さんの栄養計画を作成するために必要な疾患の概要を把握する。

到達目標

１．人体を構成する細胞、組織、器官のはたらきを理解する。
２．器官系を構成している各臓器全体のはたらきを理解する。
３．生命現象とはいかなるものかを理解する。
以上の内容を自分の言葉で説明できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間

第1回	はじめに	生命の源と栄養、人体の構造・機能と栄養、人体の器官系の役割と栄養 初回は以上の項目を概説し、重要な点を強調するとともに質疑応答を行う	予習90分。教科書「はじめに」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第2回	細胞と組織	細胞・組織の構成とはたらき、細胞・細胞内小器官・生体膜・核・人体組織・器官の構造と機能 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 細胞内でタンパクが合成されるメカニズムを、遺伝子からタンパク分子までの経路を説明する	予習90分。教科書１章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第3回	消化器系１	消化器系の構成とはたらき、咀嚼・嚥下・消化管運動の仕組み グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 嚥下の際になぜ食物が気道（気管）に入らないのか？ 消化管運動にはどのような種類があるか？	予習90分。教科書２章前半を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第4回	消化器系２	消化・吸収、糞便形成と排便の仕組み グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 唾液の役割は？ 胃・膵液の役割は？ 胆汁の役割は？	予習90分。教科書２章２後半を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第5回	血液・造血器・リンパ系	血液・造血器・リンパ系の構成とはたらき、骨髄各血球の分化と成熟、赤血球・ヘモグロビンのはたらき 白血球・血小板、血漿タンパク質、止血機能・凝固・線溶系の作用、臨床への応用 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 血液凝固と止血にはどのようなタンパクが担っているか？ ヘモグロビン合成とその分解は？	予習90分。教科書３章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第6回	循環器系	循環器系の構成と機能、心臓・血管の機能、心電図、心臓周期 血管の構成とはたらき、血圧、循環系、循環の調節 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 心電図の波形はどのような機序を示しているのか？ 動脈壁の構造と血圧調整との関連は？	予習90分。教科書４章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第7回	呼吸器系	呼吸とは、軌道、肺、胸郭と呼吸運動・ガス交換及び血液ガス、呼吸機能の指標、呼吸の指標、呼吸の調節 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 呼吸に必要な筋肉はどこにあり、胸式呼吸と複式呼吸の違いは？ 呼吸機能検査による肺障害の推定はどのようになされているか？	予習90分。教科書５章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
		腎尿路系の構成、腎臓の構成とはたらき、体液とその異常、水・電解質の調節におけるホルモンと腎臓の役割、腎臓から分泌されるホルモン	予習90分。教科

第8回	腎・尿路系	グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 腎糸球体と尿細管の機能分担はどのように分かれているか？ 体液調節に関わるホルモンは具体的にはどのように腎臓に関わっているか？	書６章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第9回	生殖器系	生殖器系の構成とはたらき、男性・女性生殖器の発育課程・形態・機能、女性の性周期、排卵・妊娠と分娩 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 女性の性周期をコントロールするホルモンは？ 妊娠に関与するホルモンはどのように作用しているか？	予習90分。教科書７章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第10回	骨格系・筋肉系	骨格系の構成とはたらき、骨の成長、骨形成・骨吸収 筋肉系の構成と機能、赤筋と白筋 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 骨の形成・吸収のバランスは？ 筋肉と血糖との関連は？	予習90分。教科書８、９章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第11回	内分泌系	内分泌系の構成と機能、視床下部・下垂体、甲状腺、副腎、膵島とホルモン 動態、カルシウム代謝調節ホルモン、性腺ホルモン グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 下垂体ホルモンの種類と作用は？ ホルモンのフィードバックとは？	予習90分。教科書１０章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第12回	神経系１	神経系の構成、中枢神経系、末梢神経系、脳の血管支配、 ニューロンの形態と機能 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 大脳の運動野、知覚野の分布は？ ニューロンにおける刺激伝達システムのどのようになされているか？	予習90分。教科書１１章前半を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第13回	神経系２	知覚神経・運動神経・自律神経のはたらき グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 運動神経・知覚神経の抹消から大脳までの経路は？ 交感神経・副交感神経の分布と役割の違いは？	予習90分。教科書１１章後半を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第14回	感覚器系と皮膚組織	感覚器系の構成と機能、味覚，臭覚、視覚、聴覚、平衡覚、皮膚組織の機能、摂食の調節 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 味覚の５大要素とそのリセプターを介しての知覚はどのようになされるか？ 視覚障害の種類と原因は？	予習90分。教科書１２章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第15回	免疫系	免疫の構成と機能、非特異的防御機構、生体防御機構における免疫系の特徴、細胞免疫、体液性免疫、免疫的自己の確立と破綻 皮膚組織、体温調節 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブ	予習90分。教科書１３，１４章を読む。 復習90分。教科

		ラーニング）： 自然免疫と獲得免疫の違いは？ 食物アレルギーとその発症メカニズムは？	書、メモ、ノートを読み直す。

教科書

栄養科学イラストレイテッドシリーズ「解剖生理学」人体の構造と機能 志村二三夫・岡 純・山田和彦編、羊土社

参考書

医学系の生理学教科書及び臨床系臓器別の教科書など
講義の際に、新しい話題を含めて、適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上。
筆記試験 80%、レポート・課題 ・授業への参加度（グループのプレゼンテーション含む）20%

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回の講義修了前に課題（授業内課題）を与え、ミニレポートを提出する。
この評価を次回の講義のはじめに講評をコメントする。このことによって、生理作用の理解、基礎知識の習得をうながす。
各グループの課題に関する発表（プレゼンテーション）には他の学生に客観的評価をしてもらい、授業への参加度の算定に利用する。また、プレゼンテーションの際には質問を出してもらい、アクティブラーニングとして、他の学生との質疑応答を行う。
定期試験の結果は採点して返却する。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、試験対策にもつながります。
範囲が広く、また理解が難しい点もありますので、興味のある箇所を読み込んでおいて、授業に参加してください。また、授業の後に疑問を持った個所を自分で調べるのも効果的です。
一度の読み、聞きでは理解できなくても、繰り返すことで理解できることが多々ありますので、各臓器・組織がどのように連携して作用しているかにこだわって、考察するようにしましょう。

オフィス・アワー

月曜日 12:50-13:20。金曜日 12:50-14:00、４号館２階教員居室。

講義コード	30380001
講義名	環境生理学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C275
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

生体は、常に外部環境から加わる刺激に対して、自己の内部環境を一定に保とうとする機構を備え、適応している。環境生理学では、外部からの刺激をストレッサーとし、ストレッサーが加わることにより、内部環境（生体の恒常性）が歪んだ状態になったことをストレスとしている。本講義では、ストレッサーの内容とストレスの状態とこれに対応する生体の防衛反応を学び、さらに個々の外部環境下（高温、低温、高圧、低圧など）における、適応について学習する。また、各環境下における栄養についても触れる。本講義はヒトのホメオスタシスの概念と特殊環境下における防衛反応を理解することを目標にする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

環境生理学は、卒業認定方針の「「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について、理解していること」に関連し、基本的生活活動や環境変化に対する人体の適応について学ぶ

到達目標

「環境と栄養」分野の特に生理学的内容を理解するこ

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ストレスI	ストレスに関係する生体の組織、ホルモン、神経の基礎を学び、ストレッサーについて理解する。プリント・レジメを配布する。	予習：解剖生理学の脳および生化学のホルモンの分野を確認しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を2時間以上行うこと。
第2回	ストレスII	セリエのストレス学説と汎適応症候群、適応などについて学ぶ。 アクティブラーニング：ホルモンおよび神経系統について講義中に質問し、その回答に対してコメントをする。	予習：レジメｐ2～6を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を2時間以上行うこと。
			予習：レジメｐ7～10を読み理解

第3回	気温（温度）	高温および低温環境下における生体の防衛反応を学ぶ。	しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を2時間以上行うこと。
第4回	気圧（高圧、低圧）	高圧および低圧に生体が曝された場合の反応を学ぶ。	予習：レジメｐ11～12を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を2時間以上行うこと。
第5回	騒音（音）・振動	騒音と振動に対する生体の反応を学ぶ。	予習：レジメｐ13～15を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を2時間以上行うこと。
第6回	電磁場・電磁波	乗り物（車、船、飛行機）などGが変化する状態とその時の生体反応について学ぶ。	予習：レジメｐ15～17を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を2時間以上行うこと。
第7回	加速度・無重力・その他	乗り物（車、船、飛行機）などGが変化する状態や宇宙空間、その他特殊な環境下における生体反応について学ぶ。	予習：レジメｐ19～20を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を2時間以上行うこと。
第8回	まとめ	上記内容のまとめを行う。アクティブラーニング：今まで学修してきた内容について講義中に質問し、その回答に対してコメントをする。	予習復習：レジメｐ1～20を読み理解しておくこと。予習復習の自己学習を2時間以上行うこと。

教科書

使用しない（レジメを配布します）

参考書

応用栄養学 化学同人（応用栄養学の教科書） および 『ﾈｵｴｽｶ応用栄養学』 同文書院

成績評価の方法・基準

期末試験１００％、50点以上を合格とする。

**課題等に対する
フィードバックの方法**

予習と授業終了後のノート整理を行うこと。両方併せて週4時間以上学習すること

履修のポイント

生理生化学的視点の講義内容を含むので解剖生理学の教科書が参考となる。

オフィス・アワー

授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

講義コード	30390001
講義名	生化学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C234
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

生体を構成する成分・分子理解しするために、糖、脂質、タンパク質についてその化学の基礎を学びさらに代謝・排泄を学ぶ。また、代謝などを調節する内分泌や遺伝子とその働きも学ぶ。人体の構造と機能、特に各栄養素の働きを生化学的に理解することを目標としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生化学は、卒業認定・学位授与認定方針の「「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について、理解している」に関連して、人体の構造と機能の1分野を学ぶ。

到達目標

生体を構成する分子の構造・機能を理解する。また、各分子の代謝を理解する。さらに遺伝子・遺伝情報発現に関することを理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	細胞の構造と性質	細胞の構造と機能についてその基礎を学ぶ。プリントを配布する。	予習：高校生物または生物基礎の左記分野読み理解しておくこと。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第2回	生体成分の化学的基礎	生体成分を構成する化合物の基礎を学ぶ。特に有機化学について、その基礎から復習しながら生体成分への理解を深める。プリントを配布する。	予習：教科書ｐ1～２を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
			予習：教科書ｐ15～21を

第3回	糖の構造と性質	糖質の分類と構造、単糖・少糖・多糖の構造と性質について学ぶ。プリントを配布する。	読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第4回	糖の代謝（１）	糖の消化吸収と糖の生体内の行方について学ぶ。	予習：教科書ｐ45～48を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第5回	糖の代謝（２）	グリコーゲンおよびグルコース代謝（解糖・TCAサイクル）、糖新生などについて学ぶ。	予習：教科書ｐ48～61を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第6回	脂質の構造と性質（１）	脂肪、リン脂質、ステロイドについてその種類、作用について学ぶ。 プリントを配布する。	予習：教科書ｐ21～30を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第7回	脂質の構造と性質（２）	特に コレステロールリポ蛋白質の作用と生体に及ぼす影響を学ぶ。	予習：教科書ｐ63～81を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第8回	蛋白質の構造と性質	アミノ酸およびペプチドの構造と性質について理解し、さらに消化吸収について学ぶ。プリントを配布する。	予習：教科書ｐ5～10を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第9回	蛋白質の代謝	アミノ酸の一般的代謝（アミノ基転移反応・尿素生成）について学ぶ。	予習：教科書ｐ83～95を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第10回	ビタミンの構造と性質（１）	脂溶性ビタミンの種類と作用について理解する。プリントを配布する。	予習：基礎栄養学Ⅰビタミンの分野および教科書ｐ117～118を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第11回	ビタミンの構造と性質	水溶性ビタミンの種類と作用について理解する。	予習：基礎栄養学Ⅰビタミンの分野および教科書ｐ117～118を読み理解する。 復習：左記の内容の講義

	（２）		ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第12回	無機質（１）	主要無機化合物の生理作用、特にカルシウムの生理作用と欠乏症について述べる。プリントを配布する。	予習：基礎栄養学Ⅰミネラルの分野および教科書ｐ118～119を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第13回	無機質（２）	主要無機化合物の生理作用、特に鉄の生理作用と欠乏症について述べる。	予習：基礎栄養学Ⅰミネラルの分野および教科書ｐ118～119を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第14回	内分泌（ホルモンⅠ）	内分泌の基礎とホ初ルモンの種類について学ぶ。プリントを配布する。	予習：教科書ｐ120を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第15回	内分泌（ホルモン）Ⅱ	細胞内シグナルの伝達について学ぶ。プリントを配布する。	予習：教科書ｐ120を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。

教科書

『ネオエスカ生化学』 同文書院

参考書

『Ｎブックス基礎栄養学』 林 淳三ら 建帛社など基礎栄養学の書は参考になる。

成績評価の方法・基準

50点以上で合格とする。定期試験90% 講義ノート10%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

事前の学習課題を行い提出すること。また、授業終了後、講義ノートを作成すること。ノートの評価点を記して返却する。

履修のポイント

化学の知識を必要とするので化学（特に有機化学）を復習しておくことが望ましい。

オフィス・アワー

授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある

講義コード	30400001
講義名	生理生化学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C276
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養素（糖質、蛋白質等）の基本的な性質を実験により確認し、さらに血液、尿、臓器の主要成分や消化に関する酵素活性を測定する。本実験では栄養素の機能と生理学的意義を理解することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生理生化学実験は、卒業認定の方針の「「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について、理解している」に関連している。特に、生化学、生理学、基礎栄養学で学んだ内容を実験にて確認し理解を深めることが求められている。

到達目標

実験を通じて、栄養アセスメントの「臨床検査」の能力を習得すること。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	糖の定性試験	糖の呈色反応を利用して、未知試料が何であるかを同定する。左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第2回	蛋白質およびアミノ酸の定性試験	アミノ酸および蛋白質の呈色反応を利用して、未知試料が何であるかを同定する。上記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこ

			と。
第3回	ビタミンAの定性試験	脂溶性ビタミンAの定性試験を行い、肝臓試料のビタミンAの存在を確認する。上記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第4回	ビタミンB2の定性試験	水溶性ビタミンB2の定性試験を行い、肝臓料のビタミンB2の存在を確認する。上記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第5回	尿中成分Ⅰ正常成分	尿中の尿素、クレアチニン、インジカン等正常成分の検出をおこない、それらの生理学的意義を学ぶ。上記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第6回	尿中成分Ⅱ異常成分	尿中の蛋白質、糖、アセトン体等異常成分の検出をおこない、それらの生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。上記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第7回	血漿蛋白質の定量	血漿蛋白質を測定し、その生理学的意義と栄養状態の判定を行う。上記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第8回	血漿コレステロールの定量	血漿コレステロールを測定して、その生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。上記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第9回	血糖の定量	血糖を測定し、疾病、特に糖尿病との関係を学ぶ。左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己

		めて質疑応答を行う。	学習を1時間以上行うこと。
第10回	血漿カルシウムの定量	血漿Caを測定し、カルシウムの生理学的意義を学ぶ。左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第11回	膵臓プロテアーゼ活性	膵臓トリプシン活性を測定し、蛋白質の消化を学ぶ。左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第12回	膵臓リパーゼ活性	膵臓リパーゼ活性を測定し、脂肪の消化を学ぶ。左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第13回	唾液アミラーゼ活性	各自の唾液アミラーゼ活性を測定し、デンプンの消化を学ぶ。左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第14回	腸管マルターゼ活性	マルターゼ活性を測定し、糖の膜消化を学ぶ。左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第15回	栄養アセスメント	モデルの身体計測や各血液検査データを読み栄養評価の実践を行う。上記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。

教科書

使用しない（プリントを配布する）。

参考書

栄養学領域からみた生理生化学実験 五島孜郎 編 建帛社
成績評価の方法・基準
総合点の内50点以上を合格とする。学期末試験（ペーパー試験）100点。また、試験の素点に、実験ノートの評価点（最大２０点）を加算する。この他、サンプル提供者について加点する（最大15点）。この合計点を総合点とする。ただし、合計点が100点を超えても評価は100点とする。
課題等に対する フィードバックの方法
実験終了後レポートを各単元ごとに作成し、これを綴り実験ノートを作成すること。実験ノートは第8回と第15回の実験終了時に提出し、後日評価点を記入して返却する。
履修のポイント
実験操作のみでなく各測定成分の栄養・生理学的意義をよく理解すること。白衣着用のこと。電卓等持参のこと。カメラを持参すると便利である（記録用）。
オフィス・アワー
授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある

講義コード	30410001
講義名	食品加工学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C273
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

加工食品なしでは食生活が成り立たないほど多種多様な加工食品があり、加工技術も高度で複雑になっている。食品の品質や表示に対する社会制度も刻々と変化し、それに対する消費者の関心も高まっている。このような状況で、食品加工、食品の保存と包装技術、ならびに品質表示に対して正しい知識を身につけることは非常に大切である。本授業では、種々の加工食品の製造原理、製造工程、食品保存・包装技術を学び、また、加工による食品の成分や物性の変化を学び、食品加工の理論と実際についての知識を学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として「食品」「栄養」に関して基本的な事柄を理解し、社会の貢献できる食の専門家として これから社会が求めている栄養士の資格を取得することを目的にする。

到達目標

食品の加工方法および加工品について理解する。食品の特性について理解する。日常食品の取扱い方について理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 食品の加工と保蔵Ⅰ	オリエンテーション（授業の概要説明、成績評価） 食品加工・貯蔵のはじまり 食品の特性と食品加工、食生活と加工食品の分野の内容についての授業内容。	予習30分、教科書を読んでおく。復習に60分以上は必要です。
	食品	加工食品の表示、容器包装とリサイクル分野	

第2回	の加工と保蔵Ⅱ	の授業内容。 食品表示については、実際の加工食品の表示を提示して意見交換を行う。	予習30分、教科書を読んでおく。復習に60分以上は必要です。
第3回	食品の加工と保蔵Ⅲ	食品の加工および操作と原理、技術の分野では、工程別による方法論を学習する授業内容。また、調理加工に伴う食品成分の変化についての授業内容。	予習30分、教科書を読んでおく。復習に60分以上は必要です。
第4回	食品の加工と保蔵Ⅳ	食品の包装、加工技術、規格・基準と食品表示基準、ＨＡＣＣＰについての授業内容。	予習30分、教科書を読んでおく。復習および確認テストに向けて120分以上は必要です。
第5回	食品の包装、加工食品	確認テスト1回目 生産条件と食品成分の違いについて、地域、季節、栽培条件による違いについての授業内容。	予習30分、確認試験返却後の問題の整理に90分以上かけてください。
第6回	農産加工品１	穀類、いも類および豆類（大豆、小豆）の加工方法および加工品についての授業内容。 アクティブラーニング：確認テストを返却し、解答について情報交換する。	予習30分、教科書を読んでおく。復習に60分以上は必要です。
第7回	農産加工品２	野菜･果物・きのこの加工方法および加工品の種類と成分についての授業内容。	予習30分、教科書を読んでおく。復習に60分以上は必要です。
第8回	畜産加工品１	食肉の加工方法および加工品の種類と成分についての授業内容。	予習30分、教科書を読んでおく。復習に60分以上は必要です。
第9回	畜産加工品２	乳製品の加工方法および加工品、卵類の種類と成分についての授業内容。	予習30分、教科書を読んでおく。復習および確認テストに向けて120分以上は必要です。
第10回	水産加工品１	確認テスト2回目 魚介類の加工方法および加工品の種類と成分についての授業内容。	予習30分、確認試験返却後の問題の整理に90分以上かけてください。
第11回	油脂類、	植物油脂、動物油脂、加工油脂の加工方法とそれにより種類と成分についての授業内容。 アクティブラーニング：確認テストを返却し、解答について情報交換する。油脂に対するイメージについて発表してもらう。	予習30分、教科書を読んでおく。復習に60分以上は必要です。
第12回	調味料、香辛料、甘味料	味噌、醤油、塩、香辛料、甘味料の加工方法とそれにより種類と成分についての授業内容。	予習30分、教科書を読んでおく。復習に60分以上は必要です。
第13回	嗜好性食品	嗜好飲料（非アルコール飲料およびアルコール飲料）の加工方法とそれにより種類と成分についての授業内容。 アルコール飲料を挙げさせ、どのようなものが市場に出回っているのか意見交換をする。	予習30分、教科書を読んでおく。復習に60分以上は必要です。
	新類	新技術による加工法、流通・貯蔵等による加	予習30分、教科書を読んで

第14回	型加工食品	工法、形状による加工法,用途別加工法についての授業内容。	おく。復習および確認テストに向けて120分以上は必要です。
第15回	食品表示の演習	食品表示の見方 確認テスト3回目 アクティブラーニング：確認テストの解答について情報交換する。	確認試験返却後の問題の整理に90分以上かけてください。本試験に向けてさらに復習は必要です。

教科書

栄養科学シリーズ 食品加工・保蔵学 講談社

参考書

食物学Ⅱ（公社）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社
レクチャー食品加工学 黒川守浩編 建帛社、食品加工・保蔵学 海老原清編 講談社

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上（授業内３回の確認テストと本試験を実施 ）確認テスト本試験100％

**課題等に対する
フィードバックの方法**

授業中に3回の確認小試験を実施評価して返却しますので再度復習しておくこと。毎回の授業後の復習を勧めます

履修のポイント

欠席については、後日課題を提出していただく。授業での積極的な取り組みを望希望します。

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、授業終了後、随時 9号館3階第七研究室

講義コード	30420001
講義名	食品衛生学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C251
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 小山 孝	指定なし

授業の概要と教育目標

人は生きていくために食品を摂取しなければならない。また、食品を摂取し人が健康であり続けるためには、第一に安全でなければならない。食品衛生学では、食品の生産から流通、加工、そして消費に至る一連の過程において、安全な食品を得るための関係法規、そして食品の規格・基準、危害要因などを学修する。これにより、安全な食品を得るための基礎を学修するとともに、食品による健康被害を未然に防ぐための知識を習得することが主たる教育目的である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品衛生の学習をとおして、安全な食物を摂取し健康を維持するために必要となる基礎知識を理解し習得していること。

到達目標

食品衛生学では、食品衛生に関連する法規を始め、食中毒、食品媒介感染症、寄生虫、添加物、残留農薬、有害物質、遺伝子組み換え食品、食品製造工程の衛生管理、食品表示等を学修することにより、食品の安全性を確保するために必要な基礎知識を習得することを到達目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品衛生と法規	食品衛生の概要、関連法規、食品安全基本法と食品衛生法、その他関連する法規	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第2回	食品衛生関連組織	食品安全委員会、厚生労働省、地方自治体の役割、国際的な関連組織	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第3回	食品の変質	変質の定義、微生物による変質、鮮度・腐敗度の判定法	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第4回	食品の	化学的変質、酸敗の判定法、変質により生じる有害	予習40分：教科書、復習40分：教

	変質②	物質、変質の防止法	科書、ノート
第5回	食中毒	食中毒の定義、食中毒の分類・発生状況（月別・病因物質別・原因施設別・原因食品別発生状況）	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第6回	食中毒②	細菌性感染型・毒素型食中毒、ウイルス性食中毒	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第7回	食中毒③	人獣共通感染症、食品と寄生虫疾患、化学物質による食中毒	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第8回	食中毒④	動物性・植物性自然毒による食中毒、食中毒の原因調査と統計的手法	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第9回	食品中の汚染物質	カビ毒、化学物質、有害元素	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第10回	食品中の汚染物質②	放射性物質、異物混入、フードディフェンス	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第11回	食品添加物	添加物の定義、添加物の安全性評価、添加物の分類	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第12回	食品添加物②	残留農薬・動物医薬品、ポジティブリスト制度、器具・容器包装の規格基準、遺伝子組み換え食品	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第13回	食品衛生管理	食品衛生管理の概要、食品工場等の一般衛生管理、HACCPによる衛生管理、集団給食施設等における衛生管理、国際標準化機構（ISO)	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第14回	食品表示制度	食品表示法の概要、栄養成分表示、保健機能食品	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第15回	講義のまとめ	学期末試験、解答と解説	予習120分：教科書、復習40分：教科書、資料

教科書

食品衛生学 田﨑達明ほか 羊土社

参考書

食品の安全 有薗幸司ほか 南江堂、食品衛生学 一戸正勝ほか 講談社

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。学期末試験100%で評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

課題提出の都度、及び講義のまとめで講評する。

履修のポイント

教科書、参考書により予習する。講義終了後はノートを活用し理解を深めるとともに不明な点があればそのままにせず調べること。

オフィス・アワー

火曜日、12:30～15:00、講義終了後。

講義コード	30430001
講義名	食品衛生学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C252
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 小山 孝	指定なし

授業の概要と教育目標

食品を摂取し人が健康であり続けるためには、第一に安全でなければならない。食品衛生学では、食品の生産から流通、加工、そして消費に至る一連の過程において、安全な食品を得るための関係法規、そして食品の規格・基準、危害要因などを学修した。そこで、食品衛生学実験では、科学的な手法を用い、講義で学んだ安全性確保のための食品の規格基準等について確認するとともに、各検査法の原理を理解し習得することが教育目標となる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品衛生の学習をとおして、安全な食物を摂取し健康を維持するために必要となる基礎知識を理解し習得していること。

到達目標

食品衛生学実験をとおして、食品の安全性を確保するために必要となる食品衛生検査の基礎を学修するとともに、食品の規格基準等を科学的視点をもって評価できることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品衛生の分析化学実験の基礎	食品衛生学の分析化学の基礎を学ぶ：使用する薬品・器具・測定機器、試薬の調整、試料のサンプリング、レポートの書き方、小テスト	予習40分：教科書、復習40分：配布資料
第2回	飲料水の硬度測定、残留塩素濃度測定	清涼飲料水中の硬度を滴定法により測定する。 DPD法により水道水中の遊離型・結合型残留塩素を測定する。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第3回	分光光度計の応用の基礎	分光光度計の原理（Lambert-Beerの法則）を理解する。未知濃度試料を測定をする。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる

第4回	未知試料の同定	アミノ酸、タンパク質、糖質について7種類の化学反応を利用し、6種類の未知試料を同定する。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第5回	食品添加物着色料の測定	食品中に添加された着色料を抽出し、TLC（薄層クロマトグラフィー）法により定性試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第6回	食品添加物発色剤の測定	食肉製品中に添加された発色剤（亜硝酸根）を、ジアゾ化法により定量試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第7回	油脂の変敗の測定	各種の油脂を用い、滴定法により遊離脂肪酸濃度（酸価）の定量試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第8回	食品添加物漂白剤の測定	食品中に添加された漂白剤（亜硫酸）をヨウ素酸カリウム・でんぷん紙を用いて定性試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第9回	食品衛生の微生物実験の基礎、培地の作成	食品衛生学の微生物等の基礎を学ぶ、：使用する培地・薬品・器具・機器、試料のサンプリング、微生物の形態と性質、レポートの書き方、培地の作成、小テスト	予習40分：教科書、復習40分：配布資料
第10回	細菌数測定：ふき取り検査	・施設、器具等のふき取り検査による細菌数測定の前処理を行う。 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第11回	落下細菌・真菌の分離、手指からの細菌分離	・前回実験の細菌数の測定 ・落下細菌の測定、手指洗浄消毒の効果判定の前処理を行う。 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第12回	グラム染色による細菌・真菌の形態観察	・前回実験の細菌数の測定 ・グラム染色による細菌の染色、及び真菌の顕微鏡による形態観察 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第13回	食品からの細菌数、大腸菌群の測定	市販食品からの一般細菌数、及び大腸菌群の測定	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第14回	鮮魚介類からの寄生虫の分離、形態観察	市販の鮮魚介類からの寄生虫の分離、及び形態観察	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第15回	食器の残留物検査	食器の残留物を測定することにより各種洗浄効果を確認する。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる

教科書

食品・環境の衛生検査 桑原祥浩ほか 朝倉書店

参考書

食品安全・衛生学実験 岡崎眞ほか 講談社ｻｲｴﾝﾃｨﾌｨｯｸ
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上。実験レポート80%、実験への積極的参加20%を総合して評価
課題等に対する フィードバックの方法
各実験終了後、レポートを期限までに提出すること。レポート内容については必要の都度、講評を行うのでレポートの構成に生かすこと。
履修のポイント
分析化学、微生物実験の基礎を理解し、積極的に実験に取り組むこと。
オフィス・アワー
火曜日、12:30〜15:00、講義、実験終了後。

講義コード	30440001
講義名	公衆栄養学概論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C272
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 細野 勝美	指定なし

授業の概要と教育目標

健康づくりや栄養改善に必要な統計資料、実際に社会生活の中で活用している事例、多数人（公衆）の栄養改善が必要な課題の検索方法、日本における健康や食環境の変化や歴史的な取り組みの実態等を学ぶ。
一定の地域や集団を対象に栄養改善を行うための、プログラムの作成ＰＤＳ〔計画（Plan）、実施（do）、評価（see）〕について学ぶ。ヘルスプロモーションについて学習し、理解する。
公衆栄養学は、集団や地域・組織単位を対象にした栄養学であり、個人対象の栄養学や統計資料等を活用し、集団や地域社会の健康づくり、栄養改善、ＱＯＬの向上等を目標に知識や技術を学ぶものである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学（個人の栄養が中心）から得られる知識や統計を活用し、集団や地域社会の栄養改善・健康づくり・ＱＯＬの向上等の意識を高める。栄養の知識が、国民の健康長寿の延伸に大きな影響を与え、意義のあることを理解する。

到達目標

望ましい社会環境（食環境）を整えるために、個人が対象の栄養学を活用して、集団や地域単位の栄養改善を実施するための知識・技術を身につけることを目指す。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 公衆栄養学とは	栄養士（管理栄養士）の歴史、公衆栄養のテーマ	公衆栄養学の歴史、主旨・目的の概要、教科書の授業計画（90分）
第2回	公衆栄養概説	公衆栄養学の概念、公衆栄養学の意義と目的、公衆栄養の歴史、健康づくり施策と地域公衆栄養活動、公衆栄養の現代課題	・毎回10分の情報提供（資料配付） ・教科書：第1章

			（90分）
第3回	国民の健康の現状と公衆栄養活動	日本の人口動向と公衆栄養活動、国民の健康の現状、国民医療費の現状、疾病予防と食生活の提言	・情報提供 ・教科書：第2章 （90分）
第4回	日本の栄養問題 ～現状と課題～	エネルギー・栄養素摂取量の変化と現状、食品群別摂取量の変化と現状、食生活・食環境の現状と目標、身体の状況、21世紀初頭における国民栄養の課題	・情報提供 ・教科書：第3章 （90分）
第5回	日本の食料需給と 食料経済	日本の食料の現状、食料需給表、食料需給の国際比較、食料と流通経済、食料消費の動向	・情報提供 ・教科書：第4章 （90分）
第6回	公衆栄養プログラムの計画・実践・評価	公衆栄養プログラムとその活動の基本的考え方、公衆栄養プログラムの策定	・情報提供 ・教科書：第5章-1 （90分）
第7回	同上	公衆栄養プログラムに基づく活動のすすめ方、公衆栄養プログラムと行政栄養士、保健・医療・福祉（介護）システムと栄養問題	・情報提供 ・教科書：第5章-2 （90分）
第8回	健康日本21と公衆栄養活動	健康づくり対策と健康日本21、健康日本21の考え方と行政の役割、健康日本21の実践、健康日本21と栄養・食生活	・情報提供 ・教科書：第6章 （90分）
第9回	公衆栄養活動の指針	日本人の食事摂取基準（2015年版）	・情報提供 ・教科書：第7章-1 （90分）
第10回	同上	食生活指針、食事バランスガイド、食品表示制度について	・情報提供 ・教科書：第7章-2 （90分）
第11回	公衆栄養行政と関係法規	公衆栄養行政、公衆栄養関係法規	・情報提供 ・教科書：第8章 （90分）
第12回	公衆栄養プログラムと健康教育・栄養教育	「健康日本21」と健康観、公衆栄養プログラム実施活動、栄養施策と公衆栄養教育活動、健康日本21と公衆栄養教育活動	・情報提供 ・教科書：第9章 （90分）
第13回	世界の健康・栄養政策	世界の食料と人口問題、発展途上国の栄養問題、先進国の公衆栄養活動、諸外国の食事目標・食事指針・世界食料サミット	・情報提供 ・教科書：第10章 （90分）
第14回	最近の話題と情報	健康フロンティア戦略・食事バランスガイド、介護保険法改正、高齢者の医療の確保に関する法律、特定健診、特定保健指導	・情報提供 ・最近の国・県等の課題 （90分）
第15回	公衆栄養学の事例と効果を検証	国民健康・栄養調査の変遷、「健康日本21（第2次）」の取組み、授業の総まとめ（期末試験について）	・情報提供 ・公衆栄養の事例 ・授業の総まとめ（期末試験について） （90分）

教科書

・公衆栄養学（同文書院）　・二見大介 編著

参考書

・第2次健康日本21（21世紀における国民健康づくり運動）
・衛生行政六法
・参考資料…国民健康・栄養調査結果、食事バランスガイド
・第2期特定診断・保健指導

成績評価の方法・基準

単位認定 50 点以上 （筆記試験100％評価）

課題等に対する
フィードバックの方法

授業の初めに、毎回10分程度の情報提供（必要に応じて関係資料を配付）を行い、実社会における「公衆栄養活用例」等を示している。公衆栄養の実例は、国や県の事業の中に多く見られる。

履修のポイント

公衆栄養（集団や地域単位の栄養改善等）の必要性を学び、広域的な栄養改善・健康づくり・ＱＯＬの向上などの取り組み思考を高める。多くの公衆栄養活動の事例に触れることで、効果的な健康づくりや栄養改善に対する関心を高める。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じる。（授業90分：金曜日-
13：20～14：50）
欠席授業のレポート提出は、授業内容に沿ったテーマを指示している。

講義コード	30450001
講義名	臨床栄養学概論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C232
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 市原 幸文	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養学の基礎、各疾患別の栄養療法について学ぶ。各疾患の概要を理解し、予防、治療に有効である栄養療法を学び、各疾患に応じた栄養療法を計画、立案、調理、評価するための知識やスキルを学習する
医療機関、施設で適切な栄養管理を行うために栄養ケアプランの作成、実施、評価など総合的なマネジメントを理解する

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的な事柄を理解し、さらにそれら相互作用について理解している。
「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得している。

到達目標

医療チームの一員の栄養士として、医療機関、施設で実践活動に対応できるように基礎から応用の知識を習得し、業務遂行の即戦力となる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	病院給食、病院栄養部門が担当する主な業務	病院給食について（仕組み、動き、業務の関わり） 臨床栄養管理（栄養ケアの概要）	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第2回	内分泌・代謝疾患	１．肥満症 ２．糖尿病 ３．高尿酸血症	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第3回	肝臓疾患	１．肝炎（急性肝炎 、慢性肝炎） ２．肝硬変・肝不全	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料

		3．脂肪肝	を見直す。
第4回	胆・膵臓疾患	1．胆石症 2．膵炎（急性膵炎 ・慢性膵炎 ）	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	循環器疾患	1．脂質異常症 2．高血圧 3．虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） 4．心不全	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	腎臓疾患（1）	1．急性腎臓病 2．慢性腎臓病	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	腎臓疾患（2）	3．ネフローゼ症候群 4．腎不全 5．透析療法	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	食品交表の活用	糖尿病食品交換表の利用、腎臓病食品交換表の利用、糖尿病性腎症の食品交換表の利用 【アクティブラーニングの内容】 ：食品交換表による糖尿病食の献立計算、 腎臓病食品交換表による腎臓病食の献立計算 糖尿病腎症食品交換表による糖尿病腎症食の献立計算	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	血液系疾患 骨・関節疾患	1．鉄欠乏性貧血 2．骨粗鬆症 3．くる病・骨軟化症	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第10回	小児疾患	1．消化不良症 2．小児糖尿病 3．小児肥満 4．小児腎臓病 5．食物アレルギー	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第11回	胃・腸疾患	1．胃炎（急性胃炎・慢性胃炎） 2．消化性潰瘍 3．下痢・便秘 4．潰瘍性大腸炎・クローン病	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	高齢者の栄養管理（1）	1．高齢者の身体的特徴と食事ケア 2．摂食・嚥下障害 3．介護食と嚥下食 4．障害に適した食事のポイントと調理について 【アクティブラーニングの内容】 動画による摂食嚥下障害の観察と理解	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	高齢者の栄養管理（2）	5．調理形態の工夫と栄養ケアマネジメント 6．褥瘡の栄養ケア 【アクティブラーニングの内容】 写真による褥瘡の理解と褥瘡時に使用するする食品の試食	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

第14回	栄養補給法とその種類	１．経口栄養法 ２．経腸（経管）栄養法 ３．静脈栄養法（中心静脈・末梢静脈） 【アクティブラーニングの内容】 写真による経腸栄養のの理解と経腸栄養に使用するする食品 の試食	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第15回	臨床栄養管理（臨床調理の基本）	１．栄養管理の考え方 ２．臨床調理のめざすもの ３．臨床調理の考え方 ４．臨床調理の食事プラン	講義・901教室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

教科書
「新ガイドライン対応・臨床栄養学」 井上修二監修 光生館
参考書
糖尿病食品交換表、糖尿病性腎症の食品交換表、腎臓病食品交換表、臨床栄養学 他
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上 筆記試験により評価（授業内20%、期末80%） 提出物は締切厳守
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの出来る資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
各疾患に応じた栄養療法を計画、立案、調理、評価するための基本を学習
オフィス・アワー
月曜日、火曜日の担当の授業時間外、（場所：9号館 市原研究室）

講義コード	30460001
講義名	臨床栄養学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C255
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 市原 幸文	指定なし

授業の概要と教育目標

各疾患の概要を理解し、予防、治療に有効である栄養療法を学び、各疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養療法を計画、立案、調理し、献立内容や量を把握、評価する。献立の理論と技術を習得する。医療機関、施設で適切な臨床栄養管理を行うためのスキルを身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解したうえで、各種の病態に対する予防と治療には、食事と栄養が深くかかわっていることを確認し、栄養士の特性である献立作成のテクニックの向上を図り、「健康・栄養」に係る現場での実践力を学び、多様な問題を解決できる能力を修得させる。

到達目標

栄養士として、医療機関、施設での栄養実践活動に対応し業務遂行の即戦力となる技術の習得

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	講義：臨床栄養学の概要、臨床栄養学実習をはじめる前に	・各疾患別栄養療法の重要ポイント ・実習に臨む心得と支度 ・病院と施設の給食について（仕組み 動き 業務の関わり) 【アクティブラーニングの内容】 [課題] 流動食 軟食について調べる(グループワーク)	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第2回	講義：流動食・軟食 演習：献立立案	①流動食の種類・適応 流動食に適した料理 流動食の栄養基準と食品構成（普通流動食）：単純流動食と濃厚流動食の比較 ②軟食の種類、軟食の適応、食品の適応と調理	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。

		分粥食栄養基準と食品構成 【アクティブラーニングの内容】 [演習] 軟食献立の立案	
第3回	講義： 実験：流動食 軟食	流動食の実習(単純流動食、濃厚流動食） 【アクティブラーニングの内容】 軟食の種類・軟食の実習 各グループごとに発表	調理実習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第4回	講義：糖尿病1 （糖尿病と食品交換表） 演習：	糖尿病の食事療法の実際 【アクティブラーニングの内容】 （食品交換表を使用した献立作成） 〔課題〕献立表の作成 食品交換表に基づいた献立表の各食に配分された単位を示す 使用本：糖尿病食事療法のための食品交換表	講義・教室(905) 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第5回	講義：糖尿病2 演習：献立立案 単位別献立の展開	糖尿病基本献立の立案 食品交換表に基づく（1600kcal) 【アクティブラーニングの内容】 [演習] 献立立案 炭水化物(60%)	講義・教室(905) 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第6回	講義：糖尿病3 演習：献立内容の評価 献立立案に基づき作業工程表 発注表作成	第５回の演習献立を使用する。 【アクティブラーニングの内容】 次回実験する献立を選択、グループで（1600kcal) 各グループごとに実習作業工程表・発注表を作成	講義・教室(905) 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第7回	講義： 実験：単位別献立の展開 献立の調理の評価	食品交換表に基づいた基本献立を調理再現する。 【アクティブラーニングの内容】 第６回、演習献立の評価 各グループごとに発表	調理実習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第8回	講義：糖尿病性腎症 食品交換表の使用と留意点 演習：食事献立表 指示単位記入	たんぱく質制限を伴う糖尿病治療食について 糖尿病性腎症の食事療法について 糖尿病性腎症の食品交換表の使い方 エネルギー調整食品について 【アクティブラーニングの内容】 食事献立表（1840kcal.たんぱく質50ｇ）の作成と支持単位記入	講義・教室(905) 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第9回	講義：腎臓病1 演習：腎臓病食品交換表	腎疾患における食事療法 腎臓病食品交換表 課題献立表を完成 単位配分と献立について（たんぱく質30g・10単位の食事） 【アクティブラーニングの内容】 [課題] たんぱく質30g・10単位献立表を完成（単位を記入） 使用本：「腎臓病食品交換表」	講義・教室(905) 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
	講義：	【アクティブラーニングの内容】	調理実習室

第10回	実験：腎臓病２（慢性腎不全）	慢性腎不全の献立を実習（第９回の演習献立表） 低たんぱく質、食塩、特殊食品の使用例 各グループごとに発表	予習　分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第11回	講義：食塩コントロール食 演習：献立立案 （本態性高血圧症）	食塩コントロール食（虚血性心疾患・本態性高血圧症） 栄養基準と食品構成、食品の選択、献立及び調理の工夫 ナトリウムの食塩換算、塩分の換算 【アクティブラーニングの内容】 [演習] 献立立案 （本態性高血圧症）	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第12回	講義：食塩コントロール食 演習：献立立案 献立内容の評価	グループごとに前回立案した献立を選択 実習作業工程表、発注表を作成 【アクティブラーニングの内容】 [課題] 食塩制限はどんな病気の時に必要かまとめる	講義・教室(905) 演習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第13回	講義：検査食 食塩コントロール食 実験・献立の調理の評価	検査食の要点、第１２回で選択した献立を調理・評価する 【アクティブラーニングの内容】 各グループごとに発表	調理実習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第14回	講義：高齢者の栄養管理（介護食） 実験：高齢者の食事の工夫（デモストレーション） 調理の評価	高齢者の身体的特徴と介護食の基本 ①嚥下食ピラミッド ②ユニバーサルデザインフードの区分 障害に適した食事のポイントと調理 【アクティブラーニングの内容】 [課題] 咀嚼・嚥下障害のある人の食事の工夫をまとめる	調理実習室 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第15回	講義： 脂質コントロール食 貧血食（鉄欠乏性）	１）膵臓の食事療法、食品、献立、調理 栄養基準・食品構成 ２）貧血の食事療法、食品、献立、調理 栄養基準・食品構成	講義・教室(905) 予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。

教科書

「栄養食事療法の実習」 本多佳子編 （医歯薬出版）

参考書

糖尿病食品交換表、糖尿病性腎症の食品交換表、腎臓病食品交換表、食品成分表 他

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上 演習、課題提出(30%)・期末テスト(70%)により評価 提出物は締切厳守

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの出来る資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

各疾患別に身体状況や栄養状況に応じた、栄養療法を計画、立案、調理し、献立内容や量を把

握、評価する 献立の理論と技術を習得する
オフィス・アワー
月曜日の5限、月曜日と火曜日の昼の休憩時間 （場所：９号館 市原研究室）

講義コード	30470001
講義名	臨床栄養学各論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C350
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

疾病者の疾患や栄養状態に基づく適切な栄養ケアマネジメントの実施に必要な、臨床症状や臨床検査データを理解する。
疾患の改善に欠くことのできない栄養療法について、各治療食の献立立案から献立展開を習得する。
医療現場のシステムやチーム医療における栄養士の役割および栄養士の専門性の確立を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間のからだ・食品・栄養に関する学修を総合的に理解し、健康・栄養に係る現場での実践的活用と問題解決能力を修得する。

到達目標

卒後の現場で栄養実践活動に対応し、即戦力になる栄養士としての専門知識と技術を習得できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	臨床栄養管理	栄養アセスメントについて ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ：臨床栄養に関するトピックスを集め、意見・情報交換を行う	予習30分（臨床栄養学の教科書 関連ページを読む） 復習60分（授業内容をまとめる）
第2回	検査値に基づいた栄養アセスメントとケアプラン	基本となる検査値の読み方 検査値と各栄養指標からのアセスメント	予習30分（情報発表の下準備） 復習60分（授業内容をまとめる）
第3回	栄養補給法	栄養補給法の概要 経口栄養法、経腸栄養法、経静脈	予習30分（臨床栄養学概論の教科書 関連ページを読む）

		栄養法	復習60分（授業内容をまとめる）
第4回	治療食の区分	一般・特別治療食、検査食 他	予習30分（臨床栄養学概論の教科書 関連ページを読む） 復習60分（授業内容をまとめる 次回演習の資料準備）
第5回	経口栄養法（一般治療食）	一般治療食の献立立案 【演習課題】食事基準に沿った基本献立の立案	予習30分（次回演習の資料準備） 復習60分（演習課題の確認）
第6回	食事療法における献立展開Ⅰ	献立展開の意義と基本的な考え方 献立展開の方法 【演習課題】例問題献立を展開する ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各自が立案した献立を発表し、意見交換・情報提供を行う	予習30分（次回演習の資料準備） 復習60分（演習課題の確認）
第7回	食事療法における献立展開Ⅱ	第５回基本献立の展開① 【演習課題】塩分コントロール食への展開 エネルギーコントロール食への展開	予習30分（次回演習の資料準備） 復習60分（演習課題の確認）
第8回	食事療法における献立展開Ⅲ	第５回基本献立の展開② 【演習課題】たんぱく質・塩分コントロール食への展開 脂質コントロール食への展開 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業を受けての感想発表 今後の学習に向けての意見交換を行う	予習30分（次回演習の資料準備） 復習60分（演習課題の確認）

教科書

毎回資料及び演習用プリントを配布使用する。

参考書

最新臨床栄養学 新ガイドライン対応（井上修二 他編著・光生館）
臨床栄養学概論及び実験で使用している教科書および食品交換表
食品成分表（七訂2018版 香川明夫監修・女子栄養大学出版部）

成績評価の方法・基準

単位認定５０点以上.
演習および課題提出（６０％）、小テスト（４０％）により評価する。課題提出は期日厳守のこと。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業計画書を確認し、主題（授業内容）を予習・復習しておくことが望ましい。演習献立は
チェックおよびコメントを入れて返却するので、以後の参考資料にすること。

履修のポイント

臨床栄養学に関わる科目（概論および実験）の内容を復習しておくことを薦める。
演習は献立立案を中心に行うので、日頃から参考書籍を検索して献立のレパートリーを広げておく。
栄養情報やトピックスなどについての情報交換等を授業に織り込んでいく予定なので、人前で発表する等の自主練習を試みておくように。

オフィス・アワー
月曜日、１２：３０～１３：２０、９号３階第９研究室。

講義コード	30480001
講義名	臨床栄養学各論実験
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C370
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養学各論にて学んだ各疾患の臨床症状、臨床検査データ、治療法などの相互関係、かつ疾患の改善に欠くことのできない栄養療法を演習しながら習得する。
基本献立から各疾患別献立の展開など演習しながら、献立の理論と技術を習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間のからだ・食品・栄養に関する学修を総合的に理解し、健康・栄養に係る現場での実践的活用と問題解決能力を修得する。併せて医療現場における栄養士の役割および栄養士の専門性の確立を理解修得する。

到達目標

臨床栄養学各論にて習得したことを基礎として、卒後の現場での栄養実践活動に対応し、即戦力になる栄養士としての専門知識と技術を習得できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	臨床栄養管理	一般治療食・特別治療食 基本的な考え方	予習30分（臨床栄養学の教科書および実習書を読む） 復習60分（授業内容のおさらい）
第2回	特別治療食 塩分コントロール食	食事の概要 【演習】献立立案と展開 まとめ	予習30分（臨床栄養学の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録を確認しまとめる）
第3回	特別治療食 エネルギーコントロール食①	食事の概要 【演習】献立立案と展開 まとめ	予習30分（臨床栄養学の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録を

			確認しまとめる）
第4回	特別治療食 エネルギーコントロール食②	【演習】 「糖尿病治療のための食品交換表」を用いての献立展開 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各自が立案した献立を発表 意見・情報交換を行う	予習30分（臨床栄養学の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録を確認しまとめる）
第5回	特別治療食 たんぱく質・塩分コントロール食①	食事の概要 【演習】献立立案と展開 まとめ	予習30分（臨床栄養学の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録を確認しまとめる）
第6回	特別治療食 たんぱく質・塩分コントロール食②	【演習】 「腎臓業食品交換表」を用いての献立展開 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各自が立案した献立を発表 意見・情報交換を行う	予習30分（臨床栄養学の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録を確認しまとめる）
第7回	特別治療食 脂質コントロール食	食事の概要 【演習】献立立案と展開 まとめ	予習30分（臨床栄養学の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録を確認しまとめる）
第8回	一般治療食 常食・粥食	食事の概要 【演習】献立立案と展開 まとめ ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業で学習した内容まとめを基に、臨床栄養に関する意見・情報交換を行う	予習30分（臨床栄養学の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録を確認しまとめる）

教科書

栄養士になるための臨床栄養学実習 別冊 食事療法実務実習書（芦川修貳 他編著・学健書院）
その他項目内容によってはプリント配布あり。

参考書

最新臨床栄養学 新ガイドライン対応（井上修二 他編著・光生館）
臨床栄養学概論及び実験にて使用した教科書および食品交換表
食品成分表（７訂2018版 香川明夫監修・女子栄養大学出版部）

成績評価の方法・基準

単位認定５０点以上。
課題・レポート（２０％）、演習（７０％）、記録（１０％）をまとめて提出評価する。課題提出は期限厳守のこと。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業計画書の内容を確認し、実習教科書を予習・復習しておくことが望ましい。演習献立は
チェックおよびコメントを入れて返却するので、以後の参考資料にすること。

履修のポイント

臨床栄養学各論で学習した基礎献立の立案～展開を、更に実習書での演習を通して学んでいく。
臨床栄養に関する情報やトピックスを授業内容に織り込んでいくので、日頃からの情報収集を心掛けてほしい。

オフィス・アワー

月曜日、１２：３０～１３：２０、９号３階第９研究室。

講義コード	30490001
講義名	スポーツ栄養学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C351
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉村 英悟	指定なし

授業の概要と教育目標

運動の種類・強度と持続時間は、体内の貯蔵エネルギーに関係することが知られている。例えば、短距離を全力で走る場合は、筋肉内のグリコーゲンがエネルギー源となる。一方、ジョギングなどの場合は貯蔵された脂肪を消費する。また、分枝鎖アミノ酸は筋肉で代謝される特殊な作用があり、アスリートにはサプリメントとして多用されている。このような事例を説明しながら、次の内容を講義する。運動・スポーツ時の栄養・代謝、スポーツの健康・体力への影響、トレーニング時の栄養補給法などについて学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ディプロマ･ポリシーの4に関連して人体の運動時・栄養等の生理的な理解をする。またスポーツの現場で活用できるように習得する

到達目標

１．運動生理学を基礎とし、アスリーストの食事管理が行うための基礎知識を身につけること
２．スポーツ栄養マネジメントを理解すること。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	スポーツ栄養の概要と歴史について 運動とエネルギー代謝	エネルギー産生の系を学び有酸素運動と無酸素運動の違いなどを考察する。	予習30分（スポーツ栄養をしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第2回	健康増進と運動	運動時の糖代謝、脂質代謝に及ぼす影響、血圧、骨密度、寿命、適応性や抵抗性、運動の欠点などを学ぶ。	予習30分（運動時の代謝について調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
			予習30分（運動の種類と代謝条件にについて

第3回	スポーツと体力	嫌気的条件、好気的条件の代謝と運動の種類との関係について学習する。	調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第4回	トレーニングと栄養補給①	運動時の栄養必要量（タンパク質、水分、糖質など）について学ぶ	予習30分（運動時に必要な栄養素を学ぶ） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第5回	トレーニングと栄養補給②	運動時の栄養素摂取のタイミング、サプリメントなどについて学習する	予習30分（栄養素の摂取タイミングについてしらべる。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第6回	実践１	持久力系の運動（陸上長距離など）に対する栄養について具体的に学ぶ。 瞬発力系の運動（陸上短距離等）に対する栄養について具体的に学ぶ。	予習30分（スポーツの特徴にあった栄養を調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第7回	実践２	スポーツ栄養マネジメントについて学ぶ	予習30分（スポーツ栄養マネジメントについてしらべる。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第8回	実践３ まとめ	スポーツ栄養マネジメントについて学ぶ。(プログラムづくり) 上記内容のまとめを行う。	予習30分（スポーツ栄養のプログラム例をしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）

教科書

使用しない

参考書

エクセル栄養君建帛社。
エクセル栄養君FFQｇ 建帛社
健康づくりと競技力向上のための スポーツ栄養マネジメント．日本医療企画．鈴木 志保子 (著)他
アスリートの栄養アセスメント．第一出版．田口 素子 (著)他

成績評価の方法・基準

単位認定は50点以上とする。期末試験100点。ただし授業中に提出された課題を評価して試験の点数に加点することが、合計値が100点を超えても評価は100点とする。

課題等に対するフィードバックの方法

予習と授業終了後のノート整理を行うこと。両方併せて週4時間以上学習すること

履修のポイント

応用栄養学の環境と栄養、運動と栄養の分野が参考となる。

オフィス・アワー

曜 日：月曜日～金曜日
時 間：12：30～13：15
場 所：11号館3階 研究室6

講義コード	30500001
講義名	スポーツ栄養学実習
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C371
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉村 英悟	指定なし

授業の概要と教育目標

スポーツ栄養はトップアスリートだけで無く、健康の維持・増進のために運動をしている人を含め幅広く対象とする。科学的理論と根拠に基づき「スポーツ栄養学」の基本的理論を踏まえ、演習実習を通して学ぶ。また各競技特性や対象者ごとに把握してスポーツ栄養マネジメント（問題点の把握、改善目標、ケアプラン）の方法を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ディプロマ･ポリシーの3や4に関連して人体の運動時・栄養等の基本的な生理学的・生化学的な理解をする。またスポーツの現場で活用できるようにスポーツ栄養栄養マネジメントを理解し世代別、ケース別にプログラムづくりを行う。

到達目標

１．スポーツ栄養学の基礎的な知識の習得と栄養管理の手法を身につける。
２．対象者別に効果的な集団指導の方法を考察する。
３．トップアスリートの食事面、栄養面でのサポートにおける個別対応の必要性を理解する。
４．スポーツ栄養マネジメントについて理解し習得する

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	スポーツ栄養について	授業概要 スポーツ栄養の概要	予習30分（スポーツ栄養をしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第2回	スポーツ栄養について	スポーツ栄養に関する科学的理論と根拠	予習30分（運動生理学や運動時の栄養について調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第3回	スポーツ栄養につ	栄養ケア・マネジメント、栄養アセスメント、スポーツ栄養マネジメン	予習30分（栄養マネジメントについて調べる） 復習60分（授業の記録をノート

	いて	トとは	と資料で再確認する）
第4回	スポーツ栄養マネジメント	スポーツ栄養マネジメントの概要１	予習30分（スポーツ栄養マネジメントについて調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第5回	スポーツ栄養マネジメント	スポーツ栄養マネジメントの概要２	予習30分（スポーツ栄養マネジメントについて調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第6回	スポーツ栄養マネジメント	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランの作成 グループでのプログラムづくりするためアクティブラーニングを行う。	予習30分（ケアプランを作るための資料集めをする） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第7回	スポーツ栄養マネジメント	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成１ グループでのプログラム（献立）づくりするためアクティブラーニングで行う。	予習30分（献立を作るための資料集めをする） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第8回	スポーツ栄養マネジメント	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成２ グループでのプログラム（献立）づくりするためアクティブラーニングで行う。	予習30分（献立を作るための資料集めをする） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第9回	スポーツ栄養マネジメント	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成３ スポーツ栄養マネジメント実習（グループ研究）発表準備 グループでのプログラムの発表を行うためアクティブラーニングにてまとめる。	予習30分（発表の準備を行う） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第10回	スポーツ栄養マネジメント	スポーツ栄養マネジメント実習（グループ研究）発表・評価	予習30分（発表の準備を行う） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第11回	対象者別指導	対象者別スポーツ栄養指導についてグループでのプログラム作成を行うためアクティブラーニングにてまとめる。	予習30分（ライフステージ別のプランを立てる上で年代毎の資料を集める。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第12回	対象者別指導（集団）	対象者別スポーツ栄養指導（栄養教育教材作成） グループでのプログラム作成(教材作成)を行うためアクティブラーニングにてまとめる。	予習30分（教材づくりのための資料を集める。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第13回	対象者別指導（集団）	対象者別スポーツ栄養指導（発表）	予習30分（発表の準備を行う） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第14回	競技別栄養管理①	個別競技の特性を踏まえた栄養管理１	予習30分（指定競技の概要、ルールなどを予習する） 復習60分（授業の記録をノート

			と資料で再確認する）
第15回	競技別栄養管理② まとめ	個別競技の特性を踏まえた栄養管理２ 発表・相互評価	予習30分（発表に向け準備する） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）

教科書

なし
適宜､プリントを渡します。

参考書

健康づくりと競技力向上のための スポーツ栄養マネジメント．日本医療企画．鈴木 志保子 (著)他
エクセル栄養君建帛社。
エクセル栄養君FFQｇ 建帛社
アスリートの栄養アセスメント．第一出版．田口 素子 (著)他

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上
提出物50% 発表50%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

予習と授業終了後のノート整理を行うこと。課題や発表に対してコメント付け返却する。

履修のポイント

スポーツ選手等の栄養管理の実際について検討する各研究発表において、各自が積極的に発言し意見交換を行うこと。

オフィス・アワー

曜 日：月曜日～金曜日
時 間：12：30～13：15
場 所：11号館3階 研究室6

講義コード	30510001
講義名	給食計画・実務論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C235
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中村 裕子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食計画・実務論は、病院、学校、福祉施設、事業所等の給食施設の業務における栄養士の役割を認識し、食事の計画や栄養管理、調理実務を経営管理理念を持ち、いかに適切に遂行していくか講ずる。
給食施設での栄養管理、大量調理の献立作成、調理作業、衛生管理、安全管理、作業管理、施設管理について理解を深め実務に活かせることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーに則し「健康と栄養」にかかわる給食施設における栄養士として、その施設の特性に適応した食事計画、栄養管理はもちろん、給食の管理運営についても積極的に取り組めるよう学修し、高い実践力を身につけることを目指すものとする。

到達目標

・栄養士の様々な業務を認識する。
・喫食対象者の実態に適応した安全で良質な給食の実践力を身につける。
・計画と実務の関係、管理の在り方を具体的に把握する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	給食管理と栄養士	給食の目的・栄養士の役割について（アクティブラーニングの内容）…グループディスカッション 給食や栄養士という職業にどのようなイメージを持っているか、また業務に対する認知度について意見交換する。「栄養士」に興味を持ち、役割について理解を深めるたい。 今後の授業の参考とする。	予習：初回授業のため教科書の第１章給食の概念を読んでおく。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
			予習：90分教科書指定範囲を読

第2回	栄養・食事計画 1	食事計画 食事計画と栄養士の業務内容について	んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
第3回	栄養・食事計画 2	栄養管理 接種基準量の設定と献立計画について	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
第4回	調理管理と帳票類	調理実務と関係帳票 品質管理について	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
第5回	施設・設備管理	給食施設の各種設備 機器と食器等の管理について	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
第6回	衛生管理	安全な給食のための食中毒防止対策について	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
第7回	給食の品質管理	給食における標準化と品質の向上方法	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
第8回	給食の経営管理	係数管理と人事管理	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。前半のまとめとして練習問題を解く。
第9回	給食関係法令	給食関係法令 健康増進法・食品衛生法等	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
第10回	病院給食	施設の特徴・栄養管理・調理実務・運営について	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
第11回	学校給食	施設の特徴・栄養管理・調理実務・運営について	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
第12回	保育所給食	施設の特徴・栄養管理・調理実務・運営について	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をす

			る。
第13回	高齢者施設の給食	施設の特徴・栄養管理・調理実務・運営について	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
第14回	事業所・その他の給食	施設の特徴・栄養管理・調理実務・運営について	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。
第15回	総括	まとめ 計画から実践へ （アクティブラーニングの内容） 各給食施設と栄養士の役割について、初回のグループディスカッションから自分の認識がどのように変化したのか発表する	予習：90分教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：90分授業内容を教科書をもとに見直しノート整理をする。

教科書
テキスト給食経営管理 学建書院
参考書
イラストでみるはじめての大量調理 学建書院
成績評価の方法・基準
単位認定50以上 筆記試験 ８０％ 課題の取り組み・レポート ２０％
課題等に対する フィードバックの方法
レポートや課題を課すことがあるが解答や解説を配付するほか、参考資料を配付するので授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
・給食計画から実践へ理解を深め、校外実習に活かす。 ・日ごろから食に関心を持つこと。 ・給食施設の目的に適応した給食づくりを理解する
オフィス・アワー
授業終了後適宜受け付ける。 あるいは月曜日・火曜日・木曜日（12:30～13:20) ９号館第８研究室にて受け付る。

講義コード	30520001
講義名	校外実習
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C256
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士法が2002年に改正され、栄養士は単に食事を提供するのみではなく、食を通して人をより良い栄養状態に導く健康のプロであることが明言されました。栄養士を目指す学生は、人の健康の担い手であることが求められています。
本授業では、いろいろな問題を見つけみずからの力で解決していくことにより、体験を通して物事を知る「実践の知」につながる実習をおこなう。経験・体験した知識を就職に結びつけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、学修を総合的に理解し、卒業後に栄養士として活躍できるよう実習現場での経験をし、社会人になれるように基本的な事項を身につける、栄養士としての意識を持って望み、問題を解決できる学生の校外実習をめざす。

到達目標

これから求められる栄養士になれるような学習を、実習現場で経験することにより、栄養士の役割を理解し、現場において役立つ社会人となることが到達目標である。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	実習先の発表と説明、実習に当たっての諸注意 班員の情報確認と共有する	校外実習について理解するために事前学習30分以上
第2回	事前指導1-①	校外実習についての説明（学校給食、事業所給食） 各実習施設の情報共有する	各実習場所の特徴について調べるために60分以上
第3回	事前指導1-②	事前挨拶等の説明、事前課題 課題発表、提出日時、場所等共有確認する	事前課題等の作成のために60分以上 実習施設への連絡確認のために30分
	事前指		実習場所の内容について事

第4回	導1-③	実習直前説明会	前学習120分以上
第5回	校外実習	実習４０時間	事前準備のために120分以上 毎日ノート整理等に60分以上
第6回	事後指導1-①	課題提出	課題提出のために120分以上
第7回	事後指導1-②	各実習場所の報告会および反省会 アクティブラーニング：各班の代表者による実習報告を実施し、情報交換等を実施する。	報告会のための準備に120分以上
第8回	事前指導2-①	第二回実習場所発表 実習先の説明、実習に当たっての諸注意 情報を共有する	第二期校外実習について理解するために事前学習30分以上
第9回	事前指導2-②	校外実習についての説明（病院給食、社会福祉施設）	各実習場所の特徴について調べるために60分以上
第10回	事前指導2-③	事前挨拶等の説明、事前課題	事前課題等の作成のために60分以上 実習施設への連絡確認のために30分
第11回	事前指導2-④	実習直前説明会	実習場所の内容について事前学習120分以上
第12回	校外実習	実習４０時間	事前準備のために120分以上 毎日ノート整理等に60分以上
第13回	事後指導2-①	課題提出	課題提出のために120分以上
第14回	事後指導2-②	報告会及び反省会の準備 アクティブラーニング：各班ごとに班長中心に意見をまとめ、報告会にむけての準備をする。	報告会のための準備に120分以上
第15回	事後指導2-③	各実習場所の報告会および反省会 アクティブラーニング：各班の代表者による実習報告を実施し、情報交換等を実施する。	報告会のための準備に120分以上 報告会終了後 まとめに60分

教科書

栄養士校外実習ノート （学内作成用）

参考書

管理栄養士･栄養士になるための国語表現 萌文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 校外実習先評価点90％、事前・事後課題10％

課題等に対する
フィードバックの方法

栄養士の職について、現状を把握するよう日ごろから新聞等からの情報を勧めます

履修のポイント

具体的な栄養士の現場を体験することにより、栄養士の内容を理解する

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、授業終了後、随時 橋本まさ子：9号館3階第七研究室 火曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、授業終了後、随時 井桁千恵子：9号館３階第9研究室

講義コード	30530001
講義名	栄養指導論Ⅰ
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C257
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 市原 幸文	指定なし

授業の概要と教育目標

本講座では、栄養教育を実践する際に必要な我が国の食の現状や課題および現在の食生活の政策について学ぶ。
また、食行動変容の基礎理論に触れながら、栄養教育の理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

身近な問題である食事と栄養を通して、生活を考える。
私たちを取り巻く社会的環境についても科学的に理解し栄養教育に繋げていくことができる。
実践現場で栄養教育を企画立案するための基礎知識を習得する。

到達目標

１．栄養教育を実施する際に必要な食の課題について学び、社会のニーズを理解する。
２．また、我が国の栄養教育を推進するうえで、対象者（対象地域）にどのような食教育をすべきか考察し、自分の言葉で表現できる力を身につける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	本講座の目的・授業の進め方等の説明	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第2回	栄養教育概論	栄養教育概論	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第3回	食生活の課題	食生活の課題/健康日本21（第2次）など 【アクティブラーニングの内容】 表題につき各自調べ、配布資料も参考にして感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第4回	栄養教育の国際的動	各国の食生活指針 【アクティブラーニングの内容】 表題につき各自調べ、配布資料も参考にし	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布

	向	て感想をレポートにまとめる。	資料を見直す。
第5回	栄養教育の国際的動向	食事バランスガイド策定 【アクティブラーニングの内容】 表題につき各自調べ、配布資料も参考にして感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	行動科学理論の基礎	健康教育・行動科学理論 【アクティブラーニングの内容】 健康教育における行動科学理論について理解を深めるためにグループワークを行い、感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	行動科学理論の基礎	理論と実践 【アクティブラーニングの内容】 健康教育における行動科学理論について理解を深めるためにグループワークを行い、感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	食環境づくり	栄養教育と食環境づくり 【アクティブラーニングの内容】 栄養教育における食環境づくりの在り方についてグループワークを行い、感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	地域計画	地域政策の概念・手法１ 【アクティブラーニングの内容】 地域政策における栄養教育の在り方についてグループワークを行い、感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第10回	地域計画	地域政策の実践１ 【アクティブラーニングの内容】 地域政策の具体的な実践例についてグループワークを行い、感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第11回	地域計画	地域政策の実践２ 【アクティブラーニングの内容】 多様な地域政策の具体的な実践例についてグループワークを行い、感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	食育１	食育推進計画（第2次）/ 健やか親子21（第2次）に向けて 【アクティブラーニングの内容】 表題につき各自調べ、配布資料も参考にして感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	食育２	こどもの食の現状 【アクティブラーニングの内容】 表題につき各自調べ、配布資料も参考にして感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	食育３	共食と社会問題 【アクティブラーニングの内容】 表題につき各自調べ、配布資料も参考にして感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第15回	まとめ	総括・振り返り 【アクティブラーニングの内容】 栄養教育の推進役としての栄養士の在り方について、全体討議を行い、感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

第16回			

教科書
岡崎光子編著「栄養教育論」/ 光生館 / プリント配布
参考書
適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定：50点以上 提出物100% 学習への意欲や態度なども参考にします。
課題等に対する フィードバックの方法
毎回レポート課題の提出を行います。関係法令や通達などをWEBや成書で調べて完成させ、更に自分の感想を必ず記述して下さい。 返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの出来る資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
本授業をとおし、受け身の学習ではなく、自発的に調べて視野を広げていく専門職（職業人）としての能力を2年次終了までに養ってください。
オフィス・アワー
月曜日の5限、月曜日、火曜日の昼休み （場所：9号館 市原研究室）

講義コード	30540001
講義名	栄養指導論 II
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C277
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 市原 幸文	指定なし

授業の概要と教育目標

本講座では、栄養教育を実践する際に必要な我が国の食の現状や課題および現在の食生活の政策について学ぶ。
また、食行動変容の基礎理論に触れながら、栄養教育の理解を深める。
栄養教育（企画・実践・評価）を推進する上で、必要な基礎知識を習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

身近な問題である食事と栄養を通して、生活を考える。
私たちを取り巻く社会的環境についても科学的に理解し、栄養教育に繋げていくことができる。
栄養教育の計画立案・実践・評価する基礎知識を身につけ、栄養教育の現場で活用・展開ができるようになる。

到達目標

１．栄養教育を実践するマネージメントを学び、活用できるようになる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	本講座の目的・授業の進め方等の説明	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第2回	栄養教育概論	栄養教育のマネジメントサイクル（PDCA）	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第3回	アセスメント	栄養教育のアセスメント（計画１） 【アクティブラーニングの内容】 各種の栄養教育のアセスメントについて学修したうえでグループワークを行い、感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

第4回	アセスメント	栄養教育のアセスメント（計画２） 【アクティブラーニングの内容】 各種の栄養教育のアセスメントについて学修したうえでグループワークを行い、感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	栄養教育プログラム	栄養教育のプログラム（計画３） 【アクティブラーニングの内容】 (演習）各自がプログラムを完成させる。 プログラム完成までの感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	栄養教育プログラム	栄養教育のプログラム（計画４） 【アクティブラーニングの内容】 各プログラムの発表とディスカッション 総合的な感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	栄養教育手法	食事バランスガイド他 【アクティブラーニングの内容】 食事バランスガイドについて調べ、感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	栄養教育手法	食育白書：教育教材 【アクティブラーニングの内容】 食育白書について調べ、感想をレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	栄養教育の評価	長期・中期・短期評価	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第10回	ライフスタイル別指導１	ライフスタイルの特徴と支援１ 【アクティブラーニングの内容】 幼少期から学齢期のライフスタイルの特徴や支援の仕方を調べ、感想などをレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第11回	ライフスタイル別指導２	ライフスタイルの特徴と支援２ 【アクティブラーニングの内容】 青年期から壮年期のライフスタイルの特徴や支援の仕方を調べ、感想などをレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	ライフスタイル別指導３	ライフスタイルの特徴と支援３ 【アクティブラーニングの内容】 高齢期のライフスタイルの特徴や支援の仕方を調べ、感想などをレポートにまとめる。	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	生活習慣病予防１	特定健診保健指導概論	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	生活習慣病予防２	特定健診保健指導各論	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第15回	まとめ	総括・振り返り 【アクティブラーニングの内容】 個人から集団、ライフステージにわたる栄養教育について、栄養士としての取り組み方についてディスカッションし、感想をレポートにまと	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

		める。	

教科書
岡崎光子編著「栄養教育論」/ 光生館 / プリント配布
参考書
適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定：50点以上 提出物100% 学習への意欲や態度なども参考にします。
課題等に対する フィードバックの方法
毎回レポート課題の提出を行います。法令や通達などの関連項目をWEBや成書で調べて下さい。更に必ず感想を記述して下さい。 返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの出来る資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
本授業をとおして、受け身ではなく、専門職（職業人）として、自発的に調べ、視野を広げていく能力を2年次終了までに養ってください。
オフィス・アワー
月曜日、火曜日の担当の授業時間外（場所：9号館 市原研究室）

講義コード	30550001
講義名	学内実習
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C215
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

集団給食室（学内）を利用し、学生を対象にした食事計画・大量調理・調理作業の計画・食品管理・衛生管理など集団給食の栄養業務・その他の業務すべてを体験する。実習では、食事計画 → 献立作成 → 材料の発注 → 試作 → 給食業務 → 反省会の流れで実習を行う。 食事計画・大量調理・調理作業の計画・食品管理・衛生管理など集団給食の栄養業務・その他の業務すべてを体験することで集団給食における栄養士の役割とあり方について学ぶことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、実習を通じて「給食管理」「大量調理」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事(給食)を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・集団給食における食事計画・大量調理・調理作業の計画・食品管理・衛生管理などを通じてその特性と栄養士業務を理解する。
・学内実習を通してグループ学習の重要性を理解し、校外実習への発展を促す。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	学内実習 ガイダンスⅠ	学内実習 授業概要について	予習30分：教科書1章(給食運営・経営管理 実習のてびき)を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第2回	栄養・食事管理業務Ⅰ	１．栄養・食事管理業務（１） ２．献立作成の手順 ３．給与栄養目標量の算出（演習）	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉1を読む。復習30分：配布資料を見直す。
			予習30分：教科書(給食運

第3回	栄養・食事管理業務Ⅱ	１．栄養・食事管理業務（２） ２．栄養比率の算出（演習）	営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉1を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第4回	栄養・食事管理業務Ⅲ	１．栄養・食事管理業務（３） ２．食品構成表の作成（演習）	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉2・3を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第5回	食材の生産管理の実践	１．食材の生産管理 ２．発注表の作成（演習）	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉7を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第6回	栄養・食事管理業務Ⅳ	食事計画・献立作成(演習)	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉4を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第7回	学内実習 ガイダンスⅡ・衛生管理	学内実習 概要・衛生管理(ＨＡＣＣＰ)	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉4及び教科書(大量調理)1章を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第8回	施設・設備の保守管理Ⅰ・Ⅱ	１．施設・設備の保守管理について（１） ２．実習室説明	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉4を読む。教科書1章を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第9回	実習	栄養教育媒体等作成 【アクティブラーニングの内容】 履修者に栄養教育について意見交換をさせ、栄養教育について理解するきっかけを作る。また資料を用いて栄養教育の実践例について解説して理解を深め、再度栄養教育について意見交換する。	予習30分：教科書教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉8を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第10回	実習（試作）	試作実習 ※詳細については実施献立決定後発表 【アクティブラーニングの内容】 履修者に実施予定献立について意見交換をさせ、給食管理について理解するきっかけを作る。また資料を用いて実施予定献立について解説して理解を深め、再度意見交換する。	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉5を読む。教科書1章を読む。復習30分：実習日誌を記入。
第11回	実習（プレ）	プレ実習 ※詳細については実施献立決定後発表	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉を読む。復習30分：実習日誌を記入。
第12回	実習	給食管理実習 ※詳細については実施献立決定後発表	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉を読む。復習30分：実習日誌を記入。

第13回	実習	給食管理実習 ※詳細については実施献立決定後発表	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉を読む。復習30分：実習日誌を記入。
第14回	実習	詳細については実施献立決定後発表	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉を読む。。復習30分：実習日誌を記入。
第15回	まとめ	学内実習の際に実施したアンケート結果をもとに反省会を行う	予習30分：配布した反省会資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

教科書

給食運営・経営管理実習のてびき第5版（医歯薬出版株式会社）
大量調理（学建書院）
調理のためのベーシックデータ
管理栄養士・栄養士になるための国語表現

参考書

給食経営管理テキスト 第５版(学建書院)

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上 実習実技40% 実習ノート40% 課題20%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業時に示す課題について、レポート及び実習ノートの該当する項目を完成すること。

履修のポイント

この授業では給食運営において栄養士がどのような業務をし、それにはどのような能力が必要なのかを実践の場で習得する実習であるので、研究心、協調性、責任感、積極性、自主性をもって意欲的に実習に取り組み、教科書やプリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。

オフィス・アワー

木曜日、12：30～13：20(昼休み)、９号館３階第９研究室
※講義授業前後にも、適宜受けます。

講義コード	30560001
講義名	栄養情報処理演習
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C258
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし
教員	石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養関係業務では多くの資料を扱うことが多い。そこで栄養管理及び栄養教育の基礎的技術としてコンピュータの利用について演習を行う。授業ではLMSを使用する。栄養士業務のなかでコンピュータを用いた栄養管理及び栄養教育技術への応用について理解し、実際にコンピュータを利用して処理を行える技術を身に付けることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「統計学」「情報処理」「プレゼンテーション」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する栄養士の基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・栄養士業務におけるコンピュータの役割について理解し積極的に利用できるようになる
・栄養士業務の中で給与栄養目標量の算出や食品構成表、栄養出納表の作成をExcelを用いて作成できる
・栄養士業務における統計処理の基本的な知識と技術を習得する
・パワーポイントを用いて栄養教育資料を作成しプレゼンテーションを行うことができる

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	栄養士業務とコンピュータ	学習目的・講義計画について,文献検索について, PCの習熟度についての確認 担当：中島・石井	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第2回	献立作成	献立作成ソフトの操作方法及び演習 担当：中島	予習30分：テキスト(30時間アカデミック情報リテラシー Office2016)を読む。復

			習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第3回	Excelによる栄養目標量の算出	Excelの基本的操作を確認しながら、栄養目標量計算シートの作成を行う 担当：中島	予習30分：テキスト(30時間アカデミック情報リテラシー Office2016)を読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第4回	Excelによる食品構成表の作成 - ワークシートの活用 -	Excelを用いて食品構成表を作成する 担当：中島	予習30分：テキスト(30時間アカデミック情報リテラシー Office2016)を読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第5回	Excelによる食品構成表の作成 - ワークシートの活用 -	Excelを用いて食品構成表を作成する 担当：中島	予習30分：配布資料を読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第6回	Excelによる食品構成表の作成 - ワークシートの活用Ⅱ -	Excelを用いて栄養出納表を作成する 担当：中島	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第7回	Excelによる栄養出納表の作成 - ワークシートの活用Ⅲ -	Excelを用いて栄養価計算シートの作成を行う 担当：中島	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第8回	プレゼンテーション（1）	パワーポイントの操作方法、インターネットを用いた情報検索と著作権 担当：中島 【アクティブラーニングの内容】 履修者にどのような栄養に関する情報が必要かについて意見交換をさせ、栄養教育について理解するきっかけを作る。また資料を用いて生活習慣病等に関する栄養情報を用いて解説して理解を深め、再度栄養教育に関する意見交換を行う。	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第9回	プレゼンテーション（2）	パワーポイントの操作方法、インターネットを用いた情報検索と著作権 担当：中島	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第10回	プレゼンテーション（3）	テーマを選び、パワーポイントを用いてプレゼンテーション資料作成及び発表 担当：中島	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第11回	プレゼンテーショ	発表	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布

	ン（4）	担当：中島	資料及びテキストを見直す。
第12回	Excelによる統計処理（1）	Excelによるデータ処理、度数分布表、平均、標準偏差 担当：石井	予習30分：教科書第1章～第3章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第13回	Excelによる統計処理（2）	グラフによるデータのまとめ方、相関と回帰直線 担当：石井	予習30分：教科書第4章～第6章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第14回	Excelによる統計処理（3）	区間推定（母平均の区間推定など）・仮説検定（1） 担当：石井	予習30分：教科書第9章～第11章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第15回	Excelによる統計処理（4）	仮説検定（2）・クロス集計表と検定 担当：石井	予習30分：教科書第7章・第12章を確認 復習30分：理解度の問題を行う

教科書

Excel統計処理：「よくわかる統計学 介護福祉・栄養管理データ編 第2版」（東京図書）、その他はプリントを配布する。

参考書

30時間アカデミック情報リテラシー Office2016

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上 課題（給与栄養目標量15%、食品構成表・栄養出納表15%、統計処理30%）、プレゼンテーション（資料・発表40%）を総合して評価

課題等に対するフィードバックの方法

授業内で課題やレポートを課すことがあります。返却しますので、学習の参考にしてください。

履修のポイント

栄養に関する情報に対して科学的な視点を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むこと。
統計処理においては、「くらしと統計」を履修していない学生は特に予習として教科書や資料を熟読しておいてください。その他についても、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読、課題を復習として勧めます。
また、栄養士必修科目のため、欠席（公欠含む）した場合は必ず補講内容について確認してください。

オフィス・アワー

中島：木曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3階第9研究室
石井：火曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3階第11研究室
※講義授業前後にも、適宜受けます。

講義コード	30570001
講義名	栄養教諭論
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C330
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし
教 員	武井 弘美	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭の制度と役割、学校給食の教育的意義と役割、学校組織と栄養教諭の位置づけや学校給食の歴史と食文化の変遷についての講義内容。また、自分の実践を踏まえての講義。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学日生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として理論だけでなく、より専門的な知識をもった栄養教諭をめざす。そして将来的には栄養教諭論で学んだことを食の専門家として生かせるようになる。

到達目標

栄養教諭の社会的使命、職務内容を食に関する全体的な指導計画ができるようになる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	栄養教諭の使命と役割	栄養教諭制度創設の趣旨と意義、社会・時代的背景、課せられた使命と役割、学校給食法等の関連法律の理解等についての講義内容。栄養教諭の役割について考えさせ意見交換をする	予習30分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第2回	学校給食の意義・役割	学校給食の歴史、学校組織と栄養教諭の位置づけ等についての講義内容。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第3回	栄養教諭の職務内容	栄養教諭の職務内容、給食管理と食に関する指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義。栄養教諭の職務につてまとめさせ、発表する。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ

第4回	食に関する指導の全体計画	「食に関する指導」の必要性、内容と作成と留意点について栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第5回	食に関する指導の展開	食に関する指導の全体計画、教科等における指導計画、給食時間の指導計画、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第6回	給食時間における食に関する指導	給食指導の年間指導計画の作成、給食時間における指導の実際等、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第7回	発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材	小・中学生の学習の発達と食生活学習についての講義内容。栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。 具体例を挙げさせ、指導方法についての意見交換をする。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第8回	教科等における食に関する指導	「道徳・特別活動」における食に関する指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第9回	個別栄養相談指導、栄養教諭の役割とその職務について	個別相談の意義、特長、指導方法、食物アレルギー等に関する個別支援の仕方について、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第10回	家庭・地域との連携における食に関する指導としての、栄養教諭の役割	「家庭・地域社会との連携」における留意点、連携の仕方および手順等について、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第11回	教科等における食に関する指導Ⅰ	「家庭科」、「技術・家庭科」、「体育科」、「保健体育科」における食に関する指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第12回	教科等における食に関する指導Ⅱ	「生活科」における職の指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第13回	教科等における食に関する指導Ⅲ	「総合的な学習の時間」における食に関する指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習60分：授業のまとめ
第14回	実践演習 Ⅰ	模擬授業に向けての指導案の作成、教材作成。個別指導を実施する。 アクティブラーニング：各自の課題に沿って、指導案を作成し模擬授業を実施し、意見交換をする。	予習180分：模擬授業の準備及び教材作成、復習180分：模擬授業のための最終確認
第15回	実践演習 Ⅱ	模擬授業を行なう。 まとめ。 アクティブラーニング：模擬授業方法について意見交換を実施する。	予習120分：模擬授業の準備、復習60分：授業のまとめ

教科書
三訂 栄養教諭 第３版 金田雅代 編
参考書
栄養教諭は何をすべきか ぎょうせい 栄養教諭 養成における 実習の手引き 東山書房 新現代の栄養教育実践 同文書院
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上 学期末レポートや授業態度、指導案作成、課題などで評価
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがあるので、返却後学習の参考にすると良い。
履修のポイント
予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になりので、授業への積極的な取り組む態度が後の教育実習を成功させる結果になります。
オフィス・アワー
授業終了後 適宜受け付けます。 武井弘美、月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、授業終了後 適宜受け付けます。 9号館3階第7研究室(橋本)

講義コード	30580001
講義名	食育論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C352
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中村 裕子	指定なし

授業の概要と教育目標

食をめぐるさまざまな問題と食育基本法制定の背景から、食育の重要性を考慮しその実際について講義する。
本科目を通じ「食」に関する知識と正しい食情報の選択力を習得し、栄養士としての食育実践力を身につけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーに掲げる「人の体・食品・栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場、食育を必要とする場面での指導力を身につけられることを目指すものとする。

到達目標

・食をめぐる現状と課題の把握と食情報の収集に努める。
・幅広い食の分野の理解に努め、様々な場面での食指導力を高める。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食育の必要性	食をめぐる現状把握 （アクティブラーニングの内容）…グループディスカッション 食をめぐる現状把握と問題解決策について意見交換する。	予習：90分 食をめぐる現状から、各自問題点を調べておく。 復習：90分 グループディスカッションを参考に課題を提示するので、レポートを作成する。
第2回	食育の基本的方針 1	食育基本法・食育推進計画について	予習：90分 食育基本法を読んでおくこと。 復習：90分 授業の復習、ノート整理食育とは何か、食育基本法から学ぶことを記しておくこと。
3	食育の	食品の安全性の確保・環境と調和した	予習：90分 配付資料を読み込むこと。

第　回	基本的方針 ２	食材生産について	復習：90分 授業内容の復習とノート整理
第4回	食育の推進 １	家庭における食育の推進 食文化の継承・家庭の栄養バランス	予習：90分 指示をした資料の収集 復習：90分 授業内容の復習とノート整理。
第5回	食育の推進 ２	こどもの食育における保育者・教育関係者の取り組み	予習：90分 保育園の給食の献立を立案する。 復習：90分 授業内容の復習 課題：こどもの食育に関しての媒体研究。
第6回	食育の推進 ３	地域における食生活改善のための取り組みについて	予習：90分 地域の食に関する活動状況を調べておく。 復習：90分 授業内容の復習とノート整理。
第7回	ライフステージと食育	生涯食育の意義 （アクティブラーニングの内容）…グループディスカッション 自分が取り組みたい食育について（例 年齢層別 食文化に関わる事項 家庭に関わる事項）意見交換し発表する。	予習：90分 指示をした資料の収集 復習：90分 グループディスカッションを参考に課題を提示するので、レポートを作成する。
第8回	総括	栄養士の役割 食生活改善と食育の実際 様々な食育媒体について	予習：90分 指示をした資料の収集 復習：90分 授業内容の復習とノート整理

教科書

適宜プリントを配付する。

参考書

適宜プリントを配付する。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上 レポート・課題 ７０％ グループ討議・発表 ３０％

課題等に対するフィードバックの方法

レポートや課題を課すことがあるが、解説資料を配付するので授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

・日ごろから食情報に注意すること。
・授業への積極的な取り組みを期待する。

オフィス・アワー

授業終了後適宜受け付ける。
月曜日・火曜日・木曜日（12:30～13:20) ９号館３階・第８研究室にて受け付ける。

講義コード	30590001
講義名	食育論演習
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C372
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中村 裕子	指定なし

授業の概要と教育目標

健康の維持・増進、食行動、食文化の継承、食の安全問題等、現代の食をめぐるさまざまな問題に対応した食教育プログラムを構築し、実践に際しての教材（媒体）の製作と活用を習得できるよう指導し、栄養士の役割と活動を広げることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーの中に、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について科学的に理解している。という項目があり、このことに関連し、まさに生きる上での食の大切さ、知育・徳育・体育の前段階に食育があるということや、さまざまな社会の中での「食の成り立ち」を理解し、適応力を身に付けた食の指導者を目指すものとする。

到達目標

・食事情に対応した食育実践力を身に付ける。
・対象に適した食育を実践する。
・対象に適した指導媒体の製作ができること。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	演習についてガイダンス	食育のさまざまな実践方法について	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 授業内容の復習 資料を見直す。
第2回	グループ討論 食の現状把握と対応策	食の現状把握と問題点－食育との連携（アクティブラーニングの内容）…グループディスカッション 食の現状と問題点を把握し対処方法を探る。意見交換し発表する。今後の授業の研究の方	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 授業内容の復習 ディスカッションのまとめ

		向付けも考慮する。	
第3回	食育対象と食育計画 1	対象に合わせた媒体と実践および教育プログラムについて （幼児・児童を中心とする）	予習：30分 指示をした資料の収集。 復習：30分 授業内容の復習 資料を見直す。
第4回	食育対象と食育計画 2	対象に合わせた媒体と実践および教育プログラムについて （青年・成人・高齢者を中心とする）	予習：30分 指示をした資料の収集。 復習：30分 授業内容の復習 資料を見直す。
第5回	グループ活動 食育計画作成	食育対象を設定し食育計画を作成する	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 授業内容の復習 計画書の見直しをする。
第6回	グループ活動 媒体製作活動	食育計画から実践を考慮した媒体の作成に取り組む	予習：30分 指示をした資料の収集。 復習：30分 授業内容の復習。演習ノート整理をする。
第7回	グループ活動 媒体製作活動	食育媒体の製作	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 授業内容の復習。演習ノート整理をする。
第8回	グループ活動 媒体製作活動	食育媒体の製作	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 授業内容の復習。演習ノート整理をする。
第9回	グループ活動 媒体製作活動	食育媒体の製作	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 授業内容の復習。 演習ノート整理をする。
第10回	グループ活動 媒体製作活動	媒体の研究と製作	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 授業内容の復習 演習ノート整理をする。
第11回	グループ活動 媒体製作活動	媒体の研究と製作	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 授業内容の復習 演習ノート整理をする。
第12回	グループ活動発表会	発表会 製作した食育媒体を用いて発表を行う 対象を想定し実践する	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 発表のまとめ 演習ノート整理をする。
第13回	食文化と伝承	食作法 日本の食生活・世界の食生活 郷土料理・地域の料理	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 授業内容の復習 演習ノート整理を

			する。
第14回	食育の根幹	家庭の食の在り方 心と食の関係	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 授業内容の復習 演習ノート整理をする。
第15回	総括	食育の質を高める方法 社会と栄養士の役割	予習：30分 配付した資料を読んでおく。 復習：30分 授業内容の復習 演習ノート整理をする。

教科書

適宜プリントを配付する。

参考書

適宜プリントを配付する。

成績評価の方法・基準

単位認定５０点以上 レポート５０％ 食育教材製作物評価４０％
授業への参加度１０％

課題等に対する
フィードバックの方法

・収集した資料の選択や用い方についての指導を行う。
・提出された演習ノートに講評するので学習の参考にすること

履修のポイント

・制作物への取り組みを積極的に行うこと。
・表現力を身につける。

オフィス・アワー

授業終了後適宜受け付ける
あるいは月曜日・火曜日・木曜日(12:30～13:20)９号館第８研究室にて受け付ける。

講義コード	30600001
講義名	フードコーディネート論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C353
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

フードコディネートとは、食に関する場において、複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出することである。また、食に関する場面において満足できる状態を演出するということは、食物自体のおいしさに加えて、食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などが係る総合的な場面を構築することである。そこで、フードコーディネートを学ぶために、おいしさの科学、食事の文化、食卓のコーディネート、食卓のサービスとマナー、メニュープランニング、食空間コーディネート、フードマネジメントサービスについて学習する。授業は講義形式で行う。なお、本教科は、おいしさの科学、食事の文化、食卓のコーディネート、食卓のサービスとマナー、メニュープランニング等の基礎知識を習得し、フードコーディネートに対する理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「フードコーディネート」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては、社会が複雑化する中で、食に対する高い見識を持ち、広い視野から食生活で生じる様々な懸案を総合的に解決できる人材として、その要求に応えうる専門家である「フードスペシャリスト」の基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・フードコーディネートの基本理念であるおいしさの理論を習得する。
・食事の文化、料理様式についての知識を習得し、メニュープランニングの理論を習得する。
・食卓及び食空間のコーディネート、サービス、マナーについて基本的な知識を習得する。
・フードサービスマネジメントの知識と理論を習得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
	フードコーディ	・おいしさの本質	予習90分：教科書(フードコーディ

第1回	ネートの基本理念	・おいしさとフードコーディネート	ネート論)1章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第2回	食事の文化	・食事とは ・食のタブーと宗教 ・日本の食事の歴史 ・特別な日の食事 ・外国の食事 【アクティブラーニングの内容】 履修者に家族の「特別な日(ハレの日)の食事」について意見交換をさせ、「特別な日(ハレの日）の食事」について理解するきっかけを作る。また前回の講義内容と併せて、「特別な日(ハレの日）の食事」のフードコーディネートのについて意見交換する。	予習90分：教科書(フードコーディネート論)2章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第3回	食卓のコーディネート	・テーブルコーディネートの要点 ・日本料理の食卓のコーディネート ・中国料理の食卓のコーディネート ・西洋料理の食卓のコーディネート	予習90分：教科書(フードコーディネート論)3章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第4回	食卓のサービスとマナー	・サービスとマナーの基本 ・日本料理のサービスとマナー ・中国料理のサービスとマナー ・西洋料理のサービスとマナー ・パーティ ・プロトコル	予習90分：教科書(フードコーディネート論)4章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	メニュープランニング	・メニュープランニングの要件 ・料理様式とメニュー開発の基礎	予習90分：教科書(フードコーディネート論)5章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	食空間のコーディネート	・食空間のコーディネートの基礎 ・食空間のコーディネート ・キッチンのコーディネート 【アクティブラーニングの内容】 履修者に理想の食空間について意見交換をさせ、食空間について理解するきっかけを作る。また資料を用いて食空間について解説して理解を深め、再度学生自身が考える食空間について意見交換する。	予習90分：教科書(フードコーディネート論)6章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	フードサービスマネジメント	・フードサービスビジネスの動向と特性 ・マネジメントの基本 ・フードサービス(レストラン)の起業 ・投資計画の作成 ・収支計画の作成 ・損益分岐点売上げ高	予習90分：教科書(フードコーディネート論)7章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	食企画の実践コーディネート	・食企画の流れ ・食企画に必要な基礎スキル ・食企画の実践現場	予習90分：教科書(フードコーディネート論)8章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	まとめー食品の品質	・第1回～第8回 まとめ ・食品の品質 ・官能評価の概要	予習90分：教科書(食品の官能評価・鑑別演習)序章及び1章1を読む。復

	官能評価Ⅰ	・官能評価の基本と実施法	習90分：配布資料を見直す。
第10回	官能評価Ⅱ	・官能評価の基本と実施法	予習90分：教科書(食品の官能評価・鑑別演習)1章2を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第11回	化学的評価法Ⅰ	・食品成分と品質	予習90分：教科書(食品の官能評価・鑑別演習)2章1を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	化学的評価法Ⅱ	・化学的品質評価	予習90分：教科書(食品の官能評価・鑑別演習)2章2を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	物理的品質評価法Ⅰ	・食品の状態 ・レオロギーとテクスチャー	予習90分：教科書(食品の官能評価・鑑別演習)3章1・2を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	物理的品質評価法Ⅱ	・物理的性質の評価方法 ・色の評価方法 ・非破壊検査方法	予習90分：教科書(食品の官能評価・鑑別演習)3章3・4を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第15回	まとめⅡ	・第9回～第14回 まとめ	予習90分：教科書(食品の官能評価・鑑別演習)1章・２章・3章を読む。復習90分：配布資料を見直す。

教科書
三訂フードコーディネート論 新版食品の官能評価・鑑別演習(建帛社)
参考書
フードスペシャリスト資格認定試験集
成績評価の方法・基準
単位認定：50点以上 定期試験70% 小テスト20% 課題10%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内で課題を課します。返却しますので、学習の参考にしてください。
履修のポイント
フードコーディネートをよく理解するために日々の食や健康に関する情報収集が事前学習につながるので、教科書や配布プリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。フードコーディネートの視点を持ち、授業には積極的に参加する。

オフィス・アワー
木曜日、12：30～13：20(昼休み)、９号館３階第９研究室 ※講義授業前後にも、適宜受けます。

講義コード	30610001
講義名	フードスペシャリスト論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C310
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 景子	指定なし

授業の概要と教育目標

フードスペシャリストの業務とその専門性、食料と人類史、世界と日本の食物史、環境と食、食品産業、食品表示等、食に関する幅広い専門知識について学ぶ。食の専門家として必要な基本的知識を身につけ、フードスペシャリストの責務を理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解することを目指し、食全般の知識を養う。生産分野と栄養・調理分野、食品の開発・流通から販売・消費にいたる品質判定、コーディネート部分等、フードスペシャリストの業務内容や専門性を理解することを目標とする。将来は、資格を取得し、栄養士と合わせ持つことにより、安全性の確保、表示の適正化、超高齢化社会への対応など食や食生活の問題や課題に応えつつ、食関係業界で活躍できるよう目指す。

到達目標

・毎年1回実施されるフードスペシャリスト資格認定試験の合格を目指す。（2年次に受験）
・食の本質が「おいしさ」、「楽しさ」、「おもてなし」にあることをしっかり学び、食に関する幅広い専門知識を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	フードスペシャリストとは	フードスペシャリストの概念、業務とその専門性、養成と資格、活躍分野、責務	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第2回	人類と食物	人類の歩みと食物（狩猟採集時代、農耕牧畜時代、工業化時代から現代） 食品加工・保存技術史（伝統的、近代的、現代的） 【アクティブラーニング：グループを	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み

		作り、食品加工・保存技術について意見交換し、レポートにまとめ理解を深める】	直す。
第3回	世界の食１	食作法（手食文化、箸食文化、ナイフ・フォーク・スプーン食の文化） 食の禁忌と忌避（宗教、宗教以外の慣習等）	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第4回	世界の食２	世界各地の食事情（ヨーロッパ、東南アジア、中東（西アジア）、北アメリカ、中南米、アフリカ、その他地域・民族の食） 【アクティブラーニング：グループを作り、世界の地域ごとの食について意見交換し、レポートにまとめ理解を深める】	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第5回	日本の食１	日本の食物史（縄文時代～現代まで）	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第6回	日本の食２	食の地域差（野菜類、調味料、料理、その他）	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第7回	現代日本の食生活１	戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活、食生活の変遷と食産業 【アクティブラーニング：グループを作り、日本の食生活の変遷について意見交換し、レポートにまとめ理解を深める】	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第8回	現代日本の食生活２	食料の供給と食料自給率、環境と食（地産地消、フードマイレージ、スローフード運動の広がり、食品ロス率等）	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第9回	食品産業の役割１	フードシステムと食品産業、食品製造業の規模と動向・目的と特徴	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第10回	食品産業の役割２	食品卸売業、食品小売業、外食産業	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第11回	食品の品質規格と表示１	食品の品質規格、表示にかかわる法律、JAS法による規格、食品表示法による表示	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第12回	食品の品質規格と表示２	健康や栄養に関する表示制度、その他の法律による表示、コーデックス規格	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第13回	食情報と消費者保護１	食情報の発信と受容、食情報の濫用、食品の情報管理	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。

第14回	食情報と消費者保護2	食品の安全、消費者保護の制度	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。
第15回	まとめ	授業を振り返り、理解を深める。 認定試験過去問題に挑戦する。	予習90分：教科書該当ページをよく読む。復習90分：講義内容の理解、教科書該当箇所を読み直す。

教科書

四訂フードスペシャリスト論 第５版 建帛社

参考書

フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
筆記試験 90%、授業への参加度 10%（小テスト、グループワーク）

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で小テストやグループワークを行うことがある。返却をし、解説をしたり解答を配布するので、学習の参考にすること。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待する。教科書はよく読み、新しい情報に敏感でいること。

オフィス・アワー

月曜日・水曜日、12：30〜13：20（昼休み）、9号館3Ｆ第8研究室
※講義前後にも、適宜受け付けます

講義コード	30620001
講義名	基礎ゼミ（井桁）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R354
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士の専門知識を深めるためには、食品・栄養に関する事柄に対して多角的に取り組む意識をもってもらいたいと考える。履修授業で習得する内容をふまえた知識や技術の他に、卒後社会に関わる栄養士として必要になる心構え等を理解し、これからの栄養士業務に生かしていける学習内容にしたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品・栄養に関する情報に興味を持ちその内容について幅広く研究学習を行うことで、食品・栄養に関して基本的な事柄とそれら相互作用について理解する。
健康・栄養に係わる卒後の現場での実践的な活用と、問題解決能力を修得する。

到達目標

身近な問題から多角的なテーマまでを幅広く研究し、栄養士として実践を重視したあらゆる現場の分野で活動できる人材像を目指す。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	基礎ゼミの概要説明、計画の立て方	予習30分（研究の希望計画） 復習60分（テーマ決定の準備・検索）
第2回	研究テーマの決定	各自研究テーマを決める 内容・工程の連絡、次回の準備 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各研究テーマに対する意見交換を行う	予習30分（研究テーマの計画） 復習60分（演習の準備）
第3回	演習①	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第4回	演習②	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）

第5回	演習③	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認 チェック、課題レポートの準備）
第6回	演習④	テーマ別に内容実施、資料の検索 【課題】中間報告のレポート提出	予習30分（課題レポートの準備） 復習60分（演習内容の確認 チェック）
第7回	中間発表	経過報告の発表（検討会） ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各研究の進捗状況を発表 意見交換および情報の提示を行う	予習30分（中間発表の準備） 復習60分（発表後の内容検討、まとめに向けた準備計画）
第8回	演習⑤	テーマの再検討 期末まとめに向けた準備	予習30分（検討内容の確認） 復習60分（次回演習の準備）
第9回	演習⑥	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認 チェック）
第10回	演習⑦	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認 チェック）
第11回	演習⑧	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認 チェック）
第12回	演習⑨	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認 チェック）
第13回	演習⑩	テーマ別に内容実施 期末まとめの作成	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（期末まとめの作成内容チェック）
第14回	演習⑪	期末まとめの作成 【課題】期末まとめの提出	予習30分（期末まとめの確認） 復習60分（提出内容の確認、経過発表の準備）
第15回	期末まとめ	基礎ゼミのまとめ（各自経過発表） ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各研究まとめ状況を発表 意見交換および情報の提示を行う 提出レポートのチェック（後期に向けて）	予習30分（経過発表の準備） 復習60分（発表後の確認、後期に向けての準備）

教科書

特になし

参考書

研究テーマに応じて図書等の検索を行う。

成績評価の方法・基準

単位認定５０点以上。
発表内容７０％、提出物３０％。

課題等に対する
フィードバックの方法

基礎ゼミでは年間通して研究するテーマの骨組みを作る作業を主とする。
中間報告として各自の内容をテーマ別に発表検討し、後期の専門ゼミにて実践～まとめの冊子化を目指す。

履修のポイント
食についての意識を広く持って、積極的に学習してほしい。年間通しての研究結果をまとめるので、日頃からの情報収集や記録（パソコン技能）の技術を身につけること。
オフィス・アワー
月曜日、１２：３０～１３：２０、９号３階第９研究室。

講義コード	30620002
講義名	基礎ゼミ（橋本）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R354
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士を目指す人は食に関して必要な知識について興味を持って欲しい。そのために本授業では、食生活・食文化の内容に趣を置きそれぞれの興味のある分野について研究する。また、基礎ゼミでの研究を通して、栄養士として必要な知識、技能、態度、心構えなどを学ぶために行うことを目標にし、社会における食品・栄養の実際を観察し、また体験し、さらに経験や体験を積むことにより、栄養士の必要性についての理解を深め、これからの栄養士業務に生かしていけるような内容のゼミとし、社会で活躍できる学生の育成が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活を身近な問題としてとらえて幅広い観点から食に関する情報に興味を持ってもらえるような内容について学習・研究することにより、栄養士としてのスキルを身につけることをめざす。

到達目標

これから必要とされる栄養士になるためには、どのような内容を知らなければならないのかを判断できるようなることが到達目標である。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、概要の説明、計画	復習に60分
第2回	研究テーマの決定	内容、工程の連絡、次回の準備	次回の準備として資料集めに各90以上の予習・復習が必要である。
第3回	演習①	テーマ別に実施 資料の収集等 テーマについては、個人共同は学生に選ばせる	資料等の収集に 各90分以上の予習・復習が必要である。
第4回	演習②	テーマ別に実施 資料の収集等 個別指導の実施	資料等の収集に 各90分以上の予習・復習が必要である。

第5回	演習③	テーマ別に実施 資料の収集等 個別指導の実施	資料等の収集に 各90分以上の予習・復習が必要である。
第6回	演習④	テーマ別に実施 資料の収集等 個別指導の実施	資料等の収集に 各90分以上の予習・復習が必要である。
第7回	中間発表	各内容別に発表、内容検討 審査 アクティブラーニング：それぞれの内容について、意見交換をし、次回の発表の参考にする	発表準備に各90分以上の予習・復習が必要である。
第8回	演習⑤	発表後 テーマの検討 まとめ準備 アクティブラーニング：情報交換を実施する。	資料つくりのために各120分以上の予習・復習が必要である。
第9回	演習⑥	テーマ別に実施 まとめ準備	さらに資料の準備と作製のために各120分以上の予習・復習が必要である。
第10回	演習⑦	テーマ別に実施 まとめ準備	資料つくりに各60分以上の予習・復習が必要である。
第11回	演習⑧	テーマ別に実施 まとめ準備。	資料つくりに各60分以上の予習・復習が必要である。
第12回	演習⑨	テーマ別に実施。	資料つくりに各60分以上の予習・復習が必要である。
第13回	演習⑩	テーマ別に実施、製作準備。	製作準備に各60分以上の予習・復習が必要である。
第14回	演習⑪	実技（製作）。	必要なものの購入 方法論の準備のために120分以上の予習・復習が必要である。
第15回	まとめ	基礎ゼミのまとめ レポートにする。	まとめに180分以上予習が必要である。

教科書
必要に応じて資料配布
参考書
テーマに応じて紹介する
成績評価の方法・基準
単位認定 50点以上 発表内容70％、提出原稿30％
課題等に対する フィードバックの方法
ゼミの内容の資料収集作成、学園祭研究発表
履修のポイント
積極的な学習方法を望む、食品について感心を持ってもぞむこと
オフィス・アワー
月曜日12：30〜13：20（昼休み）授業終了後、随時 9号館3階第七研究室

講義コード	30620003
講義名	基礎ゼミ（中島）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R354
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

環境をいう視点から食教育について考え、文献等の資料から 発表 → ディスカッション という流れの中でゼミを進めていく。さらにエコクッキングについても実習を含め学習する。環境という視点から食生活について学習する。また、群馬県、特にみどり市及び桐生市の地場産物を用いたエコクッキングを通じて、環境について学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「調理」「調理科学」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・環境という視点から日本の環境問題及び食生活について理解する。
・エコクッキングを通じて、環境について学習する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業概要について 【アクティブラーニングの内容】 履修者にエコクッキングについて意見交換をさせ、環境問題について理解するきっかけを作る。また私たちの食生活とと環境について解説して理解を深め、再度エコクッキングについて意見交換する。	予習30分：環境に関する新記事の収集。復習30分：配布資料を見直す。
第2回	食と環境についてI	私たちの食生活と環境のかかわりについて（文献等を読む）	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

第3回	食と環境についてⅠ	私たちの食生活と環境のかかわりについて（文献等を読む）	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第4回	食と環境についてⅡ	企業の環境の取り組みについて調べる（文献等をまとめる）	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第5回	食と環境についてⅡ	企業の環境の取り組みについて調べる（文献等をまとめる）	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第6回	食と環境についてⅢ	自治体の環境の取り組みについて調べる(文献等をまとめる)	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第7回	食と環境についてⅢ	自治体の環境の取り組みについて調べる(文献等をまとめる)	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第8回	食と環境についてⅣ	食と環境についてⅠ・Ⅱ・Ⅲの内容をパワーポイントを用いてまとめ、プレゼンテーション資料作成	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第9回	食と環境についてⅣ	食と環境についてⅠ・Ⅱ・Ⅲの内容をパワーポイントを用いてまとめ、プレゼンテーション資料作成	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第10回	食と環境についてⅣ	食と環境についてⅠ・Ⅱ・Ⅲの内容をパワーポイントを用いてまとめ、プレゼンテーション資料作成	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第11回	食と環境についてⅣ	食と環境についてⅠ・Ⅱ・Ⅲの内容をパワーポイントを用いてまとめ、プレゼンテーション資料作成	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第12回	食と環境についてⅣ	発表	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第13回	食と環境について	エコクッキング(実習)②	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配

	V		布資料を見直す。
第14回	食と環境についてV	エコクッキング(実習)② 【アクティブラーニングの内容】 履修者にエコクッキングを実施しての意見交換をさせ、理解を深める。さらに実施したエコクッキングについて解説して理解を深め、再度改善点等を加えて意見交換する。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第15回	まとめ	食と環境について第１回から第14回までの内容をまとめる	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

教科書
教科書は使用せず、プリントを配布する予定
参考書
環境がわかる絵本
成績評価の方法・基準
単位認定：50点以上 レポート80% プレゼンテーション（発表）20%
課題等に対する フィードバックの方法
授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。
履修のポイント
食と環境の視点を持ち、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。
オフィス・アワー
木曜日、12：30～13：20(昼休み)、９号館３階第９研究室 ※講義授業前後にも、適宜受けます。

講義コード	30620004
講義名	基礎ゼミ（市原）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R354
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 市原 幸文	指定なし

授業の概要と教育目標

今後の高齢化社会では認知症や脳血管障害による嚥下障害は避けられない課題の一つである。高齢者の栄養管理をする上で介護食は極めて有用な役割を果たすと考えられる。まず 高齢者の特徴、摂食・嚥下のメカニズムを理解して高齢者の食事と嚥下障害への対応、人間らしく口からおいしく食べることのできる「安全でおいしい介護食」とは？ 介護食づくりの基本テクニックを習得して、症状別、介護食メニューの立案を行う。学内及び学外での発表（学園祭・コンテスト等への応募）も検討している。発表・ディスカッションの流れの中でゼミを進め、各回まとめを行う

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得する。
生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、更に生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解していく。

到達目標

施設の栄養士として高齢者を人間らしく支えるで介護食は欠くことのできない食事であることを認識し、栄養実践活動に対応できるように症状別 介護食メニューを立案・調理・把握する。介護食メニューの理論と技術を習得

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	高齢者の栄養管理	１．高齢者の特徴 ２．栄養アセスメント ３．栄養基準量 ４．栄養療法 【アクティブラーニングの内容】 フィジカルな栄養アセスメントの手法を実習する。	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

第2回	高齢者の栄養管理	1．嚥下障害者への対応 【アクティブラーニングの内容】 動画により、理解を深める。	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第3回	高齢化と摂食・嚥下障害	1．高齢者の栄養状態に影響する要因 2．高齢化に伴う摂食・嚥下機能の低下 【アクティブラーニングの内容】 動画により、理解を深める。	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第4回	摂食・嚥下のメカニズム	1．摂食・嚥下のメカニズム 2．嚥下障害とは 3．嚥下機能の評価 4．嚥下障害の治療 【アクティブラーニングの内容】 動画により、理解を深める。	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	高齢者の食事と嚥下障害への対応	1．高齢者の食事と介助 2．摂食と嚥下 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッションおよび動画により具体的な方法を学修す る。	402教室(VHS)・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	高齢者の食事と嚥下障害への対応	1．ミキサー食（主食） 2．ミキサー食（副菜） 3．間食 4．水分補給 【アクティブラーニングの内容】 とろみの実習により、体験的に把握する。	402教室(VHS)・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	介護食とは何か？	1．口から食べる意義 2．嚥下食と介護食 3．嚥下食のピラミット 4．介護食の条件 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッションおよび動画・実習により具体的な方法を学 修する。	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	安全でおいしい介護食とは？	1．介護食の形態とテクスチャー 2．介護食づくりのポイン 3．高齢者ソフト食について 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッションおよび動画・実習により具体的な方法を 学修する。	402教室(VHS)・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	介護食をつくるための基本テクニック	1．食材の特徴を知る 2．調理の工夫 3．調理器具の活用 4．食事は楽しく ディスカッション	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

第10回	高齢者の栄養バランス バランスの良い食事とは？	1．基礎食品からバランスよく・食品の組み合わせとは 2．毎日の食事づくりのポイント ディスカッション 3．疾病をもつ高齢者の注意点、栄養補助食品と利用法	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第11回	介護食レシピの立案（1）咀嚼しやすい人のメニュー	1．食べやすい素材の選択 2．調理テクニック・ポイント 【アクティブラーニングの内容】 メニューの立案、発注表･実習作業工程表作成 ディスカッション	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	介護食レシピの立案（2）嚥下しやすい人のメニュー	1．嚥下をスムーズに 2．下ごしらえを工夫 3．調理テクニック・ポイント 【アクティブラーニングの内容】 メニューの立案、発注表・実習作業工程表作成 ディスカッション	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	介護食レシピの立案（3）むせやすい人のメニュー	1．むせや誤嚥を防ぐ 2．調理テクニック・ポイント 【アクティブラーニングの内容】 メニューの立案、 発注表・実習作業工程表作成 ディスカッション	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	介護食レシピの調理と評価（1）（2）（3）	【アクティブラーニングの内容】 立案した介護食レシピの調理と評価、記録 各個人の発表	調理室・演習室 ※ 第14回・第15回は同日連続(実習) 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第15回	介護食の検討	介護食の栄養学的検討	調理室・演習室 ※ 第14回・第15回は同日連続(実習) 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

教科書

介護食ハンドブック（手島登志子編）・ かむ、のみこむが困難な人の食事（女子栄養大学出版部）
上記書籍は図書館より借用して使用する。
在宅高齢者食事ケアガイド・在宅訪問栄養ハンドブック（在宅チーム医療栄養管理研究会編）

参考書

食品成分表、栄養食事療法の実習（本田佳子編）、他

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上 口頭発表(50%)、第１５回終了後、献立表、記録などまとめて提出(50%)、評価する

課題等に対する

フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの出来る資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
高齢者の栄養管理 （高齢者の食事と嚥下障害への対応・介護食の栄養学的意義）について 介護食メニューを立案・調理・把握する 介護食メニューの理論と技術を習得 学内及び学外での発表も検討
オフィス・アワー
月曜日の5限 月曜日、火曜日の昼休み （場所：９号館 市原研究室）

講義コード	30620005
講義名	基礎ゼミ（中村）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R354
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中村 裕子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士と「食育」
現代の食をめぐる状況と問題点を把握し、さまざまな年代に対する食育（生涯食育）をどのような教材を使用し、実践したらいよいか学習する。なお、栄養士の社会との関わりを研究し、食に対する視野と栄養士の活動の幅を広くとらえることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーに関連して人間の体・食品・栄養に関する学修を総合的に理解し「健康・栄養」に係る現場で実践的に活用できることを目指すとあるので、栄養士のさまざまな食に対する社会活動を認識し、経験の大切さを知ること、自己の得た知識や技術を活かし、食生活の在り方、重要性を指導できることを目指すものとする。

到達目標

・食に対する情報の収集を励行し知識の蓄積ができること。
・ライフステージごとの食育（生涯食育）の必要性について理解を深め、指導力を高められること。
・食育媒体が製作でき活用できること。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス	栄養士の職業意識について 基礎ゼミの計画	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：授業の復習 ゼミノートの整理 資料の収集
第2回	研究テーマについて	食育に関する個人研究テーマの検討（アクティブラーニングの内容）…グループ討議	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：授業の復習 ゼ

		食育に対しての意見交換 必要に応じてアドバイスを行う。	ミノートの整理
第3回	研究 1	個人研究 テーマの選択・資料の収集 （アクティブラーニングの内容） 持ち寄った資料を検討・意見交換しそれぞれ個人研究の参考とする。	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：個人研究のまとめ ゼミノートの整理
第4回	研究 2	個人研究 資料の収集・内容検討	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：個人研究のまとめ ゼミノートの整理
第5回	研究 3	個人研究 資料の収集・内容検討	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：個人研究のまとめ ゼミノートの整理
第6回	研究 4	個人研究 資料の収集・内容検討	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：個人研究のまとめ ゼミノートの整理
第7回	研究 5	研究のまとめ （アクティブラーニングの内容） 個人研究の発表会に向けてグループ内で意見交換を行い、各々の参考とする。	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：個人研究のまとめ ゼミノートの整理
第8回	研究 6	研究発表会 講評	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：発表会のまとめ ゼミノートの整理
第9回	食育媒体（教材）製作 1	教材の作成（グループ） （アクティブラーニングの内容）…グループワーク 媒体（教材）の研究、資料の検討 意見交換	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：授業の復習 ゼミノートの整理
第10回	食育媒体（教材）製作 2	教材の作成（グループ） （アクティブラーニングの内容）…グループワーク 媒体（教材）の製作 意見交換	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：授業の復習 ゼミノートの整理
第11回	食育と調理（計画）	食育テーマに沿った献立計画 食材の選択・調理方法検討 （アクティブラーニングの内容） 実習についての意見交換・検討を行う。献立作成	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：授業の復習 ゼミノートの整理
第12回	食育と調理（実習）	食育意義を持った献立を調理実習	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：授業の復習 ゼミノートの整理
第13回	ライフステージと食育	生涯食育の意義	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：授業の復習 ゼミノートの整理
第14回	栄養士の社	栄養士と社会との関わり	予習30分：配付資料を読んでおく。

	会活動	活動の実際	復習30分：授業の復習 ゼミノートの整理
第15回	基礎ゼミのまとめ	様々な食情報の収集と選択 活用と提供の方法 専門ゼミに向けての計画	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：授業の復習 ゼミノートの整理

教科書

必要に応じて資料を配付する。

参考書

必要に応じて資料を配付する。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上 個人研究レポート ５０％ グループ研究取り組み課題 ５０％

**課題等に対する
フィードバックの方法**

各々のゼミノートの講評と課題の解説を行うので、研究や調査に役立てること。

履修のポイント

・積極的な取り組みを期待する。
・食への関心、研究力が旺盛であること。

オフィス・アワー

授業終了後受け付ける。
月曜日・火曜日・木曜日(12:30～13:20) ９号館３階・第８研究室にて受け付ける。

講義コード	30620006
講義名	基礎ゼミ（橋爪）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R354
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

季節ごとの野菜や果物を使い、昔ながらの保存食や乾物づくりを行う。春から夏にかけて梅、ラッキョウ、ビワ、夏野菜などを使い保存食を作る。同時に、簡単な野菜栽培にもチャレンジする。四季折々の食材を実際に手にしたり、調理したり、ときには栽培してみたりして「旬」の味を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

季節ごとに収穫できたり、収穫されたりする食材を知り、自分で調べた活用方法等をゼミノートにまとめて提出する。生活科学科のディプロマポリシーとの関連について、「食品」「栄養」に関する基礎的な知識を習得し、「健康」「栄養」「食」に関係する現場で実践的に活用し、問題解決できる能力を養う。

到達目標

春から夏にかけて旬を迎えるさまざまな食材を知り、その活用法を実践的に身につける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	イントロダクション	植物や花を育てる際の基本的な手順を学ぶ。終了後、学習内容と作業内容を、レポートにまとめて提出する（以下同じ）。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第2回	春野菜①	春夏野菜のひとつインゲンやチャイルドリーフの栽培方法、調理方法をしらべ、まとめる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第3回	春野	キュウリ、ナス、バジルなど夏野菜の育て方、調理活用方法を調べ、まとめ	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミ

	菜②	る。	をふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第4回	春野菜③	夏野菜の代表格であるトマト、ピーマンの育て方、多様な調理方法を調べてまとめる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第5回	夏野菜栽培の管理方法	トマト、キュウリ等のつる植物について支柱への誘引、摘心などの栽培方法を知る。この時期に旬を迎えるソラマメについて収穫方法、調理方法を学ぶ	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第6回	保存食①	タケノコを活用した炒め物や保存食づくりを学ぶ。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第7回	保存食②	小梅の塩漬け、そして「梅ジャム」など梅を活用した保存食づくりの方法を学ぶ。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第8回	保存食③	甘酢漬けラッキョウ、新ショウガの甘酢漬けなど香味野菜を使った保存食づくりを学ぶ。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第9回	保存食④	ニンニクや玉ねぎなど、この時期に収穫期を迎えるユリ科植物の活用事例を学ぶ。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第10回	野菜の調理方法①	キュウリのピクルスまど、キュウリを使った保存食にはどのようなものがあるかを調べる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第11回	保存食⑤	６月から７月に収穫されるサンショウの実の活用方法を学ぶ。ちりめんサンショウなど、サンショウの実を使ったピリリとしたさわやかなお惣菜の作り方を調べる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第12回	保存食⑥	夏野菜をふんだんに使った保存食を知る。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第13回	野菜の調理方法②	バジルの活用事例を学ぶ。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
			予習として事前配布したプリントか

第14回	野菜の調理方法③	トマトの栽培方法を振り返り、トマトソースなど保存食づくりの方法を学ぶ。	ら大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第15回	まとめ	前期に触れた野菜や果物について振り返り、調理方法を一覧表にまとめる。全員で前期の作業内容を振り返る。秋以降に収穫される野菜にはどのようなものがあるか調査する。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。

教科書

ゼミの授業のなかで適宜、プリントを配布する。

参考書

『家仕事ごよみ』（地球丸、２０１２年）

成績評価の方法・基準

単位認定 50 点以上 授業レポート（50%）、授業への取り組み（50%）をもとに評価する。

**課題等に対する
フィードバックの方法**

さまざまな食材について、新聞等で授業に関係する記事を探し読んでおく。適宜、ゼミノートに追記していくことを勧める。

履修のポイント

休まず出席すること。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。９号館３階の第１０研究室に来ること。

講義コード	30620007
講義名	基礎ゼミ（野口）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R354
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

私の専門は歴史学、教育学、すなわち社会文化論である。その立場から、本講義では食文化について考えていきたい。まず私から世界の食文化について、中国、台湾、シンガポール、韓国、モンゴル、イギリス、イタリアについて発信し、次に皆さんがその発信に応えるべく、調査・報告・意見交換を行なう形をとりながら進めていく。
その目標とするところは、食文化に関する情報をもち、栄養士としてのスケールを広げることにある。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食文化という私たちの身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解すること、衣食住に関する基本的な事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について理解を深める。

到達目標

食文化の多様性を理解し、栄養士としての必要な知識、技能、態度、心構えなどに加えて、一歩でもそのスケールを広げることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業の位置づけ、進め方について説明する。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 食文化のエッセイについて調べておく。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第2回	中国の食文化	北京料理について学ぶ。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。

	①	書き、報告し、意見交換をする。	復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第3回	中国の食文化②	上海料理について学ぶ。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第4回	中国の食文化③	広東料理について学ぶ。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第5回	中国の食文化④	四川料理について学ぶ。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第6回	台湾の食文化①	大陸との関係から考える。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第7回	台湾の食文化②	お茶に特化して考える。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第8回	シンガポールの食文化	その多様性について考える。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第9回	韓国の食文化	焼き肉の魅力について考える。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
		その特色について考える。	予習：60分 当該テーマについ

第10回	モンゴルの食文化①	【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	て図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第11回	モンゴルの食文化②	乳製品に特化して考える。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第12回	イギリスの食文化①	「イギリスの食事は美味しくない」について考える。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第13回	イギリスの食文化②	パブの意味について考える。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第14回	イタリアの食文化①	新大陸との関係から考える。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第15回	イタリアの食文化②	ワイン、パスタについて考える。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。

教科書

特に使用しない。主題に応じたプリントを配布する。

参考書

テーマに応じて、適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上（発表内容：7割、授業への取組み姿勢：3割）

課題等に対するフィードバックの方法

原則として授業内で行なう。

履修のポイント

取り組むテーマについて楽しむ姿勢が大切です。

オフィス・アワー
火曜日、12：30〜13：20、野口研究室

講義コード	30620008
講義名	基礎ゼミ（田中）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R354
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 景子	指定なし

授業の概要と教育目標

近年の健康志向の高まりや2013年ユネスコ無形文化遺産の「和食」の登録等を背景に、海外での和食ブームがある。しかしその裏で日本人の、特に若者の和食離れが深刻化している。基礎ゼミでは「日本食を見直そう！」をテーマに、短期大学部のある群馬県みどり市と自分の出身地の名物食材や名産品、市町村の取組み等について調べまとめる。またそれを用いたレシピの考案をし、試作に向けて準備を進める。検討の後、試作、ディスカッション、発表会を行う。群馬県みどり市と自分の出身地について興味を持ち、柔軟な発想で栄養・食の面からのアプローチを探ることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境として科学的に理解する為に、食だけでなく地域社会の取組み等を含めて調査する。新しい発見や再発見など、広く知識を深めることを目標とする。

到達目標

・各自研究テーマを決め、実施に向けた目標と計画を立てることができるようになる。
・各個人研究計画書に従って進めることができるようになる。
・コミュニケーションを図り、積極的な姿勢で取り組む。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ガイダンス 研究テーマについて	研究テーマを挙げ、基礎ゼミの計画を立てる 【アクティブラーニング：基礎ゼミの大きな研究テーマについて意見を出し合い、決定する】	予習30分：基礎ゼミにおいて興味のある事柄、やってみたいテーマについて考えておく。復習30分：決定した大きなテーマに沿った個人研究テーマを考える。
	個人研	個人研究テーマを決定し、大まかな内容を検討する	予習30分：決定した大きなテーマに

第2回	究テーマの決定	【アクティブラーニング：基礎ゼミの大きな研究テーマに基づき、個人テーマについて意見交換をし決定する】	沿った個人研究テーマを考え候補を挙げる。復習30分：決定した個人研究テーマに関する情報を収集する。
第3回	研究計画①	個人研究テーマに沿った研究計画書の作成①	予習30分：個人研究テーマに関する情報を収集する。復習30分：研究計画書の内容を精査する。
第4回	研究計画②	個人研究テーマに沿った研究計画書の作成②	予習30分：個人研究テーマに関する情報を収集する。復習30分：研究計画書の内容を精査する。
第5回	研究①	個人研究テーマの情報収集① みどり市について（人口、観光、歴史等）、名物食品や名産品	予習30分：研究計画書の内容を確認し、必要事項を挙げる。復習30分：情報収集した内容をまとめる。
第6回	研究②	個人研究テーマの情報収集②・レシピの考案 みどり市の取組み（農業、地産地消、レシピ紹介等）	予習30分：情報収集した内容のまとめを見て、足りない部分を確認する。復習30分：情報収集した内容をまとめる。
第7回	研究③	個人研究テーマの情報収集③ 出身県、出身市について（人口、観光、歴史等）、名物食品や名産品	予習30分：情報収集した内容のまとめを見て、足りない部分を確認する。復習30分：情報収集した内容をまとめる。
第8回	研究④	個人研究テーマの情報収集④・レシピの考案 出身市の取組み（農業、地産地消、レシピ紹介等）	予習30分：レシピの考案に必要な本や情報などを探す。復習30分：情報収集した内容をまとめる。
第9回	研究⑤	個人研究テーマの情報収集⑤ 考案したレシピに使用した食材の効能について	予習30分：レシピの考案に必要な本や情報などを探す。復習30分：ここまでの情報収集した内容、レシピの考案についてまとめ決定する。
第10回	考案レシピ試作に向けての演習	試作に関する資料準備	予習30分：試作するために必要な資料の確認をする。復習30分：試作に向けて準備を進める。
第11回	考案レシピ試作（実習）	調理実習を行い、検討を行う 【アクティブラーニング：各自考案したレシピを試作し、見た目、味、量などを検討する。より良くするための改善策について、意見を出し合い考える】	予習30分：試作の作業工程を確認し、準備を進める。復習30分：試作後、意見交換した内容をまとめておく。
第12回	発表資料作成①	発表に向けて資料の作成①（パワーポイント使用）	予習30分：試作の内容のまとめを確認しておく。復習30分：作成した資料の内容を精査する。
第13回	発表資料作成②	発表に向けて資料の作成②（パワーポイント使用） プリントとデータを提出する	予習30分：前回作成した資料を確認をする。復習30分：作成した資料の内容を精査し、発表会の準備を進める。
第14回	発表会	プレゼンテーション形式での発表を行う 【アクティブラーニング：パワーポイントを使用し、発表後は意見交換をする】	予習30分：発表の練習をする。復習30分：発表会後に意見交換した内容をまとめておく。
		発表会を終えて、基礎ゼミのまとめ	

第15回	基礎ゼミのまとめ	を行う 専門ゼミに向けての準備 【アクティブラーニング：前期の内容について理解を深め、専門ゼミに向けた今後の取組みについてディスカッションをする】	予習30分：発表会後のまとめを確認しておく。復習30分：基礎ゼミの内容を振り返り、専門ゼミに向けた準備を進める。

教科書
必要に応じてプリントを配布する。
参考書
たのしい調理、レシピが掲載されている本
成績評価の方法・基準
単位認定50%以上 個人研究レポート 50%、課題への取組み・授業へ参加度・発表会 50%
課題等に対する フィードバックの方法
個人研究の進捗状況について随時確認する。 発表会に向けて修正すべき点等を伝えますので、参考にすること。
履修のポイント
食に関すること、地域に関する内容について興味を持ち、日頃から情報をチェックする。 コミュニケーションを図り、積極的な姿勢で取り組む。
オフィス・アワー
月曜日・水曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3Ｆ第8研究室 ※ゼミ前後にも、適宜受け付けます

講義コード	30630001
講義名	専門ゼミ（井桁）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R374
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士の専門知識を深めるためには、食品・栄養に関する事柄に対して多角的に取り組む意識をもってもらいたいと考える。履修授業で習得する内容をふまえた知識や技術の他に、卒後社会に関わる栄養士として必要になる心構え等を理解し、これからの栄養士業務に生かしていける学習内容にしたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品・栄養に関する情報に興味を持ちその内容について幅広く研究学習を行うことで、食品・栄養に関して基本的な事柄とそれら相互作用について理解する。
健康・栄養に係わる卒後の現場での実践的な活用と、問題解決能力を修得する。

到達目標

身近な問題から多角的なテーマまで幅広く研究し、栄養士として実践を重視したあらゆる現場の分野で活動できる人材像を目指す。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	専門ゼミの概要説明、計画の立て方 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：研究発表（大学祭）の希望計画・構成の意見情報交換を行う	予習30分（基礎ゼミの実施内容確認） 復習60分（次回演習の準備）
第2回	演習①	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第3回	演習②	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第4回	演習③	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）

第5回	演習④	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第6回	演習⑤	テーマ別に内容実施、資料の検索 【課題】中間報告のレポート提出	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック、課題レポートの準備）
第7回	中間発表	経過報告の発表（検討会） ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各研究の進捗状況を発表 意見交換および情報の提示を行う	予習30分（中間発表の準備） 復習60分（発表後の内容検討、まとめに向けた準備計画）
第8回	演習⑥	検討会後の内容確認 期末まとめに向けた準備	予習30分（検討内容の確認） 復習60分（次回演習の準備）
第9回	演習⑦	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第10回	演習⑧	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第11回	演習⑨	テーマ別に内容実施、資料の検索	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第12回	演習⑩	テーマ別に内容実施、資料の検索 まとめ冊子の作成	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第13回	演習⑪	テーマ別に内容実施、資料の検索 まとめ冊子の作成	予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第14回	演習⑫	【課題】まとめ冊子の作成・提出 発表会の準備	予習30分（提出冊子の確認） 復習60分（発表会の準備）
第15回	期末まとめ	報告会 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各研究の報告発表 質疑応答および意見交換を行う 専門ゼミのまとめ	予習30分（発表内容の確認） 復習60分（年間通してのゼミ研究結果記録を整理まとめ）

教科書

特になし

参考書

研究テーマに応じて図書等の検索を行う。

成績評価の方法・基準

単位認定５０点以上。
発表内容７０％、提出物３０％。

課題等に対する
フィードバックの方法

基礎ゼミで決めた研究テーマの骨組みを基に、専門ゼミでは実践（大学祭での発表）を目指す。また最終報告として各自の内容をテーマ別に発表し講評をコメントする。実施後は研究学習の総まとめの冊子化を目指す。

履修のポイント

食についての意識を広く持って、積極的に学習してほしい。年間通しての研究結果をまとめるので、日頃からの情報収集や記録（パソコン技能）の技術を身につけること。

オフィス・アワー
月曜日、１２：３０～１３：２０、９号３階第９研究室。

講義コード	30630002
講義名	専門ゼミ（橋本）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R374
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎ゼミでは、食に関する事柄（食生活・食文化等）について、研究・体験することにより知識を深め、社会における食品・栄養について経験や体験さらには観察等を実施した。専門ゼミでは、継続を実施し、さらに内容については深める学習を行い、これからの食の専門家として社会で活躍できる学生の育成が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーに関連として、生活を取り巻く環境について科学的に理解できるよ基礎ゼミで研究したことをさらに深めて研究し、栄養士としての知識を身につけて、資格取得をする。

到達目標

これから必要となる栄養士になるためには、どのような内容を知らなければならないのかを考えられるように、常に食情報には関心を持った学習内容とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	概要の説明、計画 基礎ゼミのテーマを引き継ぐ アクティブラーニング：基礎ゼミの内容について振り返り、意見交換をする。	事前準備のために各60分以上
第2回	演習①	テーマ別に実施 資料の収集等 今後の取り組みについて個別指導	事前準備のために各60分以上の予習・復習が必要である。
第3回	演習②	テーマ別に実施 資料の収集等	事前準備のために各60分以上の予習・復習が必要である。
第4回	演習③	テーマ別に実施 資料の収集等	事前準備のために各60分以上の予習・復習が必要である。
		テーマ別に実施 資料の収集等	

第5回	演習④	アクティブラーニング：学園祭に向けてテーマを決めるための意見交換をする。	事前準備のために各60分以上の予習・復習が必要である。
第6回	演習⑤	各内容別に発表、内容検討 審査 学園祭で発表するものの準備（共同作業）	学園祭に向けて共同準備に 各120分以上の予習・復習が必要である。
第7回	中間報告	発表：学園祭に発表するものについて情報共有する	学園祭に向けて共同準備に 各120分以上の予習・復習が必要である。
第8回	演習⑥	発表後 テーマの検討 まとめ準備	学園祭に向けて共同準備に 各120分以上の予習・復習が必要である。 反省会の準備のために各120分以上の予習・復習が必要である。
第9回	演習⑦	テーマ別に実施 まとめ準備	まとめに向けて準備に各120分以上の予習・復習が必要である。
第10回	演習⑧	テーマ別に実施 まとめ準備	まとめに向けて準備に各120分以上の予習・復習が必要である。
第11回	演習⑨	テーマ別に実施 まとめ準備	まとめに向けて準備に各120分以上の予習・復習が必要である。
第12回	演習⑩	テーマ別に実施 まとめ準備	まとめに向けて準備に各120分以上の予習・復習が必要である。
第13回	演習⑪	まとめ	事前準備各90分以上の予習・復習が必要である。
第14回	演習⑫	冊子にまとめる	広告会の準備に各90分以上の予習・復習が必要である。
第15回	まとめ	報告会	事前準備各120分以上の予習が必要である。

教科書

各テーマ別に使用する

参考書

テーマ別に準備する

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 発表内容40%、提出原稿60%

課題等に対する
フィードバックの方法

ゼミの内容の資料収集作成、学園祭発表

履修のポイント

積極的な学習方法を望む、食品について感心を持ってのぞむこと、まとめをしっかりすること

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または授業終了後、随時 9号館3階第七研究室

講義コード	30630003
講義名	専門ゼミ（中島）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R374
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

子どもの心身の成長について、日本の食生活と脳の発達について咀嚼にスポットをあてて考える。さらに和食と咀嚼における和食の特長についても発展させ、文献等の資料から、発表 → ディスカッション という流れの中で理解を深め、ゼミを進めていく。またテーマを設定して実習（噛む噛むクッキング)を行う。また最終的に基礎ゼミの内容も含めて食育についてまとめる。日本の食生活と脳の発達について咀嚼にスポットをあて、子どもの食について学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「咀嚼」「調理」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・脳の発達において、食べること（咀嚼）の重要性を理解する。
・元気な脳を作る料理を考案する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業概要及び咀嚼について・食脳学とは 【アクティブラーニングの内容】 履修者に咀嚼の効果について意見交換をさせ、咀嚼について理解するきっかけを作る。また咀嚼と脳の発達について解説して理解を深め、再度咀嚼について意見交換する。	予習30分：咀嚼に関する新聞記事を収集する。復習30分：配布資料を見直す。
第2回	咀嚼について	咀嚼と食脳学について・実習	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
			予習30分：配布した文

第3回	咀嚼について	咀嚼と食事について・実習	献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第4回	食脳学についてⅠ	食脳学とは・演習	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第5回	食脳学についてⅡ	私たちの食生活と咀嚼のかかわりについて（文献等を読む）	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第6回	食脳学についてⅡ	私たちの食生活と咀嚼のかかわりについて（文献等を読む）	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第7回	元気な脳を作る食事	元気な脳を作る食事の献立作成	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第8回	元気な脳を作る食事	元気な脳を作る食事の献立作成	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第9回	食脳学についてⅢ	食脳学についてⅠ・Ⅱ、元気な脳を作る食事の献立作成をパワーポイントを用いてまとめ、プレゼンテーション資料作成。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第10回	食脳学についてⅢ	食脳学についてⅠ・Ⅱ、元気な脳を作る食事の献立作成をパワーポイントを用いてまとめ、プレゼンテーション資料作成。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第11回	食脳学についてⅢ	食脳学についてⅠ・Ⅱ、元気な脳を作る食事の献立作成をパワーポイントを用いてまとめ、プレゼンテーション資料作成。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第12回	食脳学についてⅢ	食脳学についてⅠ・Ⅱ、元気な脳を作る食事の献立作成をパワーポイントを用いてまとめ、プレゼンテーション資料作成。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第13回	食脳学についてⅣ	実習(噛む噛むクッキング)	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第14回	食脳学についてⅣ	実習(噛む噛むクッキング) 【アクティブラーニングの内容】 履修者に噛む噛むを実施しての意見交換をさせ、理解を深める。さらに実施した噛む噛むについて解説して理解を深め、再度改善点等を加えて意見交換する。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
	まと	食脳学について、第１回から第14回までの内容を	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復

第15回	め	まとめる。	習30分：配布資料を見直す。

教科書
教科書は使用せず、プリントを配布する予定
参考書
脳を豊かにする「食脳学」
成績評価の方法・基準
単位認定：50点以上 レポート80% プレゼンテーション（発表）20%
課題等に対する フィードバックの方法
授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。
履修のポイント
食と健康の視点を持ち、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。
オフィス・アワー
木曜日、12：30～13：20(昼休み)、９号館３階第９研究室 ※講義授業前後にも、適宜受けます。

講義コード	30630004
講義名	専門ゼミ（市原）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R374
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 市原 幸文	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎ゼミでは摂食・嚥下のメカニズムを理解、「安全でおいしい介護食」づくりの基本テクニックの習得を目標としている。専門ゼミでは高齢者における食生活障害という視点から症状別、介護食メニューを立案・調理して、介護食メニューの内容、量を把握、テクスチャーを検討し評価する。具現化することを目標としている。食べやすい調理の工夫により介護食の栄養学的意義について検討を加える。又在宅でのケアでは誰にでもできる介護食が必要とされているので、市販の介護食のテクスチャーと比較を行い発表・ディスカッションの流れの中でゼミを進める。嚥下障害に対応する食事は栄養・嗜好面だけでなく食形態と嚥下評価面からの検討が重要であることを理解する。学内及び学外での発表（学園祭、コンテスト等への応募）も検討している。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得する。
生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、更に生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解していく。

到達目標

施設の栄養士として高齢者を人間らしく支えるために介護食は欠くことのできない食事であることを認識し、栄養実践活動に対応できるように症状別介護食メニューを立案・調理する。 介護食メニューの内容や量を把握し、テクスチャーを検討し評価する。介護食メニューの技術を習得。又栄養士の観点から在宅ケアでの方法を理解する

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	介護食・ソフト食づくり 基本テクニック	食材の選択・油脂・つなぎ・調理の工夫、野菜は食べやすく 栄養バランス（食品の組合わせ）、調理器具の活用	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

第2回	高齢者ソフト食 食事を楽しむ献立作り	ソフト食を作るポイント、素材選び、切り方の工夫（副菜） ご飯の工夫（主食）、ディスカッション 【アクティブラーニングの内容】 動画による学習と確認、およびディスカッション	402教室・（ＤＶＤ）演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第3回	高齢者ソフト食 食事を楽しむ献立作り	特定給食（主食）、全粥～重湯、増粘剤・ゲル化剤 主食の展開 【アクティブラーニングの内容】 動画による学習と確認、およびディスカッション	402教室・（ＤＶＤ）演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第4回	高齢者ソフト食 食事を楽しむ献立作り	特定給食（副食）、調理のポイント、味付けのポイント 作業効率を良くするために 【アクティブラーニングの内容】 動画による学習と確認、およびディスカッション	402教室・（ＤＶＤ）演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	高齢者ソフト食 介護食の基準	介護食の基準(障害に適した食事のポイントと調理)Ｌ0～Ｌ5 嚥下食ピラミットについて 【アクティブラーニングの内容】 動画による学習と確認、およびディスカッション	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	高齢者ソフト食 嚥下しやすくするテクニック	介護食調整用食品の使い方、とろみ材料の種類、素材選び 介護食の食材のアレンジ（野菜・魚介・肉・果物・その他） 【アクティブラーニングの内容】 動画による学習と確認、およびディスカッション	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	高齢者ソフト食 介護食メニューの立案	【アクティブラーニングの内容】 嚥下食ピラミットの利用 介護食（Ｌ0～Ｌ3）の単品料理の立案 ディスカッション	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	高齢者ソフト食 介護食メニューの立案	【アクティブラーニングの内容】 介護食（Ｌ0～Ｌ3）の単品料理の立案 ディスカッション	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	高齢者ソフト食 介護食メニュー	【アクティブラーニングの内容】 介護食（Ｌ４）の献立立案 ディスカッション	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
			905

第10回	高齢者ソフト食 介護食メニュー	【アクティブラーニングの内容】 介護食（Ｌ４）の献立立案 発注表、実習作業工程表	教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第11回	高齢者ソフト食メニュー	ソフト食メニュー（主食の工夫、副食の工夫） 味付けのポイント、素材選び、切り方の工夫 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッション	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	高齢者ソフト食メニュー立案 （高齢期の食事基準量）	【アクティブラーニングの内容】 高齢期の食事基準量に沿いメニューを立案 ディスカッション	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	高齢者ソフト食メニュー立案	第12回で立案したメニューの検討 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッション・発表、発注表・作業工程表の作成	905教室・演習室 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	高齢者ソフト食 調理の評価	第13回で立案したメニューの調理、量を把握、 テクスチャーの検討・評価 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッション・発表 記録	実習・調理室 ※第14回･15回は､同日連続講義(実習) 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第15回	高齢者ソフト食 まとめ・高齢者の栄養管理	介護食の栄養学的意義、 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッション、発表	実習・調理室 ※第14回･15回は､同日連続講義(実習) 予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

教科書

「介護食ハンドブック」（手島登志子編）、「かみ、のみこみが困難な人の食事」（女子栄養大学出版部）
上記書籍は図書館より借用して使用する。

参考書

「食品成分表」、「栄養食事療法の実習」（本田佳子編）他

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上 口頭発表(50%)、第１５回終了後、献立表、記録などまとめて提出(50%)、評価する

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの出来る資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

介護食・高齢者ソフト食づくりの基本テクニック・介護食の栄養学的意義について
介護食メニューを立案・調理・量を把握・テクスチャーの検討・評価する。介護食メニューの技術を習得

市販の介護食と立案した介護食メニューのテクスチャーの比較をする 在宅ケアでの利用 調理を実習、実食することにより量とテクステャの把握がより現実的になる。学内及び学外での発表も検討（学園祭・コンテスト等への応募）
オフィス・アワー
月曜日5限 月曜日、火曜日の昼休み （場所：９号館 市原研究室）

講義コード	30630005
講義名	専門ゼミ（中村）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R374
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中村 裕子	指定なし

授業の概要と教育目標

＜食育と栄養士の社会活動＞・・・基礎ゼミと関連して
食育実践のスキルアップを図るために、様々な食情報に注目し、関心を持つことが必要である。また、現代社会の食の状況や問題点と食育の関係を理解し、栄養士の業務を拡大し、社会との連携を学び指導力を身に付け、食育対象者の状況に応じた高い適応力を発揮できることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーに関連し、「人間の体・食品・栄養」について理解し、基礎ゼミ同様、ライフステージに合わせた食育の実践ができるスキルを身に付け、食に対する情報の収集と知識の蓄積を励行し、実践に活かせることを目指すものとする。

到達目標

・栄養士としての職業意識を持ち指導する立場を理解できること。
・様々な食指導の対象者に適応できる知識や技術を修得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス	グループ研究とゼミ集作成の計画立案（アクティブラーニングの内容）...グループワーク 今後の取り組みについて。 各々どのような食に対して関心を持っているのか意見交換する。	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
第2回	食育の実際	前回授業でのアクティブラーニングを基に、食育の実践方法や対象に合わせた方法について学ぶ。	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
	食育の実際と	（前回授業と関連し）	予習30分：配付資料を読んでおく。

第3回	栄養士の社会活動	地域との連携について 各種講習会の企画や指導の実際	復習30分：ゼミノートの整理
第4回	グループ研究計画 「食」についての研究	ライフステージを考慮した食育の取り組み （アクティブラーニングの内容）…グループワーク 今後の取り組みについて配付された資料に基づき意見交換する。 グループでの「食」についての研究事項を決定する。	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
第5回	研究 1 選択した「食」の資料収集及び調査	グループ研究内容検討・資料の収集 （アクティブラーニングの内容）…グループワーク 持ち寄った資料を検討し、調査をし、意見交換する	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
第6回	研究 2 選択した「食」の資料収集及び調査	グループ研究内容検討・資料の収集 （アクティブラーニングの内容）…グループワーク 調査、意見交換する。	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
第7回	研究 3 選択した「食」の資料収集及び調査	グループ研究内容検討・資料の収集 （アクティブラーニングの内容）…グループワーク 今後の取り組みについて配付された資料に基づき意見交換する。	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
第8回	研究のまとめ 1 グループ研究の発表会	研究発表会 アクティブラーニングでの成果を発表する。 内容の反省と今後のゼミ活動の計画	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理 グループ研究のまとめ
第9回	研究のまとめ 2	ゼミ集の企画（グループ研究の反映） （アクティブラーニングの内容）…グループワーク グループ研究を反映したゼミ集作成のため意見交換する。	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
第10回	ゼミ集の取り組み 1	ゼミ集の作成の資料検討 各々資料収集と検討	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
第11回	ゼミ集の取り組み 2	ゼミ集の作成 各々資料収集と検討	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
第12回	ゼミ集の取り組み 3	ゼミ集の作成に向け資料整理 （アクティブラーニングの内容）…グループワーク ゼミ集編集のため意見交換する。	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
第13回	ゼミ集の取り組み 4	ゼミ集の修正と仕上げ （アクティブラーニングの内容）…グループワーク ゼミ集編集のため意見交換する。	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
		食育教材としての献立実践	予習30分：配付資料

第14回	食育と調理	料理講習を想定し献立作成 対象・食材の選択・調理方法の検討	を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理
第15回	総括	栄養士の職務と食育 基礎ゼミ・専門ゼミの振り返り 「食育をあらためて考える」	予習30分：配付資料を読んでおく。 復習30分：ゼミノートの整理

教科書

必要に応じて資料を配付する。

参考書

必要に応じて資料を配付する。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上 個人研究レポート５０％ グループ研究取り組み課題５０％

**課題等に対する
フィードバックの方法**

ゼミノートを提出のこと。講評し返却するので、グループ研究やレポートの参考とすること。
課題を課すこともあるが、解説のプリントを配付する。

履修のポイント

・積極的な取り組みを期待する。
・食への関心、研究力が旺盛であること。

オフィス・アワー

授業終了後受け付ける。
月曜日・火曜日・木曜日(12:3013:20) ９号館３階・第８研究室にて受け付ける。

講義コード	30630006
講義名	専門ゼミ（橋爪）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R374
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

前期の基礎ゼミに引き続いて、季節ごとの食材をテーマに、実践を交えて活用方法を学ぶ。また専門ゼミでは各自でテーマを決めて、１０枚のレポートを仕上げて、提出する。後期のゼミでは、秋から冬にかけて収穫時期を迎える野菜や果物を使い、保存食や乾物、漬物づくりを行う。四季折々の食材を手にし、調理し、ときには栽培して「旬」を学び、一年間の自然食材のサイクルを追う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

秋から冬にかけて実りの時期を迎える野菜や果物といった食材の利用方法を知る。どのようなものが実り、いかに加工できるかを知る。それらの食材をじっさいに味わい、一年間にわたる食材の収穫サイクルを知り、卒業後も季節ごとの食材をタイムリーに活用できるようにする。生活科学科のディプロマポリシーとの関連について、「食品」「栄養」に関する基礎的な知識を習得し、「健康」「栄養」「食」に関係する現場で実践的に活用し、問題解決できる能力を養う。

到達目標

専門ゼミでみていく食材について知識を深め、またそれらの活用方法を実践活動を通じて身につける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	秋野菜の種類、加工方法を知る	後期の専門ゼミの予定を確認する。秋野菜にはどのようなものがあるかを調べる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
	秋野	白菜、キャベツの栽培方法、調理方法	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書き

第2回	菜①	について調べる。	とる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第3回	秋野菜②	ブロッコリー、カリフラワーの生育方法、調理方法を調べる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第4回	秋野菜③	大根の種類や、そのさまざまな加工用途を調べ、まとめ発表する。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第5回	秋冬の食材調査①	秋の味覚のひとつ栗の活用方法を知る。栗の甘煮の作り方を学ぶ。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第6回	秋冬の食材調査②	秋から冬にかけての晴天の天日を利用してできる乾物の保存食に適した食材を調べる。干しイモ、干し大根の作り方を知る。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第7回	秋冬の食材調査③	たくあん漬け、ダイコンのゆず漬けなど、漬物の仕込み方法を学ぶ。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第8回	秋冬の食材調査④	キウイのジャム、リンゴのコンポートやジャムなど、秋冬に収穫された果物の活用方法を知る。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第9回	秋冬の食材調査⑤	秋に収穫時期を迎える、ラッカセイを使ったレシピを調べる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第10回	秋冬の食材調査⑥	秋冬に収穫されるサツマイモなど、イモ類を使ったレシピを調べ、まとめる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第11回	秋冬の食材調査⑦	白菜づけ、白菜キムチなど、白菜を使った保存食にはどのようなものがあるかを調べる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第12回	秋冬の食材調査⑧	ショウガを活用した保存食にどのようなものがあるかを調べ、まとめる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。

第13回	秋冬の食材調査⑨	冬野菜の代表格であるホウレンソウの活用事例を学ぶ。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第14回	秋冬の食材調査⑩	多くの野菜を活用した福神漬けの作り方を調べる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第15回	一年間の作業のまとめ・発表	これまでの一年間にわたって学んできた保存食から学んだことを振り返り、一枚の用紙にまとめる。＜アクティブラーニング＞調査したレポートを各自でまとめて発表する。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。

教科書

随時、プリントを配布する。

参考書

『家仕事ごよみ』（地球丸、２０１２年）、『秋・冬の野菜 (旬の食材)』（講談社、２００４年）など。

成績評価の方法・基準

単位認定 50 点以上 ノートやレポート（50%）、授業への取り組み（50%）をもとに評価する。

**課題等に対する
フィードバックの方法**

後期の専門ゼミでは、各自で調査テーマを決めてA4用紙10枚のレポートを作成する。授業時間だけでは足りない場合は、専門ゼミ以外の時間でも、調査レポートの作成にとりくむこと。レポートはこちらでコメントを書き入れ、返却する。

履修のポイント

専門ゼミの最終回に、調査レポート（A4用紙１０枚）を提出すること。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。９号館３階の第１０研究室に来ること。

講義コード	30630007
講義名	専門ゼミ（野口）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R374
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

本授業は、前期の基礎ゼミを発展させるべく、その内容を深めることにある。従って、各回のテーマは同じである。
まず私から世界の食文化について、中国、台湾、シンガポール、韓国、モンゴル、イギリス、イタリアについて再発信し、次に皆さんがその発信に応えるべく、調査・報告・意見交換を行なう形をとりながら進めていく。
その目標とするところは、食文化に関する情報をもち、栄養士としてのスケールを広げることにある。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食文化という私たちの身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解すること、衣食住に関する基本的な事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について理解を深める。

到達目標

食文化の多様性を理解し、栄養士としての必要な知識、技能、態度、心構えなどに加えて、一歩でもそのスケールを広げることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	基礎ゼミからの流れ、進め方について説明する。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 食文化のエッセイについて調べておく。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
	中国の	北京料理について深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用

第2回	食文化①	（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第3回	中国の食文化②	上海料理について深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第4回	中国の食文化③	広東料理について深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第5回	中国の食文化④	四川料理について深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第6回	台湾の食文化①	大陸との関係から考え、深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第7回	台湾の食文化②	お茶に特化して考え、深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第8回	シンガポールの食文化	その多様性について考え、深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第9回	韓国の食文化	焼き肉の魅力について考え、深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
			予習：60分

第10回	モンゴルの食文化①	その特色について考え、深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第11回	モンゴルの食文化②	乳製品に特化して考え、深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第12回	イギリスの食文化①	「イギリスの食事は美味しくない」について考え、深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第13回	イギリスの食文化②	パブの意味について考え、深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第14回	イタリアの食文化①	新大陸との関係から考え、深める。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。
第15回	イタリアの食文化②	ワイン、パスタについて考え、深める。特に研修旅行の成果をいかに盛り込むかということに注意したい。 【ALについて】食文化に関するエッセイを読み（「朝日新聞」掲載の「作家の口福」等）、感想を書き、報告し、意見交換をする。	予習：60分 当該テーマについて図書館等を利用しつつ調べる。 復讐：30分 その日の授業内容をまとめる。

教科書
特に使用しない。主題に応じたプリントを配布する。
参考書
テーマに応じて、適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上（発表内容：7割、授業への取組み姿勢：3割）
課題等に対する フィードバックの方法
原則として授業内で行なう。
履修のポイント

取り組むテーマについて楽しむ姿勢が大切です。
オフィス・アワー
火曜日、12：30〜13：20、野口研究室

講義コード	30630008
講義名	専門ゼミ（田中）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-R374
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 景子	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎ゼミでの内容を継続しながら、大学祭での商品化・販売に向けて熟慮を重ねる。さらに、レシピコンテスト等への応募を視野に入れながらより良いものを追及する。意見交換会を重ね、栄養士として幅広いスキルの習得を目指す。大学内外の発表に向けて、群馬県みどり市と自分の出身地の良さをアピールできる工夫を考え準備する。まとめとして2つのチームに分かれ、みどり市の特産物を使ったPR料理を考え、試作、発表会を行う。より深くコミュニケーションを図り、商品化実現に向けて積極的な姿勢で取り組むことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境として科学的に理解する為に、食だけでなく地域社会の取組み等を含めて調査を続ける。商品化に向けてオリジナルなもの、販売できるクオリティを追求していくことを目標とする。

到達目標

・各自研究テーマに基づき、広い視野持って表現し、より分かりやすく伝える術を身に付け理解する。
・商品化実現に向けてたくさんのアイディアを出し、積極的な姿勢で取り組む。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス	基礎ゼミの内容の確認、専門ゼミの研究計画 大学祭商品化の実現に向けて意見交換会 【アクティブラーニング：基礎ゼミの内容を確認し、専門ゼミでどのようにさらに追及していくかを意見交換する】	予習30分：基礎ゼミの振り返り、専門ゼミでやってみたいテーマについて考えておく。復習30分：専門ゼミの個人研究テーマを考える。
		個人研究テーマに沿った研究計画書の	

第2回	研究計画	作成 【アクティブラーニング：第1回目の意見交換会を踏まえ、商品化可能なものをピックアップし、今後の具体的な展開について意見を出し合い考える】	予習30分：個人研究テーマに関する情報を収集する。復習30分：研究計画書の内容を精査する。
第3回	研究・演習①	個人研究テーマの情報収集・演習① ※必要に応じて調理実習を含む	予習30分：研究計画書の内容を確認し、必要事項を挙げる。復習30分：情報収集した内容をまとめる。
第4回	研究・演習②	個人研究テーマの情報収集・演習② ※必要に応じて調理実習を含む	予習30分：研究計画書の内容を確認し、必要事項を挙げる。復習30分：情報収集した内容をまとめる。
第5回	研究・演習③	個人研究テーマの情報収集・演習③ ※必要に応じて調理実習を含む	予習30分：研究計画書の内容を確認し、必要事項を挙げる。復習30分：情報収集した内容をまとめる。
第6回	研究・演習④	チームに分かれ、みどり市の特産物を使ったPR料理についての情報収集・レシピの考案①	予習30分：みどり市の特産物について基礎ゼミの内容を確認しておく。復習30分：情報収集した内容をまとめる。
第7回	研究・演習⑤	チームに分かれ、みどり市の特産物を使ったPR料理についての情報収集・レシピの考案②	予習30分：情報収集した内容をまとめておく。復習30分：レシピの考案についてまとめ、決定する。
第8回	考案レシピ試作に向けての演習	試作に関する資料準備	予習30分：試作するために必要な資料の確認をする。復習30分：試作に向けて準備を進める。
第9回	考案レシピ試作（実習）	調理実習を行い、検討を行う 【アクティブラーニング：チームごとに考案したレシピを試作し、見た目、味、量などを検討する。より良くするための改善策について、意見を出し合い考える】	予習30分：試作の作業工程を確認し、準備を進める。復習30分：試作後、意見した内容をまとめておく。
第10回	発表資料作成①	発表に向けて資料の作成①（パワーポイント使用）	予習30分：情報収集の内容、試作の内容をまとめを確認しておく。復習30分：作成した資料を精査する。
第11回	発表資料作成②	発表に向けて資料の作成②（パワーポイント使用） プリントとデータを提出する	予習30分：前回作成した資料の確認をする。復習30分：作成した資料の内容を精査し、発表会の準備を進める。
第12回	発表会	プレゼンテーション形式で、基礎ゼミから継続し、専門ゼミで追及した内容を発表する 【アクティブラーニング：パワーポイントを使用し、発表後は意見交換する】	予習30分：発表の練習をする。復習30分：発表後に意見交換した内容をまとめておく。
第13回	ゼミファイル資料作成①	ゼミファイル作成に向けて資料の作成①	予習30分：ここまでの各自の取り組みを振り返り、不足分を補う。復習30分：作成した資料を精査する。

第14回	ゼミファイル資料作成②	ゼミファイル作成に向けて資料の作成② プリントとデータを提出する	予習30分：完成し提出したデータを確認する。復習30分：報告会を振り返り、ゼミファイルをよく読む。
第15回	ゼミファイル完成報告会専門ゼミのまとめ	ゼミファイルの完成報告会と専門ゼミのまとめを行う 【アクティブラーニング：作成した資料を基に発表を行い、内容について理解を深め、ディスカッションをする】	予習30分：完成し提出したデータを確認し、発表の準備を進める。 復習30分：完成報告会とディスカッションした内容をまとめ、理解を深める。

教科書

必要に応じてプリントを配布する。

参考書

たのしい調理、レシピが掲載されている本

成績評価の方法・基準

単位認定50%以上
個人研究レポート 50%、課題への取組み・授業への参加度・中間発表会 50%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

個人研究の進捗状況について随時確認する。
商品化実現、レシピコンテスト応募に向けて、よりテーマに合ったものにできるよう修正すべき点等を伝えますので、参考にすること。

履修のポイント

食に関すること、地域に関する内容について興味を持ち、日頃から情報をチェックする。
より深くコミュニケーションを図り、商品化実現に向けて積極的な姿勢で取り組む。

オフィス・アワー

月曜日・水曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3Ｆ第8研究室
※ゼミ前後にも、適宜受け付けます

講義コード	30640001
講義名	オフィスワーク
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C152
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要と教育目標

オフィスワークでは、職場での勤務の実際を学習する。この講座では、主に企業経営・実務に関する業務の知識について、また現実の日常業務に関する基礎知識および技術について、学習する。原則として、一般企業におけるオフィスワークを想定しているが、あらわる職場に通用する知識・技術について、数多く学習する予定である。また、医療現場で働く人にとって、最低限のマナー・知識について習得できるような学習も行っていく。
本講座により、社会人として職場で働くために必要な共通の最低限度の知識を修得し、また医療現場の事務職として働くために必要不可欠な知識を修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

家庭生活に対して大きな影響のある社会のさまざまな現象、及びそれを取り巻く社会的環境について科学的に学修することを目的とする。

到達目標

１．職場において共通する基本的知識および職場における最低限のマナーを理解する。
２．文書のまとめ方、言葉づかいの基礎について学習する。
３．医療秘書資格取得に必要な知識を修得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業の方針・方法の説明をした後、ビジネスにおける心構え、また医療現場で働く人の心構えを学習する。	予習90分： シラバスを読み、授業計画について把握する。 復習90分：ハンドアウトに記載してある内容を読んで、復習する。
第2回	言葉づかい	ビジネスの現場での言葉づかいや医療現場での言葉づかいについて、具体的に学習す	予習90分： ハンドアウト第2回を読む。 復習90分：ハンドアウト第2回に記載して内容を読ん

		る。	で、復習する。返却された課題について、誤りを復習する。
第3回	ビジネスマナー(1)	ビジネスマナーとして、訪問時のマナー、会社内で執務する際のマナーについて学習する。	予習90分： ハンドアウト第3回を読む。 復習90分：ハンドアウト第3回に記載してある内容を読んで、復習する。返却された課題について、誤りを復習する。
第4回	ビジネスマナー(2)	ビジネスマナーとして、電話のかけ方や受け方、電話での話し方、会社の窓口での来客応対方法、話し方・聞き方を学習する。	予習90分： ハンドアウト第4回を読む。 復習90分：ハンドアウト第4回に記載してある内容を読んで、復習する。返却された課題について、誤りを復習する。
第5回	ビジネス実務	仕事において、必要とされるスケジュール管理，出張，ファイリング，情報管理，慶弔などについてのビジネス実務の知識を学習する。	予習90分： ハンドアウト第5回を読む。 復習90分：ハンドアウト第5回に記載してある内容を読んで、復習する。返却された課題について、誤りを復習する。
第6回	労働環境(1)	労働環境として、給与・報酬・手当などがどのような体系となっているのか、また給与から差し引かれる税金・社会保険について、学習する。	予習90分： ハンドアウト第6回を読む。 復習90分：ハンドアウト第6回に記載してある内容を読んで、復習する。返却された課題について、誤りを復習する。
第7回	労働環境(2)	労働者保護のしくみとして、法令で定められている具体的内容、会社による福利厚生の具体例について学習する。また、主な労使間の具体的なトラブルについて、学習する。 〈アクティブ・ラーニング〉 調べてきた労使間の具体的トラブルを発表する。	予習120分： ハンドアウト第9回を読む。労使間の具体的トラブルを調査しておく。 復習60分：ハンドアウト第9回に記載してある内容を読んで、復習する。返却された課題について、誤りを復習する。
第8回	ビジネス文書(1)	ビジネスの現場で使われる文書の様式について学習し、ビジネス文書はどのようにまとめたらいいのかについて、学習する。	予習90分： ハンドアウト第8回を読む。 復習90分：ハンドアウト第8回に記載してある内容を読んで、復習する。返却された課題について、誤りを復習する。
第9回	ビジネス文書(2)	前回学習した知識・技術を使って、ビジネス文書を作ってみる演習を行う。 〈アクティブ・ラーニング〉 作成したビジネス文書例を発表する。	予習90分： ハンドアウト第9回を読む。 復習90分：ハンドアウト第9回に記載してある内容を読んで、復習する。返却された課題について、誤りを復習する。
			予習90分： ハンドアウト

第10回	医療秘書実務(1)	医療秘書実務に関するルールを学習する。	第　回を読む。 復習90分：ハンドアウト第10回に記載してある内容を読んで、復習する。返却された課題について、誤りを復習する。
第11回	医療秘書実務(2)	医療秘書実務問題演習(1)医療及び医療保険等に関わる法令に関する問題演習を行う。	予習120分： 事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第11回の授業で答え合わせした際、誤っていた部分を復習する。
第12回	医療秘書実務(3)	医療秘書実務問題演習(2)医療保険等に関わる法令に関する問題演習を行う。	予習120分： 事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第12回の授業で答え合わせした際、誤っていた部分を復習する。
第13回	医療秘書実務(4)	医療秘書実務問題演習(3)診療報酬請求に関する実務について問題演習を行う。	予習120分： 事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第13回の授業で答え合わせした際、誤っていた部分を復習する。
第14回	医療秘書実務(5)	医療秘書実務問題演習(4)診療報酬請求に関する実務について問題演習を行う。	予習120分： 事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第14回の授業で答え合わせした際、誤っていた部分を復習する。
第15回	医療秘書実務(6)まとめ	医療秘書実務問題演習(5)診療報酬請求に関する実務について引き続き問題演習を行う。 医療秘書実務において、重要な部分を復習する。	予習120分： 事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第15回の授業で答え合わせした際、誤っていた部分を復習する。

教科書

医療秘書関係科目の教科書(『メディカルシステム論』他)

参考書

武田秀子・他『秘書・オフィス実務』(早稲田教育出版)

成績評価の方法・基準

平常点（授業への参加度・学習態度・参加度）［20%］、授業内課題等［40%］、レポート［20%］、医療秘書実務理解度［20%］を総合して評価。総合点50点以上で単位認定する。

課題等に対するフィードバックの方法

授業時間に課題を課し、授業終了時に提出してもらったものについては、原則として次回授業で採点済答案を返却して、課題の解説を行う。

履修のポイント

医療管理秘書士、医事管理士等の医療事務関係資格取得希望者は、単位修得する必要がある。

オフィス・アワー

月・水・金曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館３階研究室11

講義コード	30650001
講義名	医療経営学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C131
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 尾崎 好子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療機関を訪れる患者様に、安心・信頼・満足を感じて頂くための必要な専門知識を学び、医療秘書としてふさわしい教養、接遇対応を身につけ、医療機関での仕事について理解できる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解することを目指し、社会で実践的に活用できる人材を育成するための科目である。

到達目標

・患者様や患者様の家族と接するので不安等を解消する質問や疑問にも適切に答えられる知識を養う。
・診療報酬だけでなく医療関係法規や医療用語など幅広い専門的な知識と医療の方向性を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	医療と社会	医療の展開、医学と医療。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第2回	近代の病院の社会的機能	近代病院の使命。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第3回	病院組織	病院の業務内容。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノー

	と経営		トや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第4回	医療を支える職種	各部門の機能や役割。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第5回	医療の場の特殊性	患者心理、医療従事者に求められる資質要件。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第6回	医療はサービス業	接遇マナー。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第7回	医療関連法規①医療法	医療法の目的、沿革、条文および解説。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第8回	医療関連法規②医師法	医師法の沿革、条文および解説。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第9回	医療関連法規③薬剤師法	薬剤師法の目的と沿革、条文および解説。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第10回	医療関連法規④医療保険制度	国民医療費、保険の種類、医療保険制度の概要。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第11回	医療関連法規⑤二重指定制度	保険医療機関の登録機関と登録取り消しについて。 保険医療機関と保険医の概要。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第12回	保健・医療・福祉の連携	保健、医療、福祉の地域連携、地域における医療の役割、社会と医療の接点。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第13回	医療と情報	医療における情報、診療情報、医療情報の分析・活用、個人情報保護法。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
			予習90分：テキストに目を通し授業に備

第14回	まとめ（1）	これまでの授業のまとめを行い、全体像をつかむ。	える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第15回	まとめ（2）	これまでの授業のまとめを行い、全体像をつかむ。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。

教科書

『医学一般』一般社団法人医療教育協会
『メディカルシステム論』一般社団法人医療教育協会

参考書

特に指定しない。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
授業への取り組み姿勢（20%）
課題・レポート・提出物（20%）
定期試験（60%）

**課題等に対する
フィードバックの方法**

提出された課題および質問に対しては個別に対応し、授業時に全体に向け回答・説明する。

履修のポイント

遅刻をせず、忘れに気を付け、真剣に課題に取り組むこと。

オフィス・アワー

集中講義期間内。

講義コード	30660001
講義名	社会福祉論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C114
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 服部 弘	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義では、わが国における社会福祉の理念、制度やそのしくみについて基本的な理解をする。さらには、現代における社会的な背景や暮らし方の変化などについての学習を通じて、食の暮らしをサポートする専門職が社会福祉分野でどのような役割があるかを理解し、そのために必要な実務などを検討し学んでいく。
食を支える専門職としての視点をもって、社会福祉のしくみやそのあり方について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会福祉という側面から、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを目指すものとする。

到達目標

１．社会福祉の理念やその成り立ちについて理解をする。
２．社会福祉における制度等を学び、その根拠を学ぶ。
３．現代における社会福祉と食についての関係や今後のあり方について理解をする。
４．社会福祉分野での職種間連携の重要性と社会福祉専門職との連携について学ぶ。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス・生活を支える「食」と「社会福祉」	授業の進め方、人間が生きるということと食・社会福祉 社会福祉の意味と対象	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第2回	私たちの生活と社会保障①	生活を支える仕組みとしての社会保障の全体像	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
			予習９０分：教

第3回	私たちの生活と社会保障②	生活を支える仕組みとしての社会保障の全体像	科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第4回	公的扶助制度と現状について	公的扶助の概念と意義	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第5回	高齢者の福祉について①	高齢者の生活と介護	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第6回	高齢者の福祉について②	介護保険制度とその概要についての理解	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第7回	児童家庭福祉について①	子どもと子育て家庭の生活	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第8回	児童家庭福祉について②	食と児童虐待防止についての理解	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第9回	障がい者の福祉について①	障害の基本理念と概念	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第10回	障がい者の福祉について②	関連法と福祉サービス体系についての理解	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第11回	地域福祉について	地域で安心して暮らし続けるために	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第12回	社会福祉基礎構造改革と権利擁護	措置から契約へと移り変わった福祉	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第13回	社会福祉における援助の方法	専門的援助の実践体系としてのソーシャルワーク	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第14回	社会福祉実践の場と専門職	社会福祉に関係する機関と専門職連携・協働についての理解と栄養の役割	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第15回	これまでの講義まとめ	栄養士として必要とされる社会福祉の基礎知識	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す

教科書

岩松珠美・三谷嘉明編 「五訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉」 株式会社みらい
参考書
適宜紹介をする。
成績評価の方法・基準
単位認定５０点以上 筆記試験１００％ ※授業態度を加味する。
課題等に対する フィードバックの方法
授業のおさらいを実施するので、配布資料等を参考にし、理解に役立てること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。
オフィス・アワー
講義終了前後などに、適宜受け付けます。

講義コード	30670001
講義名	家庭の医学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C153
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山﨑 純一	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士あるいは医療事務従事者として社会で働く場合や家庭生活においても、種々の疾病に接することがある。わが国でも生活習慣病の患者数が増加し、薬物療法が積極的に導入されているが、食事療法は根本的な治療として重要である。一方、食物が医薬品に影響を及ぼすことも知られており、疾病や薬物療法について理解を深めるとともに、臨床検査や診療報酬制度についても知識を高めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保険学部栄養学科のディプロマ・ポリシーの一に「《人間のからだ》《食品》《栄養》に関して基本的なことがらと相互作用について理解すること。」を達成するための『健康と栄養』についての幅広い知識・技能とともに豊かな人間性が養われていること。

到達目標

１．薬物についての基礎知識を身につける。
２．重要な疾患の病態・生理、診断・治療を理解する。
３．診断の際の臨床検査全般を理解する。
４．重要な疾患の薬の作用・副作用、相互作用などを理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	薬理学とは・医薬品とは	薬理学の歴史、薬機法、医薬品の定義、分類	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
			（予習90分）当日の講義の概要を教科書

第2回	薬理学総論	薬理作用（吸収・分布・代謝・排泄・薬理作用のメカニズムなど）	で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第3回	薬物投与法、薬と食べ物	投与法、処方箋、薬と食べ物の相互作用、健康食品と薬の関係	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第4回	薬ができるまで	薬の設計、薬の種類	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第5回	薬の正しい使い方	薬の使用説明書、用法・容量、、副作用、ハイリスク薬 5～6名の小グループを形成し、医薬品の分類について討論し、報告する（45分間）。【アクティブラーニング】	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第6回	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬	局所麻酔薬、筋弛緩薬、中枢抑制薬、抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、鎮痛薬	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第7回	疾患別薬物治療Ⅰ	消化器疾患に用いる薬、循環器疾患に用いる薬	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第8回	疾患別薬物治療Ⅱ	代謝系疾患に用いる薬、呼吸器疾患作用薬内分泌系疾患	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第9回	疾患別薬物治療Ⅲ	アレルギー性疾患治療薬、抗炎症薬	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
			90

第10回	疾患別薬物治療Ⅳ	ホルモン・ビタミン製剤、貧血および血管系疾患治療薬	（予習　分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第11回	疾患別薬物治療Ⅴ	感染症治療薬および抗悪性腫瘍薬、輸血製剤 これまでの講義で扱った症例を小グループに提供し、薬物療法について調べ、報告する（45分間）。【アクティブラーニング】	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第12回	臨床検査値Ⅰ	一般検査、血液検査、生化学検査、免疫学的検査、輸血検査	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第13回	臨床検査値Ⅱ	微生物検査、病理組織学的検査、遺伝子・染色体検査、生理機能検査	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第14回	調剤報酬実務必携	調剤報酬改定の要点	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読
第15回	まとめ	医療事務に携わる場合の医学的基礎知識・医療関係知識について 小グループごとに生活習慣病などの仮想患者を提供し、診断のための検査について討論、発表する（45分間）。【アクティブラーニング】	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読

教科書

疾病のなりたちと回復の促進（3）ー薬理学ー：医学書院

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
課題形式の試験（教科書・資料持ち込み可）70%、授業への参加度30%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。授業での講義内容を配布するので、授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待する。予習：当日の講義の概要を教科書で確認する。復習：配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読する（90分）。
オフィス・アワー
講義終了後に適宜受け付ける。その他、火・木・金曜日に適宜受け付けるので、教務課に依頼し予約すること（一定の時間に設定不可能のため）。

講義コード	30680001
講義名	医療保険実務
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	3
代表曜日	
代表時限	
区分	医療事務科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C550
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 尾崎 好子	指定なし

授業の概要と教育目標

医師が診療中に記録した診療録（カルテ）を読むための基本的な医学の知識を身につけ、医師が行った診療行為を料金化するための算定方法を修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解することを目指し、社会で実践的に活用できる人材を育成するための科目である。

到達目標

診療録（カルテ）より治療内容を読み取り、診療報酬明細書を作成できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ガイダンス	医療事務の概要。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第2回	医療保険制度	医療費のしくみ、診療報酬請求について。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第3回	初診料 再診料	初診料の算定ルール。 再診料の算定ルール。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。

第4回	入院料	入院料の算定ルール。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第5回	投薬料	投薬料の算定ルール。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第6回	注射料	注射料の算定ルール。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第7回	レセプト作成及びレポート提出	練習問題を用いたレセプト作成を行う。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第8回	処置料	処置料の算定ルール。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第9回	検査料	検査料の算定ルール。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第10回	手術料 麻酔料	手術料の算定ルール。 麻酔料の算定ルール。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第11回	画像診断料	画像診断料の算定ルール。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第12回	リハビリテーション料 精神科専門療法料 放射線治療料 病理診断料	リハビリテーション料の算定ルール。 精神科専門療法料の算定ルール。 放射線治療料の算定ルール。 病理診断料の算定ルール。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第13回	レセプト作成およびレポート提出	練習問題を用いたレセプト作成を行う。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
			予習90分：テキストに目を通し授業に備

第14回	レセプト作成およびレポート提出	練習問題を用いたレセプト作成を行う。	える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第15回	まとめ	診療録（カルテ）より治療内容を読み取り、診療報酬明細書を作成する。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。

教科書

『診療報酬請求の実務診療報酬請求演習』（一般社団法人 医療教育協会発行）
『医科診療報酬点数表』（一般社団法人 医療教育協会発行）

参考書

特に指定しない。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
授業への取り組み姿勢（20%）
課題・レポート・提出物（20%）
定期試験（60%）

課題等に対する
フィードバックの方法

提出された課題および質問に対しては個別に対応し、授業時に全体に向け回答・説明する。

履修のポイント

遅刻をせず、忘れに気を付け、真剣に課題に取り組むこと。

オフィス・アワー

集中講義期間内。

講義コード	30690001
講義名	教師論（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CM-C430
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

「教師論」は教職資格取得に必要な教職科目の一つで、教職とは、学校の教師の仕事、教師のあり方など教職の基本について学ぶ。
教育目標としては、①教職の意義や教員の役割を理解すること、②教職の歴史と現状を認識し、教職に関わることの意志を育むこと、③教職の役割や職務内容を理解し、自分なりの「目指すべき教員像」を創り上げる――以上3点を掲げる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活を取り巻く社会的環境を理解し、コミュニケーション能力を磨く。

到達目標

次の3点を考えている。①教職の意義や教員の役割を理解し、説明することができる。②教職の歴史と現状を認識し、教職に関わることの意志を明確にすることできる。③教職の役割や職務内容を理解し、自分なりの「目指すべき教員像」を創り上げることができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	教師とは何か。	本講義「教師論」のガイダンス及び標記のテーマについて「教える」ことと「学ぶ」ことを手掛かりに考えていく。 学生各自は予習のメモをもとにプレゼンテーションを行なう。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	予習：60分 学生諸君の今までに出会った先生の具体像から、教師とはというテーマでメモを作成してくる（オリエンテーションで課題を出しておく） 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第2回	教職の魅力。	標記について、「思い出に残る先生」のメモをもとにプレゼンテーションを行なうことにより、その魅力を探る。	予習：60分 学生各自に「思い出に残る先生」についてメモを作成させる。 復習：30分

		【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第3回	教職の意義・役割・使命について。	標記について、「教職の役割」をプレゼンテーションさせ、それをもとに意義及び使命について解説する。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	予習：60分 学生各自に「教職の役割」についてメモを作成させる。 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第4回	教師像について。	教師は聖職者か労働者かという議論について学び、教師についての理解を深める。	予習：60分 教師は聖職者である面と労働者である面、それぞれの要因についてメモを作成させる。 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第5回	教員養成制度の変遷	戦前、戦後の教員養成制度の理念と内容について理解を深める。	予習：60分 標記のテーマについて調べ、メモを作成してくる。 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第6回	教員の職務について。	標記について、学生のメモをもとにプレゼンテーションを行ない、然る後に教授者が解説を行なう。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	予習：60分 標記について調べ、メモを作成してくる。 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第7回	教員の研修について。	標記について、学生のメモをもとにプレゼンテーションを行ない、然る後に教授者が解説を行なう。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	予習：60分 標記について調べ、メモを差悪性してくる。 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第8回	教員の身分と服務及び倫理について。	標記について、学生のメモをもとにプレゼンテーションを行ない、然る後に教授者が解説を行なう。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	予習：60分 標記について調べ、メモを作成してくる。 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第9回	学級経営と教師の力について。	標記について、学生のメモをもとにプレゼンテーションを行ない、然る後に教授者が解説を行なう。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	予習：60分 標記について、「学級通信」を手掛かりに調べ、メモを作成してくる。 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第10回	カリキュラムを創ることについて。	標記について、学生のメモをもとにプレゼンテーションを行ない、然る後に教授者が解説を行なう。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	予習：60分 「ヒドゥン・カリキュラム」を手掛かりに調べ、メモを作成してくる。 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第11回	教師のメンタルへ	標記について、学生のメモをもとにプレゼンテーションを行ない、然る後に教授者が解説を行	予習：60分 標記について「教師の心の危機」を手掛かりにメモを作成してくる。

	ルスについて。	なう。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第12回	チーム学校について	標記について、学生のメモをもとにプレゼンテーションを行ない、然る後に教授者が解説を行なう。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	予習：60分 標記について、その具体例を調べ、メモを作成してくる。 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第13回	専門職としての教師について。	標記について、学生のメモをもとにプレゼンテーションを行ない、然る後に教授者が解説を行なう。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	予習：60分 標記について、その具体例を調べ、メモを作成してくる。 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第14回	教職への道	標記について、学生のメモをもとにプレゼンテーションを行ない、然る後に教授者が解説を行なう。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	予習：60分 学生各自の出身地における公立学校の教員への道を調べ、メモを作成してくる。 復習：30分 本講義の内容を、どのように理解したかノートに纏めておく。
第15回	復習	標記について、学生のメモをもとにプレゼンテーションを行ない、然る後に教授者が解説を行なう。 【ＡＬについて】 プレゼンテーションの部分。	予習：60分 14回の講義における疑問点・問題点について、メモを作成してくる。 復習：30分 上記の疑問点・問題点について、どのように理解したかノートに纏めておく。

教科書

佐島群巳・小池俊夫『新訂版 教職論』（学文社、2017年）

参考書

講義中に適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。
筆記試験：50%、授業への取り組み姿勢（課題、プレゼンテーション）：50%

課題等に対するフィードバックの方法

講義中に適宜行なう。

履修のポイント

教職の意義、教員の役割、その職務内容、チーム学校等にポイントをおき、学修を進める。

オフィス・アワー

火曜日、12：30〜13：20、野口研究室

講義コード	30700002
講義名	教育原論・教育課程論（家庭）（旧 教育学
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	5時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CM-C410
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

昨今、子どもや学校をめぐるさまざまな問題が噴出している。そのような状況下で、教諭を志す者には「教育」の知識が求められる。本講義では、教育の意義・目的、教育の基礎的概念と諸理論、歴史、実践など、教育学の基本的知識を学ぶ。さらには現代の教育問題を念頭におきながら、学習指導要領の変遷及び新学習指導要領の目標を理解することにより、教育課程が社会において果たしている役割や機能について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活を取り巻く社会的環境を理解し、コミュニケーション能力を磨く。

到達目標

「教える―学ぶ」という人間特有とされる営みの重要性と、特に学校教育における現代的な課題について、具体的な事例を通して学び、考えられるようになる。そのために、①「教える―学ぶ」という教育の基本的関係を、さまざまなテーマを通して学ぶ。②私たちは、自らが学んできた現代日本の学校教育に大きな影響を受けていることをきちんと認識する。③いま、その学校がどのような現実に直面し、どのような対応を求められているかについて理解を深めたい。④学校教育における指導の過程について、学習指導要領の変遷と新学習指導要領を学ぶことにより、その基本的な知識を得る。以上の学習を通じて、教職を志す者としての資質・能力を培い、教職における教育の根本原理を学ぶ。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	本講義の地付け、進め方について説明する。 【ALについて】 「教諭を志す」ことについて語る。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。

第2回	人間探求から教育を考える	人間の生涯と教育、発達における教育の役割、文化と教育を扱う。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第3回	歴史探求から教育を考える①	子ども観の歴史的変遷を行なう（西洋を中心に）。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第4回	歴史探求から教育を考える②	子ども観の歴史的変遷を行なう（日本を中心に）。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第5回	歴史探求から教育を考える③	欧米の教育思想と発展を扱う。 【ALについて】講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第6回	歴史探求から教育を考える④	日本の教育思想と発展を扱う。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
	学校の制	日本の近代化と学校教育を考える。 【ALについて】	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分

第7回	度と歴史を学ぶ①	講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第8回	学校の制度と歴史を学ぶ②	壺井栄著『二十四の瞳』を素材に考える。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第9回	学校の制度と歴史を学ぶ③	教育勅語と教育基本法（旧・新）について考える。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第10回	社会のなかの学校組織	学校と家庭、地域の連携・共同の必要性を、特に学校安全に焦点をあてて考える。 【ALについて】講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第11回	学校の経営・学級の経営	学校経営の必要性や定義、内容、校内体制の重要性について、次いで学級と教育内容・方法を制度的に確認、「チーム学校」についても言及する。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第12回	教育課程の意義及び編成を学ぶ①	学習指導要領の変遷の性格・位置づけ・目的・内容等について理解を深め、新学習指導要領の内容と目標を学習する。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。

第13回	教育課程の意義及び編成を学ぶ②	学習指導要領等に基づき、各学校における教育課程の変遷・実施・評価・改善の一連のカリキュラム・マネジメントを理解する。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第14回	教育課程の意義及び編成を学ぶ③	教育課程の実践・評価とさあい編成を行なうことにより、教育活動全体の質の向上を図ることを理解する。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第15回	総括とまとめ	全14講の内容を復習する。 【ALについて】 各自の問題点をまとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。

教科書
特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書
テーマに応じて適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上（筆記試験：5割、授業への取組み姿勢（課題、口頭発表）5割）
課題等に対する フィードバックの方法
授業後に行なう。
履修のポイント
「教育とは何か」について絶えず考えること。
オフィス・アワー
火曜日、12：30〜13：20、野口研究室

講義コード	30710001
講義名	教育学（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C411
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

昨今、子どもや学校をめぐるさまざまな問題が噴出している。そのような状況下で、教諭を志す者には「教育」の知識が求められる。本講義では、教育の意義・目的、教育の基礎的概念と諸理論、歴史、実践など、教育学の基本的知識を学ぶ。さらには現代の教育問題を念頭におきながら、学習指導要領の変遷及び新学習指導要領の目標を理解することにより、教育課程が社会において果たしている役割や機能について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活を取り巻く社会的環境を理解し、コミュニケーション能力を磨く。

到達目標

「教える―学ぶ」という人間特有とされる営みの重要性と、特に学校教育における現代的な課題について、具体的な事例を通して学び、考えられるようになる。そのために、①「教える―学ぶ」という教育の基本的関係を、さまざまなテーマを通して学ぶ。②私たちは、自らが学んできた現代日本の学校教育に大きな影響を受けていることをきちんと認識する。③いま、その学校がどのような現実に直面し、どのような対応を求められているかについて理解を深めたい。④学校教育における指導の過程について、学習指導要領の変遷と新学習指導要領を学ぶことにより、その基本的な知識を得る。以上の学習を通じて、教職を志す者としての資質・能力を培い、教職における教育の根本原理を学ぶ。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	本講義の地付け、進め方について説明する。 【ALについて】 「教諭を志す」ことについて語る。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。

第2回	人間探求から教育を考える	人間の生涯と教育、発達における教育の役割、文化と教育を扱う。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第3回	歴史探求から教育を考える①	子ども観の歴史的変遷を行なう（西洋を中心に）。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第4回	歴史探求から教育を考える②	子ども観の歴史的変遷を行なう（日本を中心に）。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第5回	歴史探求から教育を考える③	欧米の教育思想と発展を扱う。 【ALについて】講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第6回	歴史探求から教育を考える④	日本の教育思想と発展を扱う。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
	学校の制	日本の近代化と学校教育を考える。 【ALについて】	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分

第7回	度と歴史を学ぶ①	講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第8回	学校の制度と歴史を学ぶ②	壺井栄著『二十四の瞳』を素材に考える。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第9回	学校の制度と歴史を学ぶ③	教育勅語と教育基本法（旧・新）について考える。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第10回	社会のなかの学校組織	学校と家庭、地域の連携・共同の必要性を、特に学校安全に焦点をあてて考える。 【ALについて】講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第11回	学校の経営・学級の経営	学校経営の必要性や定義、内容、校内体制の重要性について、次いで学級と教育内容・方法を制度的に確認、「チーム学校」についても言及する。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第12回	教育課程の意義及び編成を学ぶ①	学習指導要領の変遷の性格・位置づけ・目的・内容等について理解を深め、新学習指導要領の内容と目標を学習する。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。

第13回	教育課程の意義及び編成を学ぶ②	学習指導要領等に基づき、各学校における教育課程の変遷・実施・評価・改善の一連のカリキュラム・マネジメントを理解する。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第14回	教育課程の意義及び編成を学ぶ③	教育課程の実践・評価とさあい編成を行なうことにより、教育活動全体の質の向上を図ることを理解する。 【ALについて】 講義概要を各自まとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。
第15回	総括とまとめ	全14講の内容を復習する。 【ALについて】 各自の問題点をまとめ、そのテーマについて自分なりに学ぶ。	予習：60分 毎回のテーマについて課題を出し、それについて調べてくる。 復習：30分 授業の総まとめを各自行ない、テーマについて自分なりに理解をする。

教科書
特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書
テーマに応じて適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上（筆記試験：5割、授業への取組み姿勢（課題、口頭発表）5割）
課題等に対する フィードバックの方法
授業後に行なう。
履修のポイント
「教育とは何か」について絶えず考えること。
オフィス・アワー
火曜日、12：30〜13：20、野口研究室

講義コード	30720001
講義名	教育心理学（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CM-C412
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

教師が学校現場で児童・生徒と対応する際には、彼らが、今現在発達的にどのような状況におかれてるのか、また、そのときの心の状態はいかなるものなのか、ということに配慮しながら接することが求められる。この科目では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえて、人の発達過程、学習過程、教授過程について講義する。授業は講義形式で行うが、授業後半では実習も取り入れ、学生による「模擬授業」を実施する。なお、青年期までの人の発達過程とその特徴、学習のしくみと学習を規定する要因と障がい、教授の類型について理解を深めることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解すること、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的な展望としては、心身の発達理論を理解しつつ、多様な人間のライフステージ、ライフサイクルを理解するという発達の側面、そして知識を収めていく学習の側面、発達課題に直面した際の課題未達成からくる適応の問題の側面から、教職実践の基盤となる学修を目指すものとする。

到達目標

１．教育心理学で使用されるさまざまな専門用語の意味を理解する。
２．青年期までの人の発達過程とその特徴について理解する。
３．学習のしくみと学習を規定する要因、および障がいについて理解する。
４．「教える」ということを体験を通じて実感し、自ら「教える」立場をシュミレーションする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
	ガイダン		予習90分：教科

第1回	ス教育心理学の概要	教育心理学で取り扱う内容について、その概要（発達・学習・教授）を取り上げる。	書pp.12-21を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	人生初期の発達①	発達の基本的な原理、発達の最近接領域について取り上げる。	予習90分：教科書pp.22-25,33-39を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	人生初期の発達②	認知発達を中心に、乳児期から児童期の発達を取り上げる。	予習90分：教科書pp.25-30を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	青年期の発達①	人生初期からの人間関係と社会性の発達を取り上げる。	予習90分：教科書104-123を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	青年期の発達②	青年期の発達課題として、エリクソンのアイデンティティの獲得について取り上げる。	予習90分：教科書pp.30-33を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	障がいの理解	発達障がいの種類や特徴、学級内で障がいを抱えた児童・生徒への理解と対応について取り上げる。	予習90分：教科書pp.159-174を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	さまざまな学習理論①	刺激と反応の結びつきを重視する学習の連合理論と認知の変容を重視する学習の認知理論を中心に、学習のしくみを取り上げる。	予習90分：教科書pp.41-54を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	さまざまな学習理	記憶、授業における学習指導の理論、学習の個性化を取り上げる。	予習90分：教科書pp.55-70、175-182を読む。

	論②		復習90分：配布資料を見直す。
第9回	学習の規定因①	学習の規定因としての動機づけ理論と、動機づけ向上に必要な事項について取り上げる。	予習90分：教科書pp.72-88を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	学習の規定因②	学習を規定する要因としてのパーソナリティの理論、知能の構造、測定方法を取り上げる。	予習90分：教科書pp.89-103を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	学習の規定因③	発達や学習を促進したり、阻害したりする適応と不適応、適応機制の考え方を取り上げる。	予習90分：教科書pp.141-157を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	学校教育相談	教育相談の意義と役割および教育相談の歩みとその方法について取り上げる。	（予習90分：教科書8章を読む。） 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	教育評価	教育評価の方法や手法、さまざまな観点から見た評価の種類と特徴、学力のとらえ方や測定方法について取り上げる。	予習90分：教科書pp.182-192を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	教授技法①	教える技術、伝える技術、授業づくりの留意点をおさえて、「教える」ことをシュミレートする模擬授業を行う。他の履修者は、授業評価をし、授業担当者にフィードバックする。この経験を教育実習の参考として役立てられるようにする。	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第15回	教授技法②	第14回目の授業から、さらに発展させ、応答技法の留意点もおさえて、「教える」ことをシュミレートする模擬授業を行う。他の履修者は、授業評価をし、授業担当者にフィードバックする。この経験を教育実習の参考として役立てられるようにする。	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。

教科書
櫻井茂男監修 『実践につながる教育心理学』 北樹出版
参考書
適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上。 筆記試験40%、レポート課題30%、模擬授業・授業への参加等30%。
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。授業時間外の学習として、主に配布資料・ノートのまとめを勧めます。 なお、「教育心理学（共通）」の（共通）とは、生活科学科の中学2種（家庭）と栄養教諭2種の双方の教職に共通する科目、ということを示します。
オフィス・アワー
水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。 ※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	30730001
講義名	家庭科教育法（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C431
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 荒井 尚美	指定なし

授業の概要と教育目標

中学校「技術・家庭」の教員免許の取得を目指す学生を対象に設定された科目である。
家庭科教育についての理解を深め、「技術・家庭」の家庭分野の教材研究、学習指導案の作成等を通して、よりよい授業のための工夫や改善を目指す能力や態度を養う。
【教育目標】
・家庭科教育の意義を理解できるようにする。
・中学校「技術・家庭」の家庭分野の教材研究の仕方を理解できるする。
・学習指導案を作成し、より良い授業について自ら考えることができるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

・家庭科教育の意義を理解するとともに、日常生活における知識技術をもとに、社会の変化に対応できる問題解決能力やハンドな力を身に付ける。
・将来的には、ワークライフバランスを考えた自らの人生設計について考え、適切な職業選択ができるようにする。

到達目標

・家庭科教育の目標・内容についての知識・理解を深める。
・授業の題材にあわせた教材研究を行うことができる。
・学習指導案を作成することができる。
・学習指導案の検討を行い、工夫や改善をすることができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション及び家庭科教育の意義	授業の概略 学校教育における家庭科教育の意義	予習90分：学習指導要領解説技術・家庭編 学校教育法施行規則を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第2回	家庭科教育	日本における家庭科教育の	予習90分：学習指導要領解説技術・家庭編 第1章を読む。

	の歴史	変遷	復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第3回	家庭科教育の目標と指導内容	小・中・高等学校の学習指導要領における目標と指導内容	予習90分：学習指導要領技術・家庭編第2章を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第4回	家庭科教育と 現代社会とのかかわり	生活課題と家庭科教育の指導内容 【アクティブラーニング】	予習90分：中学校技術・家庭 家庭分野の教科書を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第5回	家庭科教育の特徴と学習指導法	新しい学力観にたった家庭科の学習指導方法 【アクティブラーニング】	予習90分：学習指導要領技術・家庭編第3章を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第6回	教材研究	教材研究の視点と方法 【アクティブラーニング】	予習90分：手作り教材の準備。 復習90分：手作り教材の完成と自己評価。
第7回	評価の方法	学習評価の観点と評価方法	予習90分：学習指導要領技術・家庭編第3章を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第8回	学習指導計画	学習指導要領に基づく学習指導計画	予習120分：学習指導要領技術・家庭編第3章と中学校技術・家庭 家庭分野の教科書を読む。 復習120分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第9回	学習指導案の書き方	学習指導案の考え方、書き方の基本	予習120分：学習指導案の事例を探す。 復習120分：学習指導案の書き方の要点を復習。
第10回	学習指導案の作成(1)	学習指導案の作成① 学習指導案を１部作成提出 【アクティブラーニング】	予習120分：学習指導案の題材を考える。 復習180分：題材に沿った指導案を完成する。
第11回	学習指導案の発表と検討（1）	個別学習指導案に基づく模擬授業の実施 学習指導案の検討・評価 【アクティブラーニング】	予習180分：模擬授業の準備をする。 復習180分：模擬授業の評価と課題を明確にする。
第12回	学習指導案の作成(2)	学習指導案の作成② 学習指導案を１部作成提出 【アクティブラーニング】	予習180分：2つめの学習指導案作りの準備。 復習180分：1つめの指導案との比較、改善。
第13回	学習指導案の発表と検討（2）	個別学習指導案に基づく模擬授業の実施 学習指導案の検討・評価 【アクティブラーニング】	予習180分：2回目の模擬授業の準備。 復習120分：第2回の模擬授業の評価と課題。
第14回	学習指導案の修正	学習指導案に基づく学習指導の相互評価及び改善 【アクティブラーニング】	予習180分：学習指導案をワープロで作成。 復習120分：指導案評価のポイントを復習。
第15回	まとめ	教育実習にむけての授業のまとめ	予習120分：教育実習指導分野の教科書を読む。 復習120分：授業プリントを読み返し、要点を確認。

教科書
中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 文部科学省。中学校技術・家庭 家庭分野の教科書
参考書
必要に応じて資料を配布する。
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上。学習指導案40%、毎時間のワークシート40%、授業への参加意欲・態度20%を総合して評価。
課題等に対する フィードバックの方法
課題や提出物について、評価、問題点、修正すべき点などについて、個別に学生に伝達し、返却する。課題によっては、学生同士の相互評価を取り入れ、知識技術の定着やコミュニケーション能力の向上に努める。
履修のポイント
自ら考え、学習指導案を2部作製し提出する。毎時間のワークシートや作品を提出する。
オフィス・アワー
授業日の開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	30740002
講義名	道徳理論・指導法（家庭）（旧 道徳教育研
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	５時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CM-C432
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

道徳教育の歴史、その意義と役割を理解しつつ、学習指導案作りを実践する。他の教科との連携を踏まえ、教育実習の場でしっかりと道徳の授業ができる教育力を養うものである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目で、生活科学科のディプロマポリシーにある「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」ことを再確認し、それを学校現場の道徳等の授業で、生かすことができるかを問う。

到達目標

道徳の授業を展開する際の材料集めに始まり、学習指導案を作成し、じっさいに模擬授業を行い、学生自身が主体的に考え行動し、道徳の授業実践のできる指導力を養う。人間としての徳性を備え、他者や環境を尊重する人材を育成できる力量を身につける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	道徳教育とは何か	道徳教育の定義と、人格の完成に欠かせない道徳教育の意義を理解する。	復習９０分。最近の道徳についての記事を調べる。
第2回	修身教育と今日の道徳教育	道徳教育の歴史を知る。＜アクティブラーニング＞今日の日本や国際社会での道徳教育の課題について考える。	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
第3回	子どもの発達に応じた道徳の話題	成長の各段階における人間の道徳性の発達と開花（学年に適した教材に関する考察を含む）のプロセスをたどる。	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導要領を事前に読んでおく。
	学習指導		

第4回	要領に記された道徳の教育目標	学習指導要領に記された道徳教育の内容と教育目標（多様な指導方法の理解を含む）を知る。	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
第5回	他教科・特別活動等との連携	学習指導計画と、教育活動全体のなかでの道徳教育の位置づけを理解する。	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表の大筋を決める。
第6回	学習指導案の作成	＜アクティブラーニング＞道徳の授業目標の設定し、授業プログラム案（学習指導案）の作成と発表を行う。	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表資料づくりを行う。
第7回	道徳への取り組み評価について	個々の児童・生徒における道徳教科の評価方法を知る。	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。最近の道徳についての記事を調べ記事と概要と感想を書いてレポートにまとめ提出する。
第8回	道徳教育のまとめ、授業の振り返り	学生による模擬授業の実施と、そのふり返り（学生による自己評価を含む）を行う。	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。作成した各自の指導案、発表資料等を提出する。

教科書

「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省）
「小学校学習指導要領解説」「中学校学習指導要領解説」にある「特別の教科道徳」（平成29年6・7月告示 文部科学省）

参考書

小寺正一・藤永芳純『三訂道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社、2009年

成績評価の方法・基準

道徳教育に関するレポート（６０点）、各時間のふり返りシート（２０点）、模擬授業の発表（２０点）の合計点をもとに、総合的に評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

課題のレポートに、コメントを入れて後日、返却する。補足説明があるときは、授業内で提示し、または印刷して配布してフィードバックとする。

履修のポイント

授業回数が８回のみであるから、休まず出席すること。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーの時間とする。質問等を受け付けます。

講義コード	30741001
講義名	特別支援教育論（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CM-C450
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 小林 徹	指定なし

授業の概要と教育目標

担当者の中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。
１．特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。
２．特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。
３．さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。
４．障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。
５．特別支援教育の実際について理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連としては、さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもについて学ぶことで人間生活の多角的な理解を目ざす。
また、特別支援教育の理解を通して、得た知識を職業人として各職場で実践的に活用し、問題解決能力の修得を目ざす。

到達目標

１．特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。
２．障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。
３．さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	特別支援教育の考え方、制度と仕組み	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念、特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

第2回	障がいとの出合いと子育て、保護者支援	保護者と障がいとの出合いと保護者支援、障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第3回	障がい児の理解と支援①発達障がい・知的障がい・情緒障がい	映像を通して発達障がい、知的障がい、情緒障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第4回	障がい児の理解と支援②肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい	肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第5回	障がい児の理解と支援③病弱・重複障がい・その他の特別な教育的ニーズ	病弱・重複障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。また、障がいはないが、特別な教育的ニーズをもつ子どもについて学び、その支援方法を考える。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第6回	他機関との連携、幼保小中高の接続	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。また、幼保小中高の接続を含めたさまざまな機関との連携について学習する。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第7回	個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用	子どもの有する特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成を通して学習する。また、作成した計画をもとにして具体的な支援を考察する。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第8回	特別支援教育のこれまでとこれから	特別支援教育の歴史的変遷について学習する。そして、今後のインクルーシブ教育システムの構築に向けた考察を行う。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

教科書

小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』みらい,2016

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
レポート試験（50%）、毎回提出する小レポート（30%）、小テスト（20%）

課題等に対するフィードバックの方法

毎回提出する小レポートや小テストを参考にして、期末のレポート試験を受けること。

履修のポイント

障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じる。

講義コード	30750001
講義名	教育方法論（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	５時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-F851
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

限られた時間内に教育が行われる学校では、指導上の効果を高めるため、教育方法について理解し研究することがとりわけ肝要である。被教育者の知識・技術の習得をより効果的なものにし、さらに生徒の自主的・創造的な学習を発展させるうえで、教員を目指す者にとって教育方法の学習は、以前にも増して重要性が高まっている。この授業では、教授ないし学習指導と呼ばれている事柄を中心に取り扱う。また、コンピュータを中心とした教育機器の利用法や教育評価についても、教育方法にとって不可欠な分野として、取り上げる。
一方で、特別活動は、構成の異なる集団での活動を通して学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動である。
そこで、この授業では、学校教育の中で行われる、指導の効果を高めるための方法について理解し研究することを目標とし、学習指導要領に則しながら、特別活動の各活動の内容や指導方法など事例を通して検討していく。
また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学科のDPとは別に、教員免許状取得のために必要な学校教育法施行規則に定める科目「教育方法及び技術（情報機器および教材の活用を含む。）」と「特別活動の指導法」に該当している

到達目標

・教育方法の基礎理論、方法、技術について理解する
・コンピュータなどの機器の教育における利用方法を理解し、活用できる
・教育評価の理論と応用について理解する
・学習指導要領における特別活動の意義を理解する
・特別活動の指導の在り方を理解する

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
	求められる学	求められる学力とは何かを検討し、学校教育と学習指導要領の基本理念について考える	予習90分：教科書第1章を熟読すること

第1回	力と学校教育・教育方法	課題：指導案（細案）の作成とその意図の発表	復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題の作成
第2回	教育方法の基礎理論	教育方法の基礎理論について	予習90分：教科書第2～4章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題の相互評価
第3回	教師の指導技術と学習の動機づけ 指導案の発表と討議	具体的な指導技術の問題点を確認し、代表的な方法と留意点をみる 学習者が意欲的に学ぶにはどのような工夫が必要か考える 【アクティブラーニングの内容】 各自で作成した指導案を発表し、検討をおこなう （受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります）	予習90分：教科書第5～9章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第4回	学習の評価 指導案の発表と討議	学習における評価の意味について考える 【アクティブラーニングの内容】 各自で作成した指導案を発表し、検討をおこなう （受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります）	予習90分：教科書第12章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第5回	情報機器及び教材の活用 指導案の発表と討議	メディア教材の利用と、ICT機器を利用する意味とその理論について学び、ICTを利用した授業の展開について考える 【アクティブラーニングの内容】 各自で作成した指導案を発表し、検討をおこなう （受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります） 課題レポート：授業におけるICT機器の活用について	予習90分：教科書第10章・11章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題レポートの作成
第6回	特別活動の意義	学習指導要領における特別活動の意義と内容について検討する	予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題レポートの作成
第7回	特別活動の内容	学級活動・生徒会活動・学校行事の目標とその内容について事例を通して考える（小学校・高等学校との違いを踏まえながら） 【アクティブラーニングの内容】 グループワーク：特別活動の指導案	予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第8回	特別活動の指導	特別活動における指導方法および評価について検討する 【アクティブラーニングの内容】 グループ発表：特別活動の指導案の発表	予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返り

			をMoodleに記載

教科書
『新しい教職教育講座 教職教育編 教育の方法と技術』（篠原正典・荒木寿友 編著）ミネルヴァ書房 中学校学習指導要領（平成29年告示）文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編（平成29年7月）文部科学省
参考書
「教育工学への招待」赤堀侃司（ジャストシステム）、「「教えて考えさせる授業を」を創る」市川伸一（図書文化）、「学習評価の新潮流」植野真臣他（朝倉書店）など
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上。毎回の課題とその取組（40%）、模擬授業（30%）、レポート（30%）を総合的に評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
授業では課題を課します。それらは相互に評価することがあり、その結果をMoodleを通して、個別もしくは全体にコメントしますので、参考にしてください。
履修のポイント
授業日程についてはしっかり確認し、遅刻・欠席がないように注意してください。 また、受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります。 授業の回数が少ないため、各自で教科書を熟読し理解を深めてください。 欠席（公欠含む）した場合は、後日内容の確認をしてください。 課題は必ず提出すること。
オフィス・アワー
火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

講義コード	30760001
講義名	教育課程及び教育方法論（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C433
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 佐藤 知条	指定なし

授業の概要と教育目標

・日本の戦後学校教育における教育課程を学習指導要領の変遷を中心に概観し、新学習指導要領の内容とねらいを解説する。
・カリキュラム編成に関する代表的な考え方を提示し、新学習指導要領のねらいを踏まえたカリキュラム編成のあり方を解説する。
・教育方法の代表的な理論を解説するとともに、具体的な実践事例を検討しながら、これからの学校教育に求められる教育方法について考える。
・授業の内容を踏まえた指導案を作成し、発表と検討を通して自ら教育課程を編成する能力を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

1.人間に固有の営みである教育という視点から、「生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解」する。
2.「『健康・栄養』に係る現場」として教育を捉え、そこで「実践的に活用し、また問題を解決できる能力」を獲得する。

到達目標

1.教育課程を歴史・思想・政策・実践との関連から捉え、その意義と役割を理解する。
2.これからの学校教育における教育課程を自ら編成するための基礎的な能力を身につける。
3.教育の方法及び技術に関する基礎的な理論を理解し、それを活用した実践を行うための基盤を作る。

授業計画

	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	指導案作りから子どもの評価までのプロセスの理解	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第2回	学習指導要領の変遷（1）1940年代	予習90分：この回のテーマについて調べ、内容の概要を把握する。

	～1970年代	復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第3回	学習指導要領の変遷（2）1980年代～現在	予習90分：この回のテーマについて調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第4回	カリキュラムづくり/評価/マネジメントの方法	予習90分：この回のテーマについて調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第5回	教育方法の理論と歴史	予習90分：この回のテーマについて調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第6回	教育方法の事例検討	予習90分：この回のテーマについて調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第7回	学生作成の指導案の発表と検討	予習90分：この回のテーマについて調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第8回	ＩＣＴと教育・教育メディアの活用と情報活用能力の育成	予習90分：この回のテーマについて調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。

教科書

特に指定しない。

参考書

・小学校学習指導要領（各年度版）、中学校学習指導要領（各年度版）.文部科学省.
・小学校学習指導要領解説（各年度版）、中学校学習指導要領解説（各年度版）.文部科学省.
・田中耕二・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程（第3版）』有斐閣.2011年.
・臼井嘉一・金井香里編著『学生と教師のための現代教育課程論とカリキュラム研究』成文堂.2012年.
・佐藤学『教育の方法』左右社.2010年.

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
毎回のリアクションペーパーの内容（30%）、授業中に作成する指導案の評価（30%）、期末試験（40%）

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーに書かれた意見や疑問、感想などは次の回の冒頭で取り上げ、授業内容の深い理解へとつなげます。

履修のポイント

教員からの問いかけに積極的に応えるとともに、学生同士の話し合いにも主体的に参加してください。

オフィス・アワー

授業内容に関する疑問や質問は、授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

講義コード	30770001
講義名	道徳教育及び特別活動の研究（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-F970
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

小・中学校で習う道徳教育や特別活動の教育内容を知り、道徳教育の授業の組み立てやじっさいの授業の展開方法を習う。特別活動の実践活動の計画から運営、振り返りまで一連の実践方法を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目で、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容である。生活科学科のディプロマ・ポリシーにあるように、「生活を取り巻く社会的環境」について理解を深め、道徳や特別活動の時間など教育の現場で、知識を生かせるようになったかを問う。

到達目標

学習指導要領とその解説にある道徳教育や特別活動の位置づけを理解し、道徳教育や特別活動を、小・中学生に自分の力量で創意工夫を重ねつつ、実施できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	道徳と特別活動の捉え方	道徳と特別活動の定義と活動目標、学校教育全体のなかでの位置づけを理解する。	復習９０分。最近の道徳や特別活動についての記事を調べる。
第2回	学校における諸活動	学級活動やHR活動の特質と実施の意義を知る。	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。
第3回	子どもの成長とコミュニケーション能力の発達	児童・生徒どうしの合意形成や意志疎通をはかる能力の育成と、その延長上にある社会生活との関連を理解する。	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。新聞などで道徳や特別活動の授業について調べ、概略と感想を書いてレポートにして提出する。
		児童・生徒会活動やクラブ活	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。新聞などで道

第4回	特別活動の具体例	動、学校行事で展開される特別活動の理解を深める。	徳や特別活動の授業について調べ、概略と感想を書いてレポートにして提出する。
第5回	道徳と特別活動の連携	道徳教育及び特別活動と地域・関係機関との関わりの探究	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
第6回	危機管理教育	集団での活動の意義と、児童・生徒の指導方法（安全教育を含む）	予習９０分。復習９０分。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
第7回	道徳や特別活動の評価方法	道徳教育と特別活動それぞれの取り組みに関する評価について	予習９０分。復習９０分。学習指導案のプランを練る。
第8回	模擬授業	道徳と特別活動の授業目標の確認をする。＜アクティブラーニング＞授業プログラム案（学習指導案）の作成と発表を行う。	予習９０分。復習９０分。学習指導案の作成を行う。

教科書

「小学校学習指導要領」、「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省）「小学校学習指導要領解説」「中学校学習指導要領解説」にある「特別の教科道徳」「特別活動」（平成29年6月、7月告示 文部科学省）

参考書

梨木昭平『道徳教育法・特別活動指導法』大学教育出版、2014年など。

成績評価の方法・基準

道徳教育と特別活動に関するレポート（６０点）、各時間のふり返りシート（２０点）、模擬授業の発表（２０点）の合計点をもとに、総合的に評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

課題のレポートに、コメントを入れて返却する。補足説明があるときは、授業内で提示し、または印刷して配布してフィードバックとする。

履修のポイント

授業回数が８回なので、休まず出席すること。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーの時間とする。質問等を受け付けます。

講義コード	30780002
講義名	生徒指導・進路指導論（家庭）（旧 生徒指
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	5時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CM-C434
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

子どもたちを取り巻く情況は、社会の変化に呼応するかのように多様な問題を内包している。不登校・いじめ（いじめ自殺）・ネットトラブル・引きこもり、将来の不透明さなどがあげられる。これらに対応することを前提として、①生徒指導とはなにか、②生徒指導が担うべき役割はなにか、③生徒指導において教師が備え持つべき資質はなにか、について考える。そして、具体的問題を取り上げながら、これらへの対応について共同で考える。
進路指導は、キャリア教育の観点に立ち、①進路指導の意義と指導の方法は何か、②生徒が抱える個別の課題に即しながら「自分を生かす進路選択」とは何かについて共同で考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、日常的な生活空間そして社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

生徒指導は、一人ひとりの児童及び生徒の人格を尊重し、社会的資質や行動力を高めることを目指し、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。
進路指導は、児童及び生徒が、将来の進路を選択し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸張するように、組織的・継続的に指導・支援する教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。この進路指導・キャリア教育に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画

	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	教育課程における生徒指導の位置付けについて理解する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

第2回	生徒指導について集団指導と個別指導の実態を踏まえ、その方法原理を理解する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第3回	基礎的な生活習慣の必要性と規範意識が培われる指導について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	校則の実態を学びながら、なぜ校則が存在し、なぜ必要であるかについて考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	体罰の実態を学びながら、体罰禁止の根拠と懲戒について学び、考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	いじめ（いじめ自殺）についての視聴覚教材を用いて、いじめについて考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	いじめの構造を理解し、その対応方法（生徒指導）についてディスカッションを行う。＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	不登校や暴力行為の生徒指導上の課題や対応の視点について学び、考える。＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第9回	生徒を取り巻くインターネットや性に関する問題について考える。 ＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第10回	教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けについて学ぶ。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第11回	進路指導の歴史及びキャリア教育の概念を学び、その発展の方向性を確認する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第12回	職業についての体験活動を中心に、進路指導・キャリア教育の意義を学ぶ。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第13回	中学校段階における進路指導・キャリア教育の考え方とポートフォリオ作成。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第14回	第１３回で作成したポートフォリオを発表し、相互検討を行う。 ＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
		予習90分：教育に関する事

第15回	高校時代までに経験してきた生徒指導・進路指導と本授業を通して学んだ内容を比較検討し、改めて生徒指導・進路指導のあり方について考える。	象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

『生徒指導提要』（平成23年）『小学校学習指導要領』（平成29年）
『中学校学習指導要領』（平成29年）
岩城孝次・森嶋昭伸『生徒指導の新展開』ミネルヴァ書房
適宜、資料を配付する。

成績評価の方法・基準

定期試験（80%）、授業時のレポート（20%）
単位認定基準50%以上

**課題等に対する
フィードバックの方法**

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室
※授業終了後も、適宜受け付けます。

講義コード	30790001
講義名	生徒指導論（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C452
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

①教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解すると同時に、教育課程全般のなかでの生徒指導の位置づけを理解する。
②集団指導・個別指導また「個人と集団」という概念のもとで、生徒指導について考える。
③子どもの成長発達の段階を踏まえながら、基礎的生活習慣や規範意識の重要性について考える（栄養教諭の立場から）。
④学校教育における体罰、いじめ、不登校、インターネットや性、また児童虐待に関する問題などを具体的に取り上げながら、これらへの対応について考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、身近な生活からグローバルなテーマ、そして社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

生徒指導は、一人ひとりの児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

授業計画

	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	教育課程における生徒指導の位置付けについて理解する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第2回	生徒指導について集団指導と個別指導の実態を踏まえ、その方法原理を理解する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

第3回	・校則の実態を学びながら、なぜ校則が存在し、なぜ必要であるかについて考える。 ・体罰の実態を学びながら、体罰禁止の根拠と懲戒の実施について学び、考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	いじめ（いじめ自殺）についての視聴覚教材を用いて、いじめについて考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	・いじめの構造を理解し、その対応方法（生徒指導）について考える。 ・不登校や暴力行為の生徒指導上の課題や対応の視点について学び、考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	栄養教諭を前提として、基礎的生活習慣の確立や規範意識の醸成に向けた生徒指導について考える。― 朝食欠食問題・不規則な生活習慣などを事例に ―	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	クラスでの生徒指導に関するケース・スタディとグループディスカッション ＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	第７回でのディスカッションをもとに、プレゼンテーションと相互検討。まとめ。＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

『生徒指導提要』（平成22年）『小学校学習指導要領』（平成29年）
『中学校学習指導要領』（平成29年）
岩城孝次・森嶋昭伸『生徒指導の新展開』ミネルヴァ書房
適宜、資料を配付する。

成績評価の方法・基準

定期試験（80%）、授業時のレポート（20%）
単位認定基準50%以上

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室
※授業終了後も、適宜受け付けます。

講義コード	30800001
講義名	教育相談（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CM-C453
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要と教育目標

学校における教育相談について、その目的の理解から入り、徐々に具体的技法や現実の児童生徒を想定した教育相談の在り方を明らかにしていきます。カウンセリングやソーシャルワークの技法にも学びながら、教師の専門性として教育相談が展開されることの意義について理解を深めていきます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学校教育やそれを囲む社会との関係で、教育相談の必要性を理解し、基礎的知識を得るとともに、ディプロマポリシーで重視する実践する際の基礎力を身に付けます。

到達目標

1.教育相談の必要性、学校教育上の位置付けについて理解する。
2.子どもの成長発達上の課題や、それに対する現代社会の影響を踏まえた対応を理解する。
3.教育相談の技法を支える人間観を理解する。
4.教育相談に係わる多様な専門職性を理解し、チームアプローチの基礎的知識を得る。
5.事例を通して、教育相談を実践する基礎を培う。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	1.オリエンテーション 2.教育相談の目的	1.授業のねらい、方法、評価の在り方について 2.なぜ学校が必要で、なぜ学校で教育相談が必要とされるのか アクティブ・ラーニングの内容（上記２について、自己の体験を省みて意見をまとめ、発表を通して学びを共有する）	復習180分
第2回	教育相談の現在	1.広義の教育相談と狭義の教育相談 2.近年の学校教育相談の動向 アクティブ・ラーニングの内容（生徒指導と教育相談の関係を実感できた経験を、グ	生徒指導提要等によって、事前に教育相談と生徒指導の概念間の関係を下調べする。

		ループ間で話し合い、発表を通して学びを共有する）	復習。合計180分
第3回	教育相談の機能と学校内の位置付け	1.学校教育相談の４機能 2.学校内組織における教育相談の位置付け アクティブ・ラーニングの内容（自己の体験を上記１の４機能に分けてワークシートにまとめる）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第4回	教育相談の基本姿勢	1.心理的事実の受容・共感と客観的指導 2.教育相談の「心」 アクティブ・ラーニングの内容（グループ・ワークにより受容と共感を体験的に学ぶ）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第5回	教育相談の理論と技法	1.理論と技法に関する基礎知識の必要性 2.主な理論と技法に学ぶ アクティブ・ラーニングの内容（上記２について、個々人でワークシートに整理する）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第6回	児童生徒理解とは何か	1.意義と分類 2.児童生徒理解の基本姿勢と具体的方法 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第7回	児童生徒の一般的理解	1.一般的理解の必要性 2.心に関わる疾病・障害・行動特性・言動 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第8回	発達段階の理解	1.「発達」という概念の特徴 2.発達課題の考え方 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第9回	児童生徒理解の手法	1.「みる」「きく」ことによる理解 2.「探る」ための基礎知識 アクティブ・ラーニングの内容（心理テストを体験し、その結果について自己分析し、効果と感想をワークシートにまとめる）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第10回	校内教育相談体制の構築	1.管理職の役割と可能性 2.校内教育相談体制と担任の役割 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第11回	教育相談の組織的展開	1.異なる専門職との連携 2.専門機関との連携 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第12回	教育相談に必要な法令解釈	1.教育相談と法令 2.専門団体の倫理規定と校内の申し合わせ アクティブ・ラーニングの内容（当該主題に関する教員採用試験既出問題を各自が解いて提出する）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
		1.	

第13回	開発的・予防的教育相談	自尊感情を育て、共感力を高める支援 2.相互支援を進め、集団成長を促す アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第14回	問題解決的教育相談	1.発達障害のある児童生徒への対応 2.多様化する問題への対応 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第15回	これからの教育相談	1.授業のまとめ 2.小試験による学習効果の自己確認	復習180分

教科書

使用しません。授業中、必要に応じてプリント等を配布いたします。但し、下記「参考書」に示した『生徒指導提要』は予習復習に活用できますので、用意することを強く推奨します。

参考書

文部科学省『生徒指導提要』2010年、文部科学省「児童生徒の教育相談の充実について（報告）」（以上の2点は、文科省HPから入手可能）、島崎政男『入門 学校教育相談』学事出版2014年。

成績評価の方法・基準

50点以上の評価で単位を認定します。評価の割合は、授業中に数回実施予定の確認テストで50%、授業最終回のまとめの後に実施する試験によって50%です。欠席、遅刻、早退、課題の未提出等は減点の対象とします。詳細は、初回授業オリエンテーションにおいて説明します。

課題等に対するフィードバックの方法

授業内容の予習・復習を中心とした自主的な学びが必要となります。

履修のポイント

「教育相談」の原理的理解に努めながらも、同時に、児童生徒の多様な状況・生活背景等を想像することが重要です。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じます。また、文章で質問してくだされば、次回の授業時で回答をお渡しします。

講義コード	30810001
講義名	教職実践演習（中）（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CM-C472
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	田口 和人	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし
教員	野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習の実施を踏まえて、学校教育のさまざまな場面で、教育者として対応できる実践力を養う。具体的には、栄養学、生活科学、芸術学の各教科の壁を取り払ったうえで、①食とパッケージデザイン作品づくり、②自己表現の表現方法の学び、③教員としての資質向上に関する議論などを行う。履修カルテにより、教員としての実践的な能力を個別に把握し、個々の学生の教育指導力を高める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この演習では教育職という専門性の高い仕事について理解を深める。また栄養教諭になるための、実践的な指導能力を養う。教職科目のひとつであるが、生活科学科の教育目的・目標にある「実践を重視し、『健康』『栄養』の分野で活躍できる人材を育成する」点にもかかわる。みずから進んで、課題解決に努力したか、他の学生と協調してレシピや作品づくりに取り組めたか、グループ内でアイデアを出し合い、それを発表できるまでの形にできたかを問う。

到達目標

教職課程のいくつかの教科の中で総まとめの科目に相当するので、教職課程の講義や実習を総合的に振り返り、小中学校における教育の理念や、各教科の教育方法について学んだことをまとめる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	教職実践演習のガイダンスを行う。演習内容を理解し、小中学校での教育理念について理解する。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。
	オリジ	学生自身を鼓舞する思考、理想とする生き方を、一枚の模造紙に色彩豊かに表現す	予習として90分、オリジナルビジョンボードの作り方を配

第2回	ナルビジョンボード	る。＜アクティブラーニング＞学生自身の「ビジョンボード」を作成し、他の学生に口頭で説明する。	布するので、事前に写真やイラストなどを準備する。復習として90分、模造紙に自分の意見を補足する。
第3回	子どもの貧困と学校教育	現代日本社会にみられる貧困問題を確認する。＜アクティブラーニング＞学校教育の現場で貧困に苦しむ子どもたちにできる援助を考える。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。
第4回	教育実習報告と意見交換①	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。＜アクティブラーニング＞実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	教育実習ノートを見直し、反省点等を補足する。予習に90分。復習に90分。
第5回	教育実習報告と意見交換②	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。＜アクティブラーニング＞実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	教育実習ノートを見直し、反省点等を補足する。予習に90分。復習に90分。予習に90分、
第6回	教育実習報告と意見交換③	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。＜アクティブラーニング＞実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	教育実習ノートを見直し、反省点等を補足する。予習に90分。復習に90分。
第7回	教育実習報告と意見交換④	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。＜アクティブラーニング＞実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	教育実習ノートを見直し、反省点等を補足する。予習に90分。復習に90分。
第8回	映画『学校Ⅱ』の視聴①	特別支援教育の実際の現場を知る。	事前に映画『学校Ⅰ』を視聴しておく。
第9回	映画『学校Ⅱ』の視聴②	特別支援教育の問題点や改善点について自分なりの意見をまとめる。＜アクティブラーニング＞特別支援の問題点を探り、改善策を発表する。	『学校Ⅱ』を通して学んだ特別支援教育についてレポートにまとめる。
第10回	合同企画「食とパッケージ」デザイン①	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が強力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。＜アクティブラーニング＞１回目は、グループ分けと作品の素案作りを行う。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。
第11回	合同企画「食とパッケージ」デザイン②	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が強力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。＜アクティブラーニング＞２回目は、具体的なレシピとパッケージの形を決め、作品を仕上げるまでの計画をたてる。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。
第12回	合同企画「食とパッケー	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が強力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。＜アクティブ	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟

	ジ」デザイン③	ラーニング＞３回目は、学科ごとに分かれて調理実習とパッケージづくりを行う。	読する。
第13回	合同企画「食とパッケージ」デザイン④	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が強力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。＜アクティブラーニング＞４回目は、各グループが作品をもちより、発表と意見交換を行う。	予習に90分、復習に90分。パッケージデザインの合同企画をふり返りレポートを作成し、提出する。
第14回	言葉の力と教育	教育者として、伝えたり、話を聞いたり、理解を促したりするとき、教員と子どもたちのあいだにある「言葉」の秘める作用について考察する。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。
第15回	演習の振り返り	教育にかかわる授業や演習をふり返り、教育実習や演習の授業等を通じて学びや気づき、教育者としての振る舞いに必要なことをまとめる。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。まとめのプリントを提出する。

教科書

必要な時に提示する。

参考書

授業内で、必要な時に提示する。

成績評価の方法・基準

100点満点で、50点以上で単位認定する。形となった作品だけでなく、授業への積極的な取り組み、内容のある相手に伝わる口頭発表を評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは確認後、補足説明やコメントを付して返却する。口頭発表やグループ討議の結果発表を行い、演習の中で随時、教員からコメント等を伝える。この返答をもってフィードバックとみなす。

履修のポイント

演習科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べること、他の学生たちと協力する姿勢で授業に臨むことが大切である。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィスアワーとします。９号館３階の第10研究室に来てください。

講義コード	30820001
講義名	教職実践演習（栄養教諭）（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C473
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	田口 和人	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし
教員	野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習の実施を踏まえて、学校教育のさまざまな場面で、教育者として対応できる実践力を養う。具体的には、栄養学、生活科学、芸術学の各教科の壁を取り払ったうえで、①食とパッケージデザイン作品づくり、②自己表現の表現方法の学び、③教員としての資質向上に関する議論などを行う。履修カルテにより、教員としての実践的な能力を個別に把握し、個々の学生の教育指導力を高める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この演習では教育職という専門性の高い仕事について理解を深める。また栄養教諭になるための、実践的な指導能力を養う。教職科目のひとつであるが、生活科学科の教育目的・目標にある「実践を重視し、『健康』『栄養』の分野で活躍できる人材を育成する」点にもかかわる。みずから進んで、課題解決に努力したか、他の学生と協調してレシピや作品づくりに取り組めたか、グループ内でアイデアを出し合い、それを発表できるまでの形にできたかを問う。

到達目標

教職課程のいくつかの教科の中で総まとめの科目に相当するので、教職課程の講義や実習を総合的に振り返り、小中学校における教育の理念や、各教科の教育方法について学んだことをまとめる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	教職実践演習のガイダンスを行う。演習内容を理解し、小中学校での教育理念について理解する。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。
	オリジ	学生自身を鼓舞する思考、理想とする生き方を、一枚の模造紙に色彩豊かに表現す	予習として90分、オリジナルビジョンボードの作り方を配

第2回	ナルビジョンボード	る。＜アクティブラーニング＞学生自身の「ビジョンボード」を作成し、他の学生に口頭で説明する。	布するので、事前に写真やイラストなどを準備する。復習として90分、模造紙に自分の意見を補足する。
第3回	子どもの貧困と学校教育	現代日本社会にみられる貧困問題を確認する。＜アクティブラーニング＞学校教育の現場で貧困に苦しむ子どもたちにできる援助を考える。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。
第4回	教育実習報告と意見交換①	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。＜アクティブラーニング＞実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	教育実習ノートを見直し、反省点等を補足する。予習に90分。復習に90分。
第5回	教育実習報告と意見交換②	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。＜アクティブラーニング＞実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	教育実習ノートを見直し、反省点等を補足する。予習に90分。復習に90分。予習に90分、
第6回	教育実習報告と意見交換③	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。＜アクティブラーニング＞実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	教育実習ノートを見直し、反省点等を補足する。予習に90分。復習に90分。
第7回	教育実習報告と意見交換④	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。＜アクティブラーニング＞実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	教育実習ノートを見直し、反省点等を補足する。予習に90分。復習に90分。
第8回	映画『学校Ⅱ』の視聴①	特別支援教育の実際の現場を知る。	事前に映画『学校Ⅰ』を視聴しておく。
第9回	映画『学校Ⅱ』の視聴②	特別支援教育の問題点や改善点について自分なりの意見をまとめる。＜アクティブラーニング＞特別支援の問題点を探り、改善策を発表する。	『学校Ⅱ』を通して学んだ特別支援教育についてレポートにまとめる。
第10回	合同企画「食とパッケージ」デザイン①	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が強力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。＜アクティブラーニング＞１回目は、グループ分けと作品の素案作りを行う。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。
第11回	合同企画「食とパッケージ」デザイン②	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が強力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。＜アクティブラーニング＞２回目は、具体的なレシピとパッケージの形を決め、作品を仕上げるまでの計画をたてる。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。
第12回	合同企画「食とパッケー	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が強力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。＜アクティブ	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟

	ジ」デザイン③	ラーニング＞３回目は、学科ごとに分かれて調理実習とパッケージづくりを行う。	読する。
第13回	合同企画「食とパッケージ」デザイン④	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が強力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。＜アクティブラーニング＞４回目は、各グループが作品をもちより、発表と意見交換を行う。	予習に90分、復習に90分。パッケージデザインの合同企画をふり返りレポートを作成し、提出する。
第14回	言葉の力と教育	教育者として、伝えたり、話を聞いたり、理解を促したりするとき、教員と子どもたちのあいだにある「言葉」の秘める作用について考察する。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。
第15回	演習の振り返り	教育にかかわる授業や演習をふり返り、教育実習や演習の授業等を通じて学びや気づき、教育者としての振る舞いに必要なことをまとめる。	予習に90分、復習に90分。事前に配布されたプリントを熟読する。まとめのプリントを提出する。

教科書

必要な時に提示する。

参考書

授業内で、必要な時に提示する。

成績評価の方法・基準

100点満点で、50点以上で単位認定する。形となった作品だけでなく、授業への積極的な取り組み、内容のある相手に伝わる口頭発表を評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは確認後、補足説明やコメントを付して返却する。口頭発表やグループ討議の結果発表を行い、演習の中で随時、教員からコメント等を伝える。この返答をもってフィードバックとみなす。

履修のポイント

演習科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べること、他の学生たちと協力する姿勢で授業に臨むことが大切である。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィスアワーとします。９号館３階の第10研究室に来てください。

講義コード	30830001
講義名	事前・事後指導（家庭）（H30入学生）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C413
学年	1,2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

家庭科教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

家庭科教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 事前指導 Ⅰ	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守） 実習校、日程等個別指導	教育実習に向けて準備に30分
第2回	事前指導 Ⅱ	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化	前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく60分以上
第3回	事前指導 Ⅲ	教材研究の方法 基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）	前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく120分以上
第4回	事前指導 Ⅳ	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導	学習指導案、教材準備等に120分以上

第5回	事前指導 Ⅴ	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導 礼状の書き方	学習指導案、教材準備等に120分以上
第6回	事後指導 Ⅰ	教育実習体験の発表準備	教育実習体験の発表準備のために120分以上
第7回	事後指導 Ⅱ	教育実習体験の発表 アクティブラーニング：模擬授業後、それぞれ授業方法について意見交換をする。	教育実習体験の発表準備 次回の合同報告会の準備
第8回	事後指導 Ⅲ	１，２年生合同 教育実習報告会 アクティブラーニング：報告会後、教育実習に向けて準備や研究授業実施方法について意見交換し発表する。	まとめ（教育実習ノート等の整理）

教科書

必要に応じて資料で対応する

参考書

小学校 学習指導要領の展開 明治図書
家庭科教育法 高陵社書店

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上。レポート・課題等100％

**課題等に対する
フィードバックの方法**

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。
授業への積極的な取り組む態度が 後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日、火曜日 12:30〜13:20(昼休み）および講義終了後 適宜受け付けます。 9号館第7研究室

講義コード	30830003
講義名	事前・事後指導（家庭）（H31入学生）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-F811
学年	1,2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

家庭科教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

家庭科教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 事前指導Ⅰ	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守） 実習校、日程等個別指導	教育実習に向けて準備に30分
第2回	事前指導Ⅱ	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化	前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく60分以上
第3回	事前指導Ⅲ	教材研究の方法 基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）	前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく120分以上
第4回	事前指導Ⅳ	模擬授業の練習 教材作り アクティブラーニング：学習指導案に関する個別指導等を実施する。	学習指導案、教材準備等に120分以上

第5回	事前指導Ⅴ	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導、礼状の書き方 アクティブラーニング：具体的に仮の礼状を書く。	学習指導案、教材準備等に120分以上
第6回	事後指導Ⅰ	教育実習体験の発表準備 アクティブラーニング：各自の教育実習報告を実施し、報告会にむけて準備する。	教育実習体験の発表準備のために120分以上
第7回	事後指導Ⅱ	教育実習体験の発表 アクティブラーニング：各自の教育実習報告を実施する。	教育実習体験の発表準備 次回の合同報告会の準備
第8回	事後指導Ⅲ	１，２年生合同 教育実習報告会	まとめ（教育実習ノート等の整理）

教科書

必要に応じて資料で対応する

参考書

小学校 学習指導要領の展開 明治図書
家庭科教育法 高陵社書店

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上。レポート・課題等100％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。
授業への積極的な取り組む態度が 後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。 9号館第7研究室

講義コード	30840001
講義名	教育実習（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C454
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし
教員	野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

家庭科とは、家庭生活を中心とする人間の生活に必要な諸事項のうち、学校において計画的に指導する必要のあるものを系統的に編集した教科ともいえる。そこで、教育実習では、児童・生徒を取り巻く課題を踏まえ、家庭科教諭としての使命や職務内容の重要性を理解させ、学校において「人間生活に関する指導」が学校教育活動の中で実施できるように試みる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、科学的理解する。そこで教育実習に向けて、積極的な取り組みを望み、教員としての自覚を身に着けることをめざす。

到達目標

家庭科教諭として、児童・生徒の体験・経験を踏まえた授業内容を実践できるような知識、技術を習得する

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 事前指導 Ⅰ	授業計画、評価方法 教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守 実習に臨むにあたっての不安と期待 各自の実習予定と個別指導時間の調整	復習120分以上：教育実習準備
第2回	事前指導 Ⅱ	教育実習日誌の記録方法 アクティブラーニング：より良い教育実習記録日誌を作成するための工夫についての情報交換をする。	予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育実習準備
第3回	事前指導 Ⅲ	教材研究の方法 基本技術（板書、話し方、発問、指名、机間巡視、ノート指導）	予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育実習準備

第4回	事前指導 Ⅳ	模擬授業 学習指導案に関する個別指導	予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育実習準備
第5回	事前指導 Ⅴ	教育実習への準備 礼状の書き方	予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育実習準備
第6回	教育実習	3週間の教育実習	教育実習ノートの記入
第7回	事後指導 Ⅰ	教育実習体験の発表準備 アクティブラーニング：各自の教育実習報告を実施し、反省かにむけての資料の参考にするための情報交換を実施する。	予習60分：教育実習ノートまとめ、 復習120分：発表会（報告会）の準備
第8回	事後指導 Ⅱ	教育実習体験の発表 他者評価と自己反省	予習120分以上：発表会の準備 復習60分：総まとめ

教科書

随時資料の配布

参考書

家庭科教育法 高陵社書店
家庭科の指導 建帛社
新しい家族関係 建帛社
衣生活概論 井上書院

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 課題30%、模擬事業評価30%、レポート40%

課題等に対する
フィードバックの方法

実習ノートは提出後、コメント等を入れて返却する。教育実習に活用できる教材等はノートに添付しておくと良い。

履修のポイント

教育実習を成功させる

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）授業終了後、随時 9号館3階第七研究室

講義コード	30850001
講義名	栄養教育実習事前・事後指導（栄養）30入
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C414
学年	1,2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

栄養教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解し、教育実習を成功させる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 事前指導 Ⅰ	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守） 実習校、日程等個別指導	教育実習に向けて準備に30分
第2回	事前指導 Ⅱ	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化	前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく60分以上
第3回	事前指導 Ⅲ	教材研究の方法 基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）	前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく120分以上
第4回	事前指導 Ⅳ	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導	学習指導案、教材準備等に120分以上

第5回	事前指導 Ⅴ	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導 礼状の書き方 アクティブラーニング：実際に仮の礼状を記入し情報交換をする。	学習指導案、教材準備等に120分以上
第6回	事後指導 Ⅰ	教育実習体験の発表準備	教育実習体験の発表準備のために120分以上
第7回	事後指導 Ⅱ	教育実習体験の発表 アクティブラーニング：各自の教育実習報告をする。次回の報告会への準備として情報交換をする。	教育実習体験の発表準備 次回の合同報告会の準備
第8回	事後指導 Ⅲ	１，２年生合同 教育実習報告会	まとめ（教育実習ノート等の整理）

教科書

栄養教諭論 理論と実際 建帛社
必要に応じて資料で対応する

参考書

栄養教諭はなにをすべきか ぎょうせい
栄養教諭 養成における 実習の手引き 東山書房
新時代の栄養教諭実践 同文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上。レポート・課題等100％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却後学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。
授業への積極的な取り組む態度が 後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12：30～13：20（昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。 9号館第7研究室

講義コード	30850003
講義名	栄養教育実習事前・事後指導（栄養）31入
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C414
学年	1,2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

栄養教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解し、教育実習を成功させる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション事前指導 Ⅰ	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守） 実習校、日程等個別指導	教育実習に向けて準備に30分
第2回	事前指導 Ⅱ	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化	前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく60分以上
第3回	事前指導 Ⅲ	教材研究の方法 基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）	前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく120分以上
第4回	事前指導 Ⅳ	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導	学習指導案、教材準備等に120分以上

第5回	事前指導 Ⅴ	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導 礼状の書き方 アクティブラーニング：実際に仮の礼状を作成し情報交換をする。	学習指導案、教材準備等に120分以上
第6回	事後指導 Ⅰ	教育実習体験の発表準備	教育実習体験の発表準備のために120分以上
第7回	事後指導 Ⅱ	教育実習体験の発表 アクティブラーニング：各自の教育実習報告を実施し、より良い用報告会のための準備のための情報交換を実施する。	教育実習体験の発表準備 次回の合同報告会の準備
第8回	事後指導 Ⅲ	１，２年生合同 教育実習報告会	まとめ（教育実習ノート等の整理）

教科書

栄養教諭論 理論と実際 建帛社
必要に応じて資料で対応する

参考書

栄養教諭はなにをすべきか ぎょうせい
栄養教諭 養成における 実習の手引き 東山書房
新時代の栄養教諭実践 同文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上。レポート・課題等100％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却後学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。
授業への積極的な取り組む態度が 後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。 9号館第7研究室

講義コード	30860001
講義名	栄養教育実習（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CS-C474
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし
教員	野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身につけ、人間の生活に必要な諸事項のうち、学校において計画的に指導する必要のあるものを系統的に実施する。そこで、教育実習では、児童・生徒を取り巻く課題を踏まえ、栄養教諭としての使命や職務内容の重要性を理解させ、学校において「人間生活に関する指導」が学校教育活動の中で実施できるように試みる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる事柄について、現場で実践的に活用し、問題を解決できる能力を修得する。将来的には食の専門家として社会で生かせることをめざす。

到達目標

栄養教育実習に対応できる資質・知識を身につける。児童・生徒の体験・経験を踏まえた授業内容を実践できるような知識、技術を習得する。
児童生徒との関わりを方を理解し、教育実習を成功させることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 事前指導 Ⅰ	○授業計画、評価方法 ○教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守 ○実習に臨むにあたっての不安と期待 ○各自の実習予定と個別指導時間の調整	復習120分以上：教育実習準備
第2回	事前指導 Ⅱ	○教育実習日誌の記録方法 アクティブラーニング：より良い教育実習日誌の書き方につて情報交換をする。	予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育実習準備
第3回	事前指	○教材研究の方法 ○基本技術（板書、話し方、発問、指名、机間	予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：

	導 Ⅲ	巡視、ノート指導）	教育実習準備
第4回	事前指導 Ⅳ	○模擬授業 ○学習指導案に関する個別指導	予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育実習準備
第5回	事前指導 Ⅴ	○教育実習への準備 ○礼状の書き方	予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育実習準備
第6回	教育実習	1週間（5日間）の教育実習	教育実習ノートの記入
第7回	事後指導 Ⅰ	○教育実習体験の発表準備 アクティブラーニング：各自の教育実習報告をする。またより良い報告会のための準備としての意見交換を実施する。	予習60分：教育実習ノートまとめ、 復習120分：発表会（報告会）の準備
第8回	事後指導 Ⅱ	○教育実習体験の発表 ○他者評価と自己反省	予習120分以上：発表会の準備 復習60分：総まとめ

教科書

随時資料の配布

参考書

栄養教諭は何をすべきか ぎょうせい
栄耀教諭 養成における 実習の手引き 東山書房
新時代の栄養教育実践 同文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 課題・レポート等で100％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で課題やレポートを課すことがあるので、返却後の学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対応につながるので積極的な取り組む姿勢が教育実習を成功させるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12：30～13：20（昼休み）または授業終了後、随時 9号館3階第七研究室

講義コード	30870001
講義名	介護等体験実習（家庭）（H31入）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CM-C435
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし
教員	橋爪 博幸	指定なし
教員	野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

教職免許を取得するにあたり、「社会福祉施設等において障害者、高齢者等に対する介護や介助、交流等の体験」が義務づけられています。この主旨は、教員を志望する者が介護等の体験を通じて、「個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深めること」により、教員としての資質の向上を図ろうとするところにあります。この主旨を十分に理解して、「体験実習」に望むこと。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

社会的弱者の存在や生活を認識・了解した教員像をめざすにあたり、①豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員、②幅広い視野と高い専門性を有する教員、③社会人としての優れた識見を有する教員、の三つの観点を到達目標とします。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	介護等体験実習事前指導	社会福祉施設等での障害者・高齢者の実情を踏まえ、介護や介助、交流等について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第2回	介護等体験実習	社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第3回	介護等体験実習	社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと

			行なう。
第4回	介護等体験実習	社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第5回	介護等体験実習	社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第6回	介護等体験実習の報告会	5日間の体験実習について報告する。	報告の準備をする。他の報告者の話を聞く。
第7回	介護等体験実習事前指導	特別支援学校での児童・生徒の学習や生活について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第8回	介護等体験実習（特別支援学校）	特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第9回	介護等体験実習（特別支援学校）	特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第10回	介護等体験実習（特別支援学校）報告	2日間の体験実習についてレポートを提出する。	体験自習をよく振り返ること。

教科書
事前指導においては、資料を配付します。
参考書
『新版・よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会 『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編
成績評価の方法・基準
体験実習先の評価による。
課題等に対する フィードバックの方法
実習ノートを返却するので、それをもとに体験実習を振り返る。
履修のポイント
主体的、対話的で深い学びを期待します。
オフィス・アワー
火曜日・木曜日12：30～13：20（昼休み） 11号館第７研究室

講義コード	30870002
講義名	介護等体験実習（家庭）（H30入）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	CM-C435
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし
教員	橋爪 博幸	指定なし
教員	野口 周一	指定なし

授業の概要と教育目標

教職免許を取得するにあたり、「社会福祉施設等において障害者、高齢者等に対する介護や介助、交流等の体験」が義務づけられています。この主旨は、教員を志望する者が介護等の体験を通じて、「個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深めること」により、教員としての資質の向上を図ろうとするところにあります。この主旨を十分に理解して、「体験実習」に望むこと。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

社会的弱者の存在や生活を認識・了解した教員像をめざすにあたり、①豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員、②幅広い視野と高い専門性を有する教員、③社会人としての優れた識見を有する教員、の三つの観点を到達目標とします。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	介護等体験実習事前指導	社会福祉施設等での障害者・高齢者の実情を踏まえ、介護や介助、交流等について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第2回	介護等体験実習	社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第3回	介護等体験実習	社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと

			行なう。
第4回	介護等体験実習	社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第5回	介護等体験実習	社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第6回	介護等体験実習の報告会	5日間の体験実習について報告する。	報告の準備をする。他の報告者の話を聞く。
第7回	介護等体験実習事前指導	特別支援学校での児童・生徒の学習や生活について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第8回	介護等体験実習（特別支援学校）	特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第9回	介護等体験実習（特別支援学校）	特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第10回	介護等体験実習（特別支援学校）報告	2日間の体験実習についてレポートを提出する。	体験自習をよく振り返ること。

教科書
事前指導においては、資料を配付します。
参考書
『新版・よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会 『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編
成績評価の方法・基準
体験実習先の評価による。
課題等に対する フィードバックの方法
実習ノートを返却するので、それをもとに体験実習を振り返る。
履修のポイント
主体的、対話的で深い学びを期待します。
オフィス・アワー
火曜日・木曜日12：30～13：20（昼休み） 11号館第７研究室